

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第65集

きよ す じょう か まち い せき  
**清洲城下町遺跡 VI**

1996

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター



SD01 出土遺物



墨書土師器皿

## 序

（財）愛知県埋蔵文化財センターは平成7年度に創立10周年の記念行事をおこない、新たな歴史を歩み出しました。振り返れば、この10年は東海地方屈指の弥生集落である朝日遺跡と、戦国時代における尾張の中心地である清洲城下町遺跡の発掘調査が、本センターの主要な事業であったと言えます。地理的には隣接する位置にある二遺跡ですが、古くから朝日遺跡が多く研究者、歴史に関心のある方々の注目を集め続けていたのに対し、清洲城下町遺跡は考古学の研究対象として扱われていなかったという、全く異なった環境におかれた遺跡でした。10年の年月がこの環境の差をすべて払拭したとは思いませんが、多くの発掘成果によって、清須城とその城下町に暮らした人間の生活が徐々に明らかになりつつあり、文献史学からのアプローチ、地理学的なアプローチ、自然科学的なアプローチなど、考古学以外の研究も盛んにおこなわれるようになりました。まだまだ歴史の浅い研究分野ではありますが、それゆえに多くの成果が期待でき、さらなる発展のエネルギーを感じることも事実です。本書に掲載した調査結果が学術的に重要なものとして、地域の歴史研究に利用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり、地元住民の方々をはじめ、関係者及び関係諸機関の御理解と御協力をいただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

平成8年8月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター  
理事長 安部 功

## 例 言

1. 本書は愛知県西春日井郡清洲町に所在する清洲城下町遺跡（遺跡番号21002：『愛知県遺跡分布地図Ⅰ（尾張地区）』1986）の調査報告書である。
2. 調査は県道清洲新川線の街路新設改良事業、街路立体交差工事に伴う事前調査として実施し、愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託をうけ、平成5年7月から平成5年9月まで財団法人愛知県埋蔵文化財センターが行った。
3. 調査には大竹正吾（本センター主査、現愛知県海部郡佐織町立西川端小学校教諭）蟹江吉弘（同調査研究員）があたり、小西恵子（発掘調査補助員）の協力を得た。
4. 調査、報告書の作成にあたっては次の各関係機関の御協力を得た。  
愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県土木部、清洲町教育委員会
5. 調査、報告書の作成にあたっては次の方々の御教示、御協力があった。  
内堀信雄、遠藤才文、尾野善裕、金子健一、佐藤公保、下村信博、立松彰、中野晴久、藤澤良祐、森達也（順不同、敬称略）。
6. 報告書作成に関わる整理作業には蟹江吉弘があたり、河合明美、高田恵理子、織田眞弓（以上、調査研究補助員）、加藤豊子、玉作美智子、服部英子、平野みどり、本所千恵子、本多恵子、山本律子（以上、整理補助員）、杉山美智子、小嶋洋子、（以上、整理作業員）の協力を得た。なお遺物の写真撮影については、深川進氏の手を煩わせた（敬称略）。
7. 本書の執筆は、蟹江吉弘、堀本真美子（本センター調査研究員）、織田眞弓、高田恵理子が担当し、全体の編集は蟹江が担当した。なお各執筆分担者名は目次に記した。
8. 註、参考文献については原則的に各節末に記した。
9. 遺構埋土の土色については1989年度版『新版標準土色帖』小山正忠、竹原秀雄編著を参考に記述した。
10. 調査記録の座標は、国土座標第Ⅷ系に準拠する。
11. 調査記録及び出土品は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24

電話番号 0567-67-4164



# 目 次

第1章 はじめに .....	1
第1節 調査の経緯 .....	(蟹江) ... 1
第2節 調査の概要 .....	(蟹江) ... 2
第2章 遺 構 .....	3
第1節 基本層序 .....	(蟹江) ... 3
第2節 戦国期の遺構 .....	(蟹江) ... 3
第3節 戦国期以外の遺構 .....	(蟹江) ... 5
第4節 立会い調査で確認された遺構 .....	(蟹江) ... 7
第3章 遺 物 .....	9
第1節 出土遺物の整理と分析方法 .....	(蟹江) ... 9
第2節 調査区(93D区)全体のカウント結果(概要) .....	(蟹江) ... 14
第3節 SD01出土遺物 .....	(蟹江) ... 15
第4節 その他の遺構出土の遺物 .....	(蟹江) ... 37
第5節 土師器皿の使用痕 .....	(蟹江) ... 39
第6節 加工円盤・陶丸・土錘 .....	(織田) ... 44
第7節 木製品 .....	(高田) ... 47
第8節 石製品 .....	(蟹江) ... 53
第9節 金属製品 .....	(蟹江) ... 53
第10節 戦国期以前の遺物 .....	(蟹江) ... 54
第11節 立会い調査で出土した遺物 .....	(蟹江) ... 55
第4章 自然科学 .....	57
第1節 獣骨類 .....	(堀木) ... 57
第5章 まとめ .....	59
第1節 遺構の性格 .....	(蟹江) ... 59
第2節 出土遺物とその所属時期 .....	(蟹江) ... 60
第3節 土師器皿の製作技法について .....	(蟹江) ... 66
付 表 .....	73
遺構図版・写真図版	
報告書抄録	

## 挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	遺跡の現況図	2
第3図	地籍図	2
第4図	SD01遺構実測図	4
第5図	SD01セクション図	4
第6図	調査区北半遺構実測図	6
第7図	SE01・SD02・SK02セクション図	6
第8図	調査区及び北東部立会い調査遺構図	8
第9図	瀬戸美濃窯産陶器器種分類図	12
第10図	天目茶碗・搦鉢器形分類図	13
第11図	土師器器種分類図	13
第12図	田中町北部地区における調査区1㎡あたりの遺物出土量	14
第13図	93D区産地・材質別組成図	14
第14図	93D区瀬戸美濃窯産陶器組成図	14
第15図	瀬戸美濃窯産陶器碗組成図	15
第16図	遺物実測図(1) (SD01瀬戸美濃窯産陶器碗)	16
第17図	瀬戸美濃窯産陶器皿組成図	17
第18図	遺物実測図(2) (SD01瀬戸美濃窯産陶器皿)	18
第19図	瀬戸美濃窯産陶器搦鉢分類(口縁部形)組成図	19
第20図	遺物実測図(3) (SD01瀬戸美濃窯産陶器平鉢・大皿・搦鉢)	20
第21図	遺物実測図(4) (SD01瀬戸美濃窯産陶器搦鉢)	21
第22図	瀬戸美濃窯産陶器大形製品組成図	23
第23図	編年対照図	23
第24図	遺物実測図(5) (SD01瀬戸美濃窯産陶器小形製品・香炉・鍋釜・その他・大形製品)	24
第25図	遺物実測図(6) (SD01瀬戸美濃窯産陶器大形製品)	25
第26図	土師器皿組成図	27
第27図	ロクロ調整土師器皿分類別組成図	27
第28図	非ロクロ調整土師器皿分類別組成図	27
第29図	ロクロ調整土師器皿口径別頻度図	27
第30図	非ロクロ調整土師器皿口径別頻度図	27
第31図	遺物実測図(7) (SD01ロクロ調整土師器皿)	28
第32図	遺物実測図(8) (SD01ロクロ調整土師器皿)	29
第33図	遺物実測図(9) (SD01非ロクロ調整土師器皿)	30
第34図	土師器鍋・釜組成図	31
第35図	内耳鍋口径別頻度図	31
第36図	遺物実測図(10) (SD01土師器鍋・釜)	32
第37図	遺物実測図(11) (SD01土師器鍋・釜)	33

第38図	遺物実測図02 (SD01瓦器・常滑窯産陶器)	34
第39図	遺物実測図03 (SD01中国窯産陶磁器・その他)	36
第40図	遺物実測図04 (SD02・SK02・SK03)	38
第41図	遺物実測図05 (土師器皿使用痕：墨書)	41
第42図	遺物実測図06 (土師器皿使用痕：墨書)	42
第43図	遺物実測図07 (土師器皿使用痕：墨書、穿孔、タール付着)	43
第44図	遺物実測図08 (加工円盤)	45
第45図	遺物実測図09 (陶丸・土錘)	46
第46図	遺物実測図20 (木製品)	49
第47図	遺物実測図21 (木製品)	50
第48図	遺物実測図22 (木製品)	51
第49図	遺物実測図23 (木製品)	52
第50図	遺物実測図24 (石製品)	53
第51図	遺物実測図25 (金属製品)	53
第52図	遺物実測図26 (戦国期以前の遺物)	54
第53図	遺物実測図27 (立会い調査で出土した遺物)	55
第54図	遺物実測図28 (立会い調査で出土した遺物)	56
第55図	獣骨実測図	58
第56図	清洲城下町遺跡93D区SD01出土遺物所属時期対照図	61
第57図	土師器皿製作技法(遺物実測図・写真)	68
第58図	清洲城下町遺跡・岩倉城遺跡出土土師器皿口径頻度図	70
第59図	清洲城下町遺跡・岩倉城遺跡出土土師器皿底径頻度図	70

## 表 目 次

表1	播鉢口縁部形分類表	19
表2	青花文様一覧表	35
表3	SD02・SK02・SK03城下町期陶磁器・土師器出土量	38
表4	SD02・SK02・SK03瀬戸美濃窯産陶器出土量	38
表5	SD02・SK02・SK03土師器皿出土量	38
表6	ロクロ調整土師器皿 使用痕一覧表	40
表7	非ロクロ調整土師器皿 使用痕一覧表	40
表8	墨書土師器皿口径別頻度表	40
表9	タール付着土師器皿口径別頻度表	40
表10	墨書土師器皿一覧表	40
表11	清洲城下町遺跡93D区出土遺物集計表(1)	62
表12	清洲城下町遺跡93D区出土遺物集計表(2)	63
表13	清洲城下町遺跡93D区出土遺物集計表(3)	64
表14	清洲城下町遺跡93D区出土遺物集計表(4)	65

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の経緯

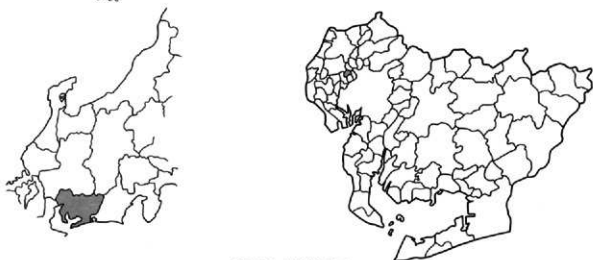
清洲城下町遺跡は、木曾川の分流五条川の中流域に所在し、行政的には西春日井郡清洲町に位置する。発掘調査は昭和57年度に始まり、平成6年度までに約6万平方メートルが実施されている。この間の調査経緯については「清洲城下町遺跡Ⅳ」<sup>1)</sup>に詳しく記されているため省略するが、出土遺物も数十万点を数える巨大遺跡である。

周知のとおり、「清須」は守護所が設置された文明8年(1476)以来、歴史の舞台に登場する。織田信長が清須入城を果たす弘治元年(1555)から、彼が尾張統一から全国統一への足掛りを築いた時期を経て名古屋城建設にともなう移転、いわゆる「清須越し」までは、まさしく尾張の中心地として繁栄し、その後も美濃街道沿いの宿場町として栄えたようである。一般に「清洲城下町遺跡」という名称からは上記の時代、つまり戦国時代から江戸時代が連想されるが、発掘調査の成果から古代や中世の遺構・遺物も数多く確認され、幅広い時代の複合遺跡であることが判明している。また昭和61年以来実施されている五条川の河川改修関連の発掘調査や、県道新川清洲線、清洲新川線の建設にともなう発掘調査の成果を考慮すると、五条川の自然堤防上に中世から近世の遺構が集中し、自然堤防と後背湿地の変換点付近に古代の遺構が多く見られる傾向がある。

さて、今回の調査地点は五条川左岸の自然堤防の縁辺部に位置する。県道清洲新川線の街路新設改良事業、街路立体交差工事にともない平成5年7月下旬から9月下旬までの約2ヶ月間で500㎡を調査した。なお調査区が所在する田中町北部地区<sup>2)</sup>は、過去に(財)愛知県埋蔵文化財センターによって5地点が調査され<sup>3)</sup>、清洲町教育委員会によって2地点が調査されている<sup>4)</sup>。

註

- 1) 加藤安信1994「調査の経緯」および鈴木正貴1994「調査成果と遺跡の研究」「清洲城下町遺跡Ⅳ」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集第1章第1節・第2節
- 2) 鈴木正貴編1995「清洲城下町遺跡Ⅴ」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集では遺跡を12地区に分けており、JR東海道線以北の五条川左岸が田中町北部地区とされる。
- 3) 鈴木正貴編1994「清洲城下町遺跡Ⅳ」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集で報告された62G・62M・63A・90A・93B区の5地点。
- 4) 2地点のうち大和製本地点については梅本博志編1987「清洲城下町遺跡Ⅰ」清洲町教育委員会が刊行されている。



第1図 遺跡位置図

## 第2節 調査の概要

調査区は、県道清洲新川線とＪＲ東海道本線・同新幹線が交差する地点の立体交差工事に関連し、調査後は深さ数mまで掘削されるため、調査区の周囲はシートパイル（矢板）が打ち込まれた。発掘調査は7月上旬から準備を進め、7月下旬から9月下旬までの期間で調査した。なお、調査区の北東に隣接する地点やＪＲ東海道本線・同新幹線の南地点については県道建設にともなう立会い調査を実施した（第2章第4節参照）。

調査の結果、確認された遺構は溝3条、土坑2基、井戸2基である。特にほぼ南北の主軸方位を有する溝SD01は幅7.86m、深さ1.20mを測る。溝にあたる部分は明治17年作成の地籍図に畑地として記載されており、一般に大きな溝や堀の跡は水田として使用される土地利用のありかたとは異なる。さらに溝の規模、清洲町教育委員会や愛知県埋蔵文化財センターの過年度調査成果などから、この遺構は大型方形区画（方形居館）の一部である可能性が高い。出土遺物は埋土中～下層に集積し、部分的には「遺物層」といった状況であった。土師器皿が全体の9割を占め、墨書が施されたものも多く出土するなど、他地点とは異なった遺物の様相を呈する。さらに獣骨、人骨、木製品の残存状況も良好であった。出土遺物は15世紀後半～16世紀前半に所属するものが主体であり、城下町前期の良好な資料を得ることができた。



第2図 遺跡の現況図(国土地理院 1:25000 名古屋北部より)



第3図 地籍図(愛知県公文書館所蔵 地籍図の一部を改変して作成)  
S≒1:5000

## 第2章 遺構

### 第1節 基本層序

**自然環境** 木曾川、長良川、揖斐川の downstream に広がる濃尾平野は日本を代表する沖積平野である。この平野は、山地から伊勢湾に向かって扇状地堆積帯、自然堤防・後背湿地帯、デルタ性平野と様相を変えている。自然堤防及び後背湿地は木曾川の旧流路沿いに発達し、流路の変化によって複雑に錯綜している。清洲城下町遺跡は木曾川の主要な分流の一つ、五条川中流域の自然堤防及び後背湿地に展開する。

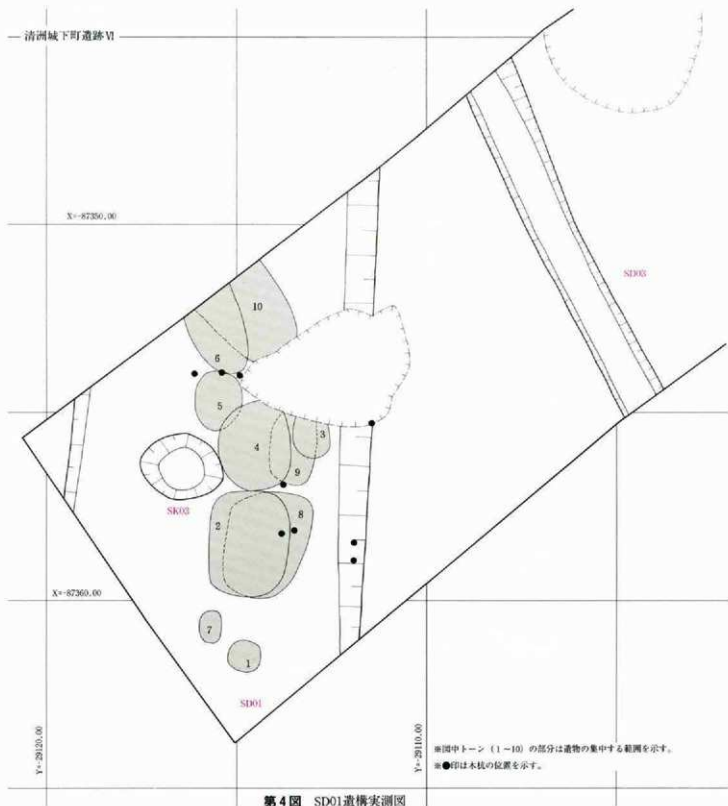
**層序** 調査地点は、五条川左岸の自然堤防の東端にあたり、過去の道路建設にともなう路床入れ換えで標高2m前後の深さまで攪乱されている。このため路床の砂利層を取り除くと直ちに遺構面が現れる。したがって基本的な層位は、基盤層が灰色細粒砂 (5Y6/1) ～にぶい黄橙色中粒砂 (10YR7/4) でありその上に一部灰色粘土・シルト質粘土 (5Y4/1) の堆積がみられること以外不明である。

過年度調査地点の層序を参考にすれば、五条川左岸の自然堤防上における基本層序は標高4～5mに黄褐色シルトがあり、宿場町期の遺構が掘り込まれる。城下町期の遺構は標高3.5～3.9m前後の黄褐色シルト層の直上で確認でき、この層の下にある淡灰褐色～暗灰色シルトの直上で古代の遺構が検出できる。今回の調査区では古代の遺構面より上ですべて失われていることが想定され、したがって検出した城下町期の遺構の幅、深さは当時のそれとかなり差があることを考えておく必要がある。

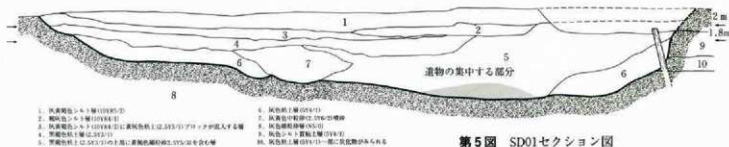
### 第2節 戦国期の遺構

**溝** SD01

調査区西端で検出した南北方向の溝。上層の削平にもかかわらず幅7.86m、深さ1.20mを測り、断面箱形に掘削され、堀形及び溝中に計9本の木杭が確認された。埋土は上部から1. 灰黄褐色シルト層 (10YR5/2)、2. 褐灰色シルト層 (10YR4/1)、3. 灰黄褐色シルト (10YR4/2) に黄灰色粘土 (2.5Y5/1) ブロックが混入する層、4. 黒褐色粘土層 (2.5Y3/1)、5. 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) の上部に黄褐色細粒砂 (2.5Y5/3) を含む層、6. 灰色粘土層 (5Y4/1) の順に堆積し、4の層の直下に灰黄色中粒砂 (2.5Y6/2) の噴砂がみられる。遺物は5の層の下位から非常に多く出土し、部分的には層厚30cm程の「遺物層」になっている。遺物は6の層が堆積した後に溝の西側から一時期に投棄された様相を呈しており、その後この溝は短期間のうちに2の層まで埋められたようである。出土遺物の時期は概ね城下町前期期を中心としており、1の層からは後出的な遺物も出土する。この遺構は区画溝であると推察され、その規模 (削平を受けなければ幅10m程になろう) や遺物量、遺物廃棄の方向性などから、溝の西側に城主もしくはそれに次ぐ地位をもつ人物の屋敷地があったことを想定できる。



第4図 SD01遺構実測図



第5図 SD01セクション図

## SD02

調査区北端で検出された東西方向の溝。上層はかなり削平されているが、溝幅215cm、深さ64cmを測る。断面形状は上部が皿状で下部がややV字に掘削されており、黄灰色粘土(2.5Y4/1)が堆積する。出土遺物は少量ながら城下町前期に所属する陶器類と漆器である。SD01とはほぼ同時期の遺構であり、直交する主軸方位を有することなどから、SD01による区画の東に位置する別区画が推定される。

## 土 坑 SK01

調査区北端部で検出された円形土坑。長軸190cm、短軸175cm、深さ19cmを測り、断面皿状に掘削されている。埋土は灰色粘土(5Y4/1)である。出土遺物は少量であり、細片が多いため詳細な所属時期の検討は不可能だが、戦国期の遺構であろう。

## SK02

調査区中央やや北よりで確認された円形土坑。長軸100cm、短軸98cm、深さ32cmを測る。竹を編んだザル状の遺物が置かれ、その直下に幅2mm程の竹を格子に組み、漆紙を貼った遺物が残存していた。埋土は灰色粘土(5Y4/1)である。出土遺物は少量ながら大塚期の遺物が出土している。

## SK03

SD01の直下で確認された楕円形の土坑。長軸222cm、短軸176cm、深さ30cmを測り、灰色粘土(7.5Y4/1)が堆積する。出土遺物は土師器皿を主体とし、大塚I期に所属する陶器類であり、SD01のそれと変わらない。埋土もSD01最下層とはほぼ同一であることから、SD01最下部の窪みとしてとらえるべきかもしれない。

## 第3節 戦国期以外の遺構

## 溝

## SD03

調査区中央部で検出された幅120cm、深さ20cmを測り、N-23°-Wの方位を有する溝。埋土は灰色粘土(7.5Y4/1)であり、部分的に炭化物を含む。出土遺物は皆無であり所属時期は不明である。

## 井 戸 SE01

調査区北端で検出された円形の平面プランを有する井戸。長軸146cm、短軸132cm、深さ60cmを測る。埋土は上部から灰色粘土(7.5Y4/1)、灰色粘土(10Y4/1)、灰色粘土(5Y5/1)にベス層である灰色細粒砂(5Y6/1)が混入する層の3層が堆積する。内部構造物として曲物が5段残存しており、最も残存状態の良い最下段の曲物で、径34cm、高さ27cmであった。出土遺物は少量ながら北部系の灰軸系陶器が出土している。



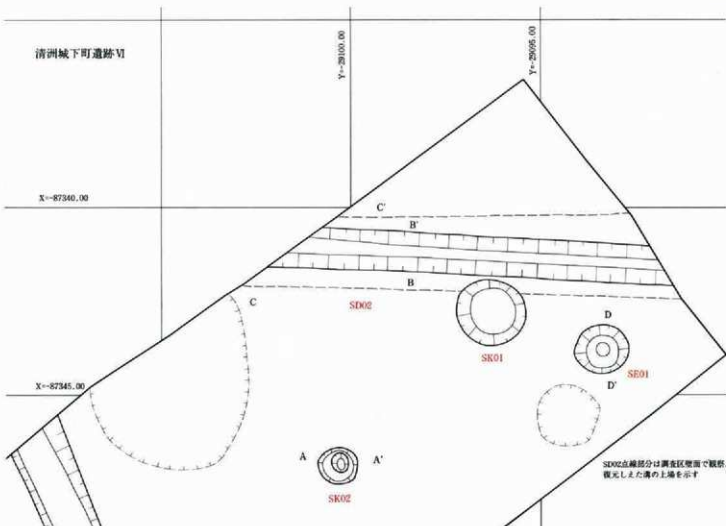
清洲城下町遺跡Ⅶ

Y=29100.00

Y=29095.00

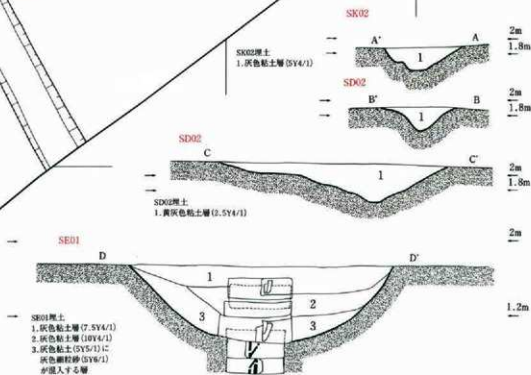
X=87340.00

X=87345.00



SD02点線部分は調査区外周で観察  
視えしえた溝の上端を示す

第6図 調査区北半遺構実測図



第7図 SE01・SD02・SK02セクション図

## 第4節 立会い調査で確認された遺構

調査区の北東に隣接する道路建設予定部分と調査区やJR東海道本線・同新幹線の南は立会い調査が実施され、溝・井戸・土坑が確認された。調査の性格上、正確な測量もできなかったが、限られた時間のなかで可能な限り記録を残した。なお、便宜的に調査区名を93E・93F区として報告する。

### 93E区（93D区北東隣接部分）

溝

## SD04

幅140cm、深さ40cmを測り、ほぼ東西方向の主軸を有する。この溝は93D区のSD02の続きであろう。埋土は黄灰色粘土であり、漆器の細片が出土している。

## SD05

SD04との間に約260cmの間隔を有する。幅、深さ、埋土ともSD04と同一であるが、出土遺物はなかった。SD04・05は出入り口を有する屋敷地の区画溝の可能性が高い。

## SD06

幅150cm、深さ40cmを測り、埋土は黄灰色粘土である。SD04・05と約310cmの間隔を有し、平行にはしる。出土遺物は北部系灰釉系陶器の細片のみであった。この溝は北側に展開する屋敷地の区画溝の可能性が高く、SD04・05との間には「道」が想定できる。

## SD07

幅60cm、深さ30cmを測り、N-20°-Wの主軸方位を有する。暗褐色粘土が堆積し、出土遺物は皆無である。SD06によって一部を破壊されており、新旧関係が把握できる。

井戸・土坑

## 井戸・土坑

確認された4基のうち、内部構造物をともなう遺構はSE02・03である。SE02は径約100cmの円形掘形を有し、内部に縦板22枚を円形に配した結桶井戸である。SE03は径約70cmの円形掘形を有する。内部構造物の遺存状態は不良であったが結桶井戸である。4基の井戸・土坑は出土遺物がほとんどなく、所属時期は不明である。

### 93F区（JR東海道本線・同新幹線南部分）

溝

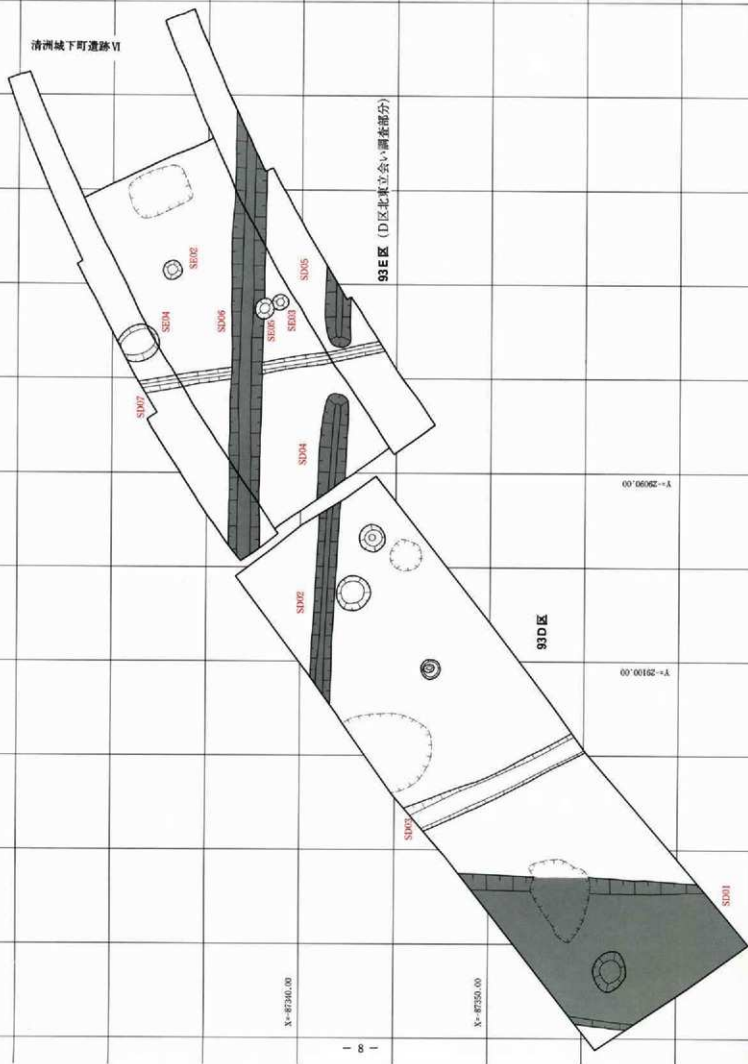
道

昭和63年度に発掘調査した63F、63K区と63G、63H区にはさまれた車道部分の立会い調査である。調査の結果、SD110・116（63K・63H区）、SD111・117（63K・63H区）の中間部分、SD112（63G区）の南北部分が検出された。さらに南北溝の西側には道（現況でも延長上に住居への進入路として機能する道路がある。）が確認された。この道の西には平行して走るSD101（63F区）があり、道の両側に方形区画が展開する状況が追認された。<sup>1)</sup>

註

1) 鈴木正貴編1990『清洲城下町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第17集

清洲城下町遺跡VI



93E区 (D区北東立会い調査部分)

93D区

X=87340.00

X=87350.00

Y=29090.00

Y=29100.00

0 1

SD01

SD02

SD03

SD04

SD05

SD06

SD07

SED1

SED2

SED3

# 第3章 遺物

## 第1節 出土遺物の整理と分析方法

### (1) 出土遺物の整理方針

数量カウン  
ト

今回の調査で出土した城下町期の遺物はコンテナにして120箱である。清洲城下町遺跡のような都市遺跡から出土する遺物は膨大であり、一部の遺物を紹介・報告することは、遺跡の性格を理解する上で最善の方法とはいえない。このような遺跡では遺物を数量カウント（統計処理）して情報をできる限り多く収集することが可能であり、有効である。幸いにして今回の調査で検出したSD01は、一括性の高い多量な遺物が出土しており、器種構成も多様であることから、出土遺物の分類と出土量のカウントを行うことにした。なお、遺物のカウント方法は基礎データの蓄積という観点からも、できるだけ共通化されるべきである。本書では出土遺物の大半を占める戦国期の陶磁器、土器について、「清洲城下町遺跡Ⅳ」（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第53集 1994）における整理、カウント方法を基本的に踏襲することで、データの比較を可能にする（ただし、細部においては項目の追加、修正をおこなった）。さらに今回は戦国期以前の遺物についても簡単な数量カウントを実施した。なお、本章の記述は「清洲城下町遺跡Ⅳ」のそれを引用する部分が多くなることを予め断わり、詳細については同報告書を参照された。

### (2) 出土遺物整理の方法

出土遺物を材質（陶磁器・土器、木製品、石製品、金属製品、自然遺体）で区分し、可能な限り城下町期以前（古代～中世）・城下町期・城下町期以降（近世）の3期に分け、城下町期以前と城下町期の遺物についてカウントした（陶磁器・土器以外は細かなカウントをせず、数量を把握することに主眼をおいた）。カウント結果は巻末の付表に掲載した。

### (3) カウント方法

#### ① データの収集（陶磁器・土器）

- 遺構・グリッド別毎に接合作業を実施した後、口縁部の有無で区分する。
- 口縁部を有するものは接合後破片1点につき1データずつ記入した。
- 口縁部を持たないものも、基本的には破片1点につき1データを設定した。
- 長辺が1cm以下の小破片は、原則として分析対象から除外した。

#### ② データの入力と集計・保存

他遺跡との  
比較

コンピューターを用いて表計算ソフトに入力し、集計作業を実施した。集計したデータはMOディスクに保存した。データは、研究対象によって様々な活用でき、さらに共通のカウント方法を実施した「清洲城下町遺跡Ⅲ」（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第50集 1994）「清洲城下町遺跡Ⅳ」（同第53集 1994）「島田陣屋遺跡」（同第58集 1995）「名古屋城三の丸遺跡Ⅴ」（同第60集 1995）との比較も可能である。

#### ③ 1 データの内容の詳細

1 データの内容は、調査区、グリッド、遺構番号、産地・材質、器類、器種、器形（口

縁部)、器形(体部・底部)、軸葉、口縁部残存率、口径、使用痕、破片数、備考の14項目である。木・石・金属製品及び自然遺体については簡単に数量を把握した。

#### ④口縁部残存率と口径の算定方法

今回の分析で実施した口縁部計測法は、口径の算定も同時に行う形で、以下の手順を続けている。

### 1/2計測法

- a 口縁部を持つもの全てを対象とし、鈴・形代・陶丸・鍾等は計測不能とした。
- b 口縁部が完存した場合は1(12/12)として、遺存している口縁部の割合を12分の1単位で計測した。小破片の資料化も試みたため、12分の1以下を切り上げて算定している(12分の0より大きく12分の1以下の破片を1、12分の11より大きく12分の12以下の破片を12とした)。
- c 計測器具は、直径を1cm単位づつ拡大した同心円とその中心から放射状に12等分した直線(角度は30°づつ)を、白または透明の用紙に印刷したものを計測器として用意し、口縁部残存資料を計測器具に当てて、口縁部の曲線と同心円の曲線が重なる部分または近似する部分を探し出すことで口径を求めた。さらに残存する口縁部の長さが放射状に12等分された区画の幾つ分かを調べて口縁部残存率を求めた。
- d 口径の算定が困難な小破片の場合は、口径不明とした。口縁部が歪んでいる場合は、歪みを補正して値を求めた。平面形が方形の場合は一辺を4分の1に換算して計算した。注口を持つ製品は口縁部が2ヶ所存在するが、注口の口縁部は計測から除外した。

#### ⑤城下町期以前の陶磁器・土器の分類におけるデータの内容

後述する城下町期のそれのように産地・材質による分類が不適当なため、須恵器・灰釉陶器・灰釉系陶器(北部系・南部系)・碗、皿を除く中世知多古窯(中世常滑窯)の製品・土器・その他・不明の7項目を設定した。この項目で分類した後、器類、口縁残存率、口径、底径、使用痕、破片数をカウントする。なお、器類は碗・皿・鉢・大形製品(壺・甕)・小形製品・鍋・釜・杯・杯蓋・盤・その他・不明の12項目を設定した。各器類の分類基準は城下町期の分類基準に準じたが、杯・杯蓋・盤は須恵器に限定して新たに設定し、碗・皿・蓋の基準から除外した。

#### ⑥城下町期の陶磁器・土器の分類におけるデータの内容

『清洲城下町遺跡Ⅳ』を縮小転載するが、本書で新たに追加した部分についてはそのことを明記した。

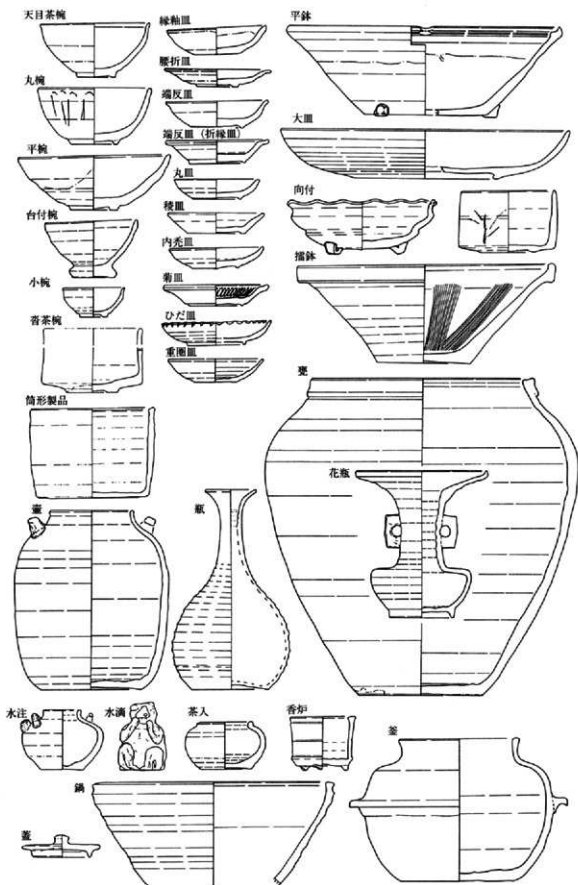
#### 産地・材質

瀬戸美濃窯産陶器	白色の粘土を基本とする瀬戸・美濃産で生産された陶器。
土師器	黄褐色の粘土を基本とする未焼きの土器。
瓦器	白色の粘土を基本とし、表面をいぶして作られた土器。
常滑窯産陶器	黒灰色、褐色の濃い粘土を基本とする常滑産で生産された陶器。
唐津窯産陶器	黒灰色、褐色の粘土を基本とする唐津産で生産された陶器。
中国産陶磁器	白色の肌理の細かい粘土を基本とした磁器・釉に陶器をさす。
その他	栗・信楽・越前・備前・朝鮮・タイ等の製品や産地不明のもの。

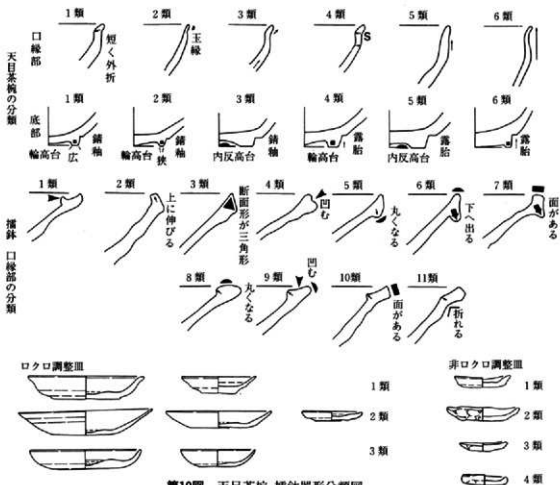
#### 器類

碗	口径10cm前後、器高7cm前後の小形容器。
皿	口径10cm前後、器高2cm前後の浅い小形容器。
浅鉢	口径25cm前後で逆ハの字状に開くものと向付と呼ばれる小鉢状のものを一括。
深鉢	内面に横目を持つ口径25cm前後で逆ハの字状に開く大形容器。
大形製品	筒形・袋形の形状をし、底径が10cm以上の容器。
小形製品	袋形の形状をし、底径が10cm以下の容器。
香炉	筒形・壺形の容器に脚がついたもの。
鍋・釜	煮沸・煮炊に使用されたと思われる浅鉢・大形製品を特に区分する。
その他	蓋・煙管・鈴・形代・陶丸・鍾等上記の分類に当てはまらないもの。
不明	器類が不明となるもの。

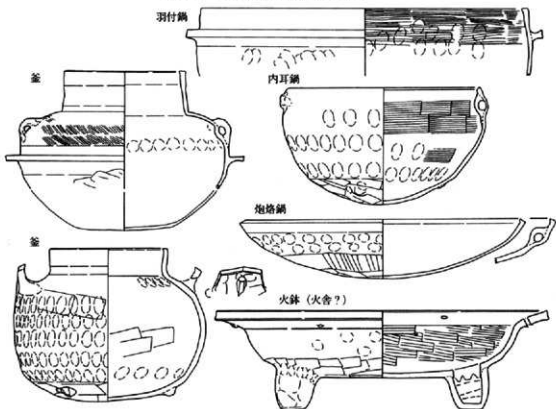




第9図 瀬戸美濃窯産陶器器種分類図



第10図 天目茶碗・播鉢器形分類図



第11図 土師器器種分類図



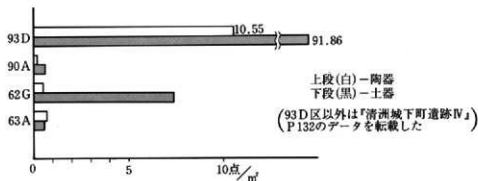
## 第2節 調査区(93D区)全体のカウント結果(概要)

## (1)城下町期以前の陶器・土器(表13参照)

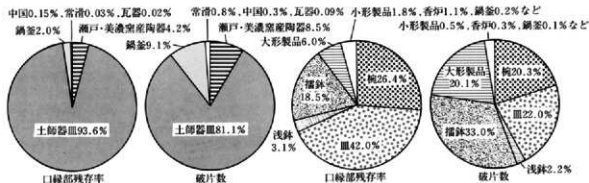
**古代～中世** 該当時期の遺物の大半が検出もしくはSD01の埋土に混入する状況で出土している。カウントの結果、須恵器、灰釉陶器、灰釉系陶器(南部系・北部系)、土器ともに一定量出土していることが確認できた。須恵器の所属時期は高藏寺2号窯式期が最も古く、鳴海32号窯式期から折戸10号窯式期にピークがあり、周辺地域の過去の調査でも同様の状況が確認できる。したがって当地は8世紀以降、安定して人の生活があったと推定できる。

## (2)城下町期の陶磁器・土器(第12・13・14図・表11・12・13参照)

**戦国時代** 調査区が所在する田中町北部地区は清須城下町(前期)のなかでも中央部に位置し、城主もしくはそれに準ずる人物の居館があったと想定されている。この地区における出土遺物の特色は土師器皿の出土率が他の地区に比べて多いことがわかっている。今回の調査で出土した遺物についても同様に、全陶磁器・土器に占める土師器皿の割合は口縁部残存率で93.6%にのぼる。この数字は過去の同地区の調査で得られた割合を上回り、他に例をみない。なお、調査区1㎡あたりの遺物出土量も陶器10.6個、土師器皿(土器)91.9個と同地区のなかで群を抜く。この数字はSD01から出土した多量の遺物と比較的狭い調査面積によって計算されたものであり他との比較には慎重でありたいが、SD01の特異性や同地区の性格を考える上で興味深い。



第12図 田中町北部地区における調査区1㎡あたりの遺物出土量(破片数)



第13図 93D区産地・材質別組成図(その他・不明を除外した)

第14図 93D区瀬戸美濃窯産陶器組成図

### 第3節 SD01出土遺物

本節では、SD01から出土した戦国期の遺物を原則的に、前節でおこなった数量カウントの産地・材質の項目に従って報告する。使用した所属時期の時期区分については編年対照図（第23図）を参照されたい<sup>1)</sup>。なお、土師器皿の使用痕・加工円盤・土錫・木製品・石製品・金属製品・戦国期以前の遺物についてはそれぞれ後述する。

#### 1. 瀬戸美濃窯産陶器

##### (1) 瀬戸美濃窯産陶器 碗

**概 要** SD01出土の瀬戸美濃窯産陶器全体に占める碗の比率は口縁部残存率で26.8%、破片数で20.3%であった。碗の器種組成は第15図のとおりであり、天目茶碗が圧倒的に多い。

天目茶碗（第16図-1~37）

1・2は小型の天目茶碗であり、器種分類では小碗に含まれる。3~6も口径10cm以下であり小型天目茶碗に近く、天目茶碗の大多数を占める8~36のような法量（口径11~13cm程）のものとは区別できる。37については古瀬戸後期の製品であり、浅碗とも称される器形である。口縁部形はSD01の中層・下層・土器集積の資料でみた場合、1・2類が主体で、3類が若干みられる程度なのに対して、上層などの資料では4・5・6類も出土している。軸は37が灰軸で化粧かけを施さないが、それ以外はすべて鉄軸であり、錆軸の化粧かけを施している。所属時期は1・2・4~18・20~28・30~36が城下町期Ⅰ期（古瀬戸後Ⅳ期~大窯第1段階）、3・19・29・35が城下町期Ⅱ期（大窯第2~3段階）、37については古瀬戸後Ⅱ~Ⅲ期である。

丸碗（第16図-38~45）

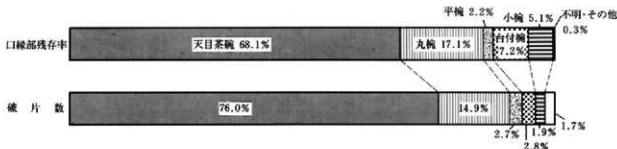
45以外はすべて灰軸丸碗であり、43・44には蓮弁文が施される。45は長石軸（志野）である。所属時期はセクションベルト出土の40が城下町期Ⅱ-2期（大窯第3段階）、上層出土の45が城下町期Ⅲ-1期（大窯第4段階）であり、それ以外は城下町期Ⅰ-2期（大窯第1段階）である。

平碗（第16図-46~49）

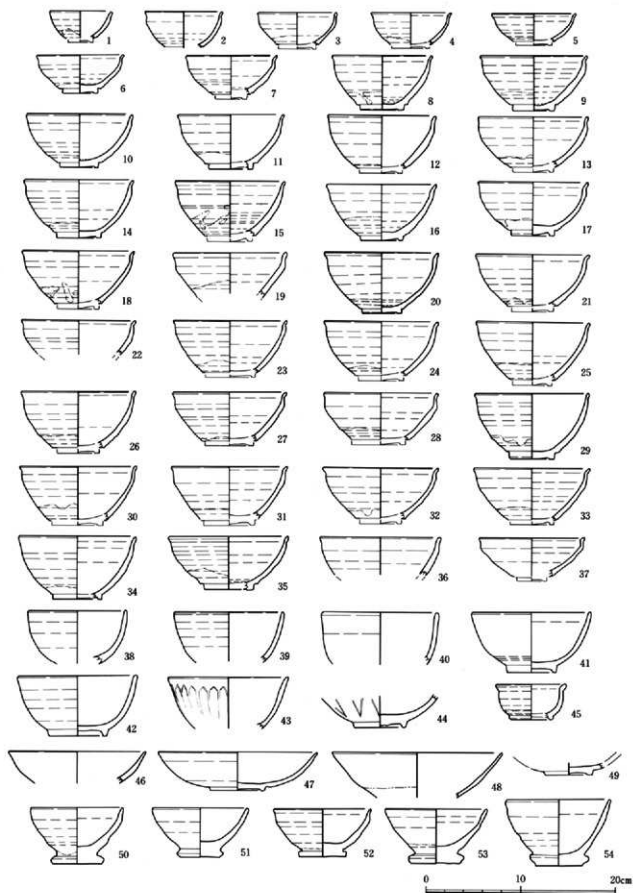
すべて鉄軸が施され、所属時期は城下町期Ⅰ-2期（大窯第1段階）である。

台付碗（第16図-50~54）

50・51・53・54には錆軸、52には鉄軸が施され、所属時期は城下町期Ⅰ-2期（大窯第1段階）である。



第15図 瀬戸美濃窯産陶器碗組成図



第16圖 遺物実測図(1) (SD01瀬戸美濃窯産陶器碗)

## (2) 瀬戸美濃窯産陶器 皿

**概 要** SD01出土の瀬戸美濃窯産陶器全体に占める皿の比率は口縁部残存率で42.3%、破片数で22%であった。皿の器種組成は第17図のとおりであり、重圍皿・端反皿が多い。

## 緑釉皿 (第18図-1~12)

1~5は灰軸、6~12は鉄軸が施される。3は内外面ともに煤が付着し、4は口縁部の形態から卸皿の可能性が高い。所属時期はすべて城下町期Ⅰ-Ⅰ期(古瀬戸後Ⅳ期)である。

## 腰折皿 (第18図-13~16)

すべて灰軸が施され、所属時期は城下町期Ⅰ-Ⅰ期(古瀬戸後Ⅳ期)である。

## 端反皿 (第18図-17~36)

長石軸(志野)の施される36以外はすべて灰軸である。21は内外面ともに漆の痕跡がみられ、19・21・30・33には底部内面に印花文がみられる。所属時期は17~35が城下町期Ⅰ-Ⅱ期(大窯第1段階)、上層出土の36が城下町期Ⅲ期(大窯第4段階)である。

## 丸皿 (第18図-37~45)

37~40が灰軸、41~43が鉄軸、44・45は内面に鉄軸を放射状に施し、その後全体に灰軸をかけている。38・44・45は底部内面に印花文がみられる。37・40は付高台がみられ、その他は葎筒底である。38については口縁端部を細かく打ち欠いており、タールが付着しており、灯明具としての使用を想定できる。所属時期は、37~39・40・44・45が城下町期Ⅰ-Ⅱ期(大窯第1段階)、上層等の資料である41~43が城下町期Ⅱ-Ⅰ期(大窯第2段階)である。

## 菊皿 (第18図-46)

丸皿の内面に菊花弁を表現しており、灰軸がかかる。上層出土の資料であり、城下町期Ⅱ-Ⅰ期(大窯第2段階)に所属する。

## 桜花皿 (第18図-47・48)

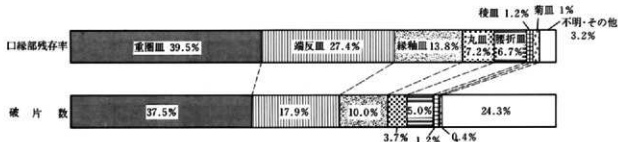
口縁部は花卉状に切り取られないが、内面に波状文が描かれる。2点とも灰軸が施されており、47は破面に漆継痕が確認できる。城下町期Ⅰ-Ⅱ期(大窯第1段階)に所属する。

## 重圍皿 (第18図-49~62)

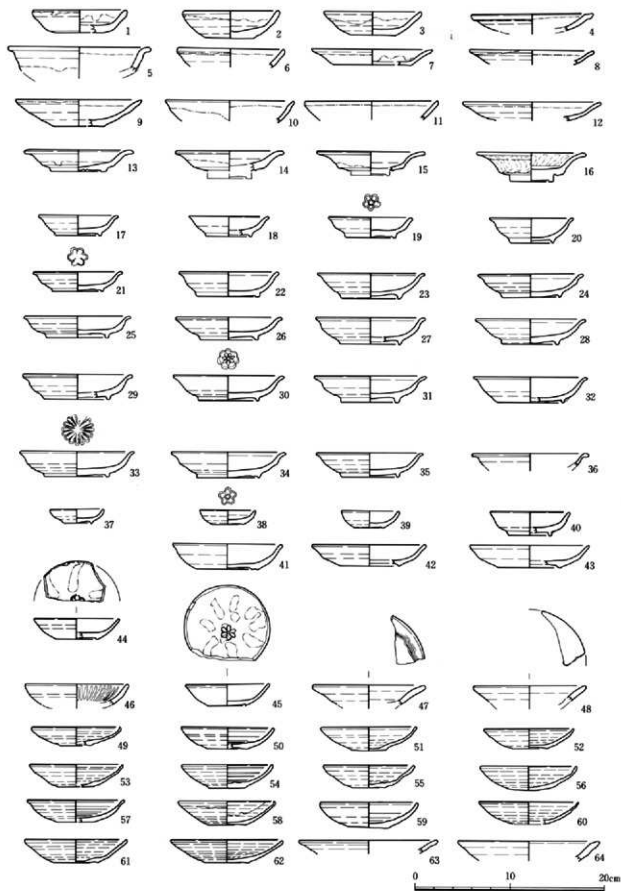
49・53・56・58・60が口縁部1類、51・52・55・61・62が同2類、50・54・59が同3類、57が同4類である。49・50・55・58・59・62の内面にはタールが付着し、灯明具としての使用を想定できる。所属時期は1類が城下町期Ⅰ-Ⅰ期(古瀬戸後Ⅳ期)、2類が城下町期Ⅰ-Ⅱ期(大窯第1段階)、3・4類の資料は上層等の資料であり、城下町期Ⅱ-Ⅰ期(大窯第2段階)である。

## 挟み皿 (第18図-63・64)

所属時期は2点とも城下町期Ⅰ-Ⅱ~Ⅱ-Ⅰ期(大窯第1~2段階)である。



第17図 瀬戸美濃窯陶器皿組成図



第18図 遺物実測図(2)(SD01瀬戸美濃窯産陶器皿)

## (3) 瀬戸美濃窯産陶器 浅鉢

**概要** SD01出土の瀬戸美濃窯産陶器全体に占める浅鉢の比率は口縁部残存率で3.1%、破片数で2.2%であった。器種については、小破片資料のため判然としないものが多い。

## 平鉢・大皿 (第20図-1-13)

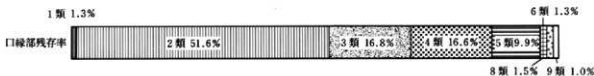
平鉢、大皿に分類したものの中には、一般に直縁大皿、折縁深皿とよばれるものも含まれる。さらに口縁部付近の破片では、摺目の有無を正確に把握できないため、平鉢としたものなかには播鉢も混在している可能性が高い。今回は摺目の有無に加えて、軸調を判断基準にして分類した。軸は4・5・8・10が灰軸、1・2・3・6・7・9・11・12・13が鉄軸である。一般に4・6が直縁大皿、5・7・8・9・13が折縁深皿と呼ばれる器形であり、それ以外を平鉢と考える。所属時期は8が古瀬戸中皿期、2・3・4・5・6・9・10・11・12・13が城下町期I-1期(古瀬戸後IV期)、上層資料である7が城下町期II-2-III-1期(大窯第3-4段階)に所属する。

所属時期

## (4) 瀬戸美濃窯産陶器 播鉢 (第20・21図-14-31)

**概要** SD01出土の瀬戸美濃窯産陶器全体に占める播鉢の比率は口縁部残存率で18.8%、破片数で33.2%であった。口縁部形態の分布は第19図のとおりであり、2類が圧倒的に多く、7・10・11類は確認できない。軸はすべて錆軸で、口縁部形態は14が1類、15・16・23・27が2類(27については6類に近い形態を有するが折り返した口縁が若干垂下した程度のため2類に加えた)、19・22・25が3類、18・20・21が4類、17・26・31が5類、24・29が8類、28・30が9類である。所属時期は1・2・3・4類が城下町期I-1-I-2期(古瀬戸後IV期-大窯第1段階)、5・8類が城下町期II-1期(大窯第2段階)、9類については28が城下町期II-1期(大窯第2段階)、上層資料である30は城下町期II-2期(大窯第3段階)に所属し、10類の前段階的な形態を有する。

所属時期

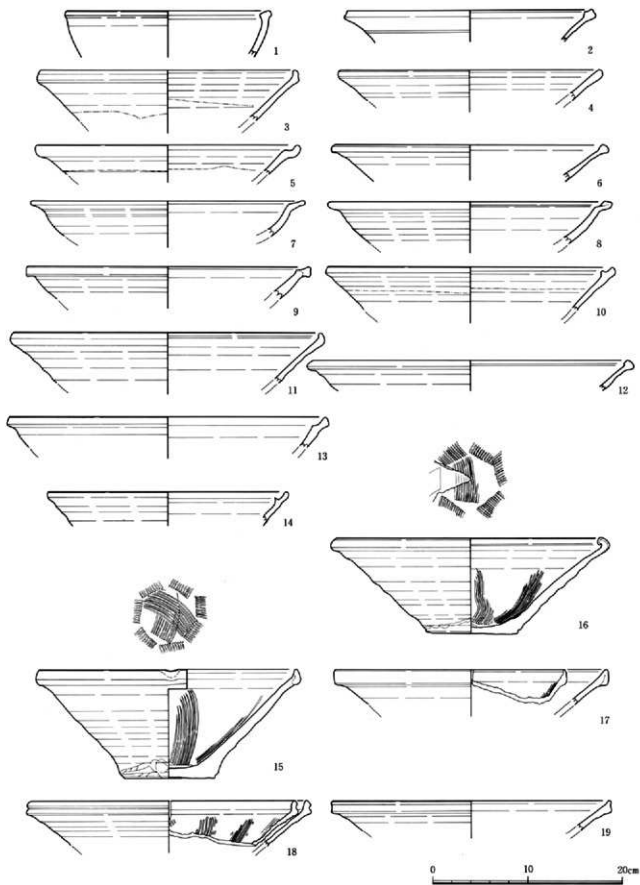


第19図 瀬戸美濃窯産陶器播鉢分類(口縁部形) 組成図

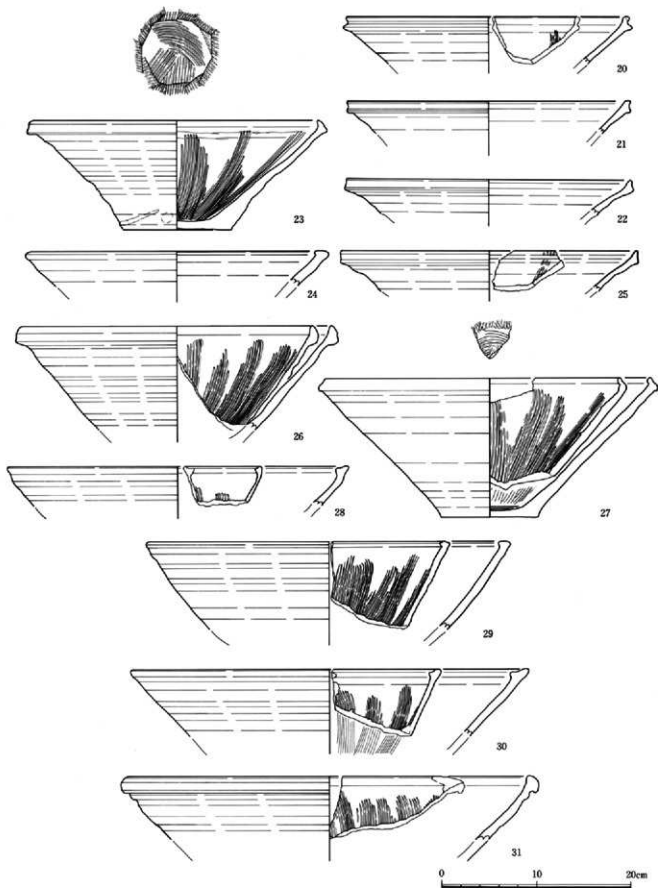
口縁部形による分類	SD01中層以下		SD01上層など		SD01合計		所属時期(目安として生産地編年を使用)
	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	
1類	1	1	5	5	6	6	古瀬戸後IV期
2類	117	102	129	120	246	222	古瀬戸後IV期
3類	35	32	45	42	80	74	古瀬戸後IV期-大窯第1段階
4類	50	44	29	27	79	71	古瀬戸後IV期-大窯第1段階
5類	26	23	21	22	47	45	大窯第2段階
6類	0	0	6	6	6	6	大窯第3段階
7類	0	0	0	0	0	0	大窯第4段階
8類	4	4	3	4	7	8	大窯第2段階
9類	5	4	0	0	5	4	大窯第2-3段階
10類	0	0	0	0	0	0	大窯第4段階
11類	0	0	0	0	0	0	大窯第5段階
不明	0	589	1	542	1	1131	
合計	238	799	239	228	477	1267	

\*「SD01中層以下」は上層・壺・ペルト出土の資料をのぞいたもの  
おもに土器集積出土の一括資料である。  
\*「SD01上層など」は上層・壺・ペルト出土の資料。  
\*数値は口縁部残存率1/12計測の合計数値

表1 播鉢口縁部形分類表



第20図 遺物実測図(3) (SD01瀬戸美濃窯産陶器平鉢・大皿・播鉢)



第21図 遺物実測図(4) (SD01瀬戸美濃窯産陶器片鉢)



## (5) 瀬戸美濃窯産陶器 大形製品 (第24・25図-17~52)

SD01出土の瀬戸美濃窯産陶器全体に占める大形製品の比率は口縁部残存率で5.9%、破片数で20%であった。大形製品の器種組成は第22図のとおりである。なお、大形製品には「底径10cm以上」という分類基準があるが、底部が残存しないもの、10cm以下であっても筒形容器・壺・瓶・花瓶・壺のいずれかに該当するものについては一括して紹介する（但し、水注、水滴、茶入、香炉などは別に扱う）。

17~23はいわゆるサヤ鉢であり、17・20~23は自然軸もしくは無軸、18・19については鉄軸がかかっている。所属時期は大室期（詳細不明）である。24~26は器種が不明のため筒形容器として取り扱う。軸は24・26が鉄軸、25が灰軸であり、24には丸ノミ彫りが施され、25の口縁部には漆の痕跡が残る。所属時期は城下町期Ⅰ-Ⅰ期（古瀬戸後Ⅳ期）。27・28は桶と呼ばれる筒形容器で、27に錆軸が、28に鉄軸が施される。所属時期は27が城下町期Ⅰ-Ⅰ期（古瀬戸後Ⅳ期）である。29~35は有耳壺の可能性が高く、36~39が有耳壺である。29~39についてはすべて鉄軸が施されている。所属時期は36~39が城下町期Ⅰ期（古瀬戸後Ⅳ期~大室第1段階）と考えられ、29~35は大室期（詳細不明）である。なお有耳壺については、数量カウントの際に筒形容器として扱ったものもある。40・41は四耳壺と考えられ、40には灰軸が、41には鉄軸が施される。所属時期は40が城下町期Ⅰ-Ⅰ期（古瀬戸後Ⅳ期）、41は大室期（詳細不明）である。42~49は瓶。42は灰軸の手付瓶で底部付近の露胎部分に朱が塗られ、さらに2次的に火を受けた痕跡がある。43は鉄軸の双耳瓶。44は鉄軸に灰軸を流し掛けており、口縁部Ⅰ類に所属する。45は鉄軸が施されており、口縁部Ⅲ類である。46は底部のみの残存であるがいわゆる徳利であろう。所属時期は42は古瀬戸後期、43が城下町期Ⅰ期（古瀬戸後Ⅳ期~大室第1段階）、上層資料の44が城下町期Ⅱ-Ⅰ期（大室第2段階）、45・46は大室期（詳細不明）である。47~49は花瓶。47は鉄軸、48は錆軸が施され、所属時期は城下町期Ⅰ-Ⅱ期（大室第1段階）である。49については灰軸が施され、所属時期は古瀬戸中期である。50~52は鉄軸の壺。所属時期は大室期（詳細不明）である。

## (6) 瀬戸美濃窯産陶器 小形製品 (第24図-1~6)

SD01出土の瀬戸美濃窯産陶器全体に占める小形製品の比率は口縁部残存率で1.3%、破片数0.5%と非常に少ない。器種は水注・茶入のみで、水滴は出土していない。1・2は鉄軸の水注、3・4は鉄軸の茶入、5・6は器種不明の小形製品（小形の壺か）で、5は鉄軸、6は灰軸が施される。所属時期は1・3・4・5・6が大室期（詳細不明）、2は室室期（古瀬戸産製品、詳細不明）である。

## (7) 瀬戸美濃窯産陶器 香炉 (第24図-7~12)

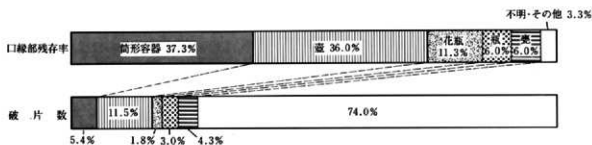
SD01出土の瀬戸美濃窯産陶器全体に占める香炉の比率は口縁部残存率で0.8%、破片数0.3%と非常に少ない。7~11は灰軸、12は鉄軸が施される。7・10は内面に煤が付着し、11は口縁端部を細かく打ち欠いており、そこにターゲが付着している。なお10については体部外面に墨書がみられる（識読不明）。所属時期は8~10が城下町期Ⅰ-Ⅰ期（古瀬戸後Ⅳ期）、7・12は大室期（詳細不明）である。

## (8) 瀬戸美濃窯産陶器 鍋・釜 (第24図-13)

**概 要** 出土量は極端に少なく、口縁部残存率で2 (1/12単位とする。以下同様に表記する)、破片数で4点のみである。13は羽付鍋であり、内外面に煤が付着する。所属時期は城下町期Ⅰ-1～2期 (古瀬戸後Ⅳ期～大窯第1段階) である。

## (9) 瀬戸美濃窯産陶器 その他 (第24図-14-16)

ここでは、蓋を紹介する。加工円盤については後述する。14～16は鉄釉の蓋。所属時期は14・15は古瀬戸後期 (詳細不明)。16は不明である。

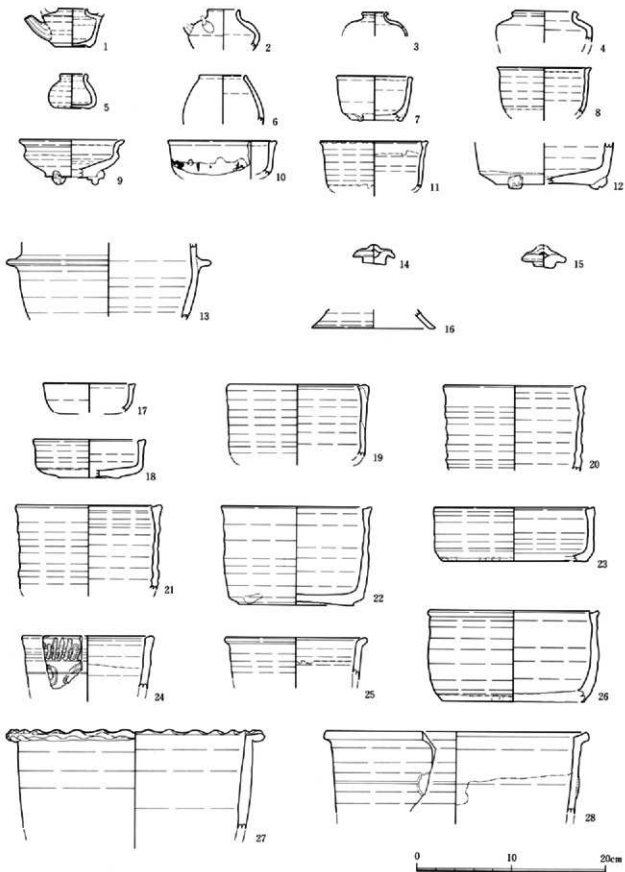


第22図 瀬戸美濃窯産陶器大形製品組成図

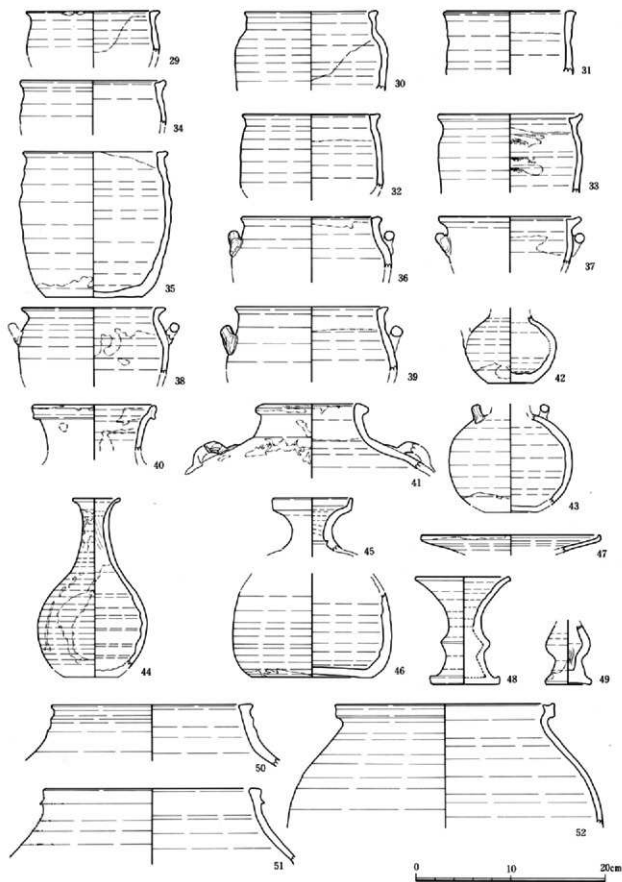
西暦	遺跡における編年	瀬戸美濃窯産陶器の編年	常滑窯陶器の編年	主なできごと
1500	城下町期1期	Ⅰ-1	10型大期 古瀬戸後期 (伊集末期)	尾張守護所、下津から清須に移る (文明10年: 1478)
		Ⅰ-2	大窯第1段階	
1550	城下町期2期	Ⅱ-1	11型大期 大窯第2段階	織田信秀、清須・小田原の織田氏とあらいそ (天文元年: 1532) 山科宮継光、清須逗留 (天文2年: 1533)
		Ⅱ-2	大窯第3段階	
1600	城下町期3期	Ⅲ-1	12型大期 大窯第4段階	織田信長、清須入城 (弘治元年: 1555)  本能寺の変 (天正10年: 1582) 小牧・長久手の戦い (天正12年: 1584) 天正大地震 (天正13年: 1586) 木曾川大洪水 (天正14年: 1586)
		Ⅲ-2	大窯第5段階	
1650	宿場町期			江戸幕府成立 (慶長8年: 1603) 清須越え (慶長15-18年: 1610-1613)

※鈴木正貴1995「清須城下町の遺物様相」『清洲城下町遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集に掲載された対照図を改変した。

第23図 編年対照図



第24図 遺物実測図(5) (SD01瀬戸美濃窯産陶器小形製品・香炉・鍋釜・その他・大形製品)



第25図 遺物実測図(6) (SD01瀬戸美濃窯産陶器大形製品)

## 2. 土器

## (1) 土師器皿

**概 要** 土師器皿は今回の調査で出土した全ての陶磁器・土器のうち93.6%（口縁部残存率）を占め、圧倒的に多い。この傾向はSD01でも同様であり、一括性の高い遺物の出土としては過去の調査事例と比しても群を抜く量である。ロクロ（回転台）調整の皿と非ロクロ調整（手づくね）の皿の割合は口縁部残存率と破片数で全く異なる結果が出たが（第26図）、「割れ易さ」が大きく影響すると考えられ、口縁部残存率の数値を支持したい。なお、土師器皿の使用痕については他の遺構出土資料も含めて後述する（本章第5節）。

## ロクロ（回転台）調整の土師器皿（第31・32図-1~141）

**法 量** SD01からの出土量は口縁部残存率で17119、破片数で35190である。口縁部の形態から1~3類に分けたが、口縁部が直線的な2類と内彎する3類の分類は主観の入る余地が大きい（第27図）。口径は第29図のとおりで6~8cmの小型と10~12cmの中型が多く、とりわけ12cmが群を抜き、15cm以上の大型製品は少ない。なお、第29図をみると口径が計測可能な資料を全点集計したグラフでは12cmが最も多く、口縁部残存率4/12以上の資料のみで集計したグラフでは6cmが最も多くなるが、これは小型の方が割れにくく、より良好な口縁部残存であることを示しているものと考えられる。（なお例えば5・7・9・11・13・15cmといった口径における奇数の数値が少ないのは計測上の問題として今後検討すべき課題である。）

図示したうち口縁部1類は第32図-86・127・128・130・131・135・137~141であり、比較的大きな口径のものが多い。口縁部2・3類は区別がしにくいのが、例えば第31図-1~10のうち1・2・3・4・7・10のような形態を2類、5・6・8・9のような形態を3類に分類した。

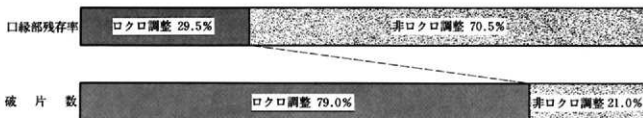
なお、第31図-29・30・33・34・46・58・62~64・70、第32図-72・80・81・87・88・97~99・104・105・112・113・118・132については体部内面や外面に螺旋状もしくは同心円状に凹線がみられ、破面の観察などから粘土組織み上げの痕跡である可能性が高く、土師

**製作技法** 器皿の製作技法を考える上で興味深い。この点については第5章で詳述する。

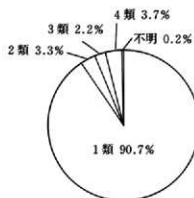
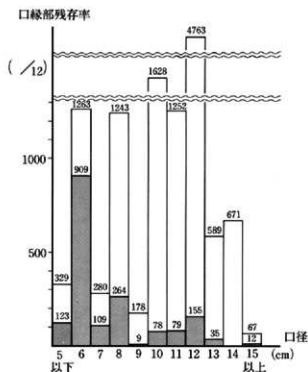
## 非ロクロ調整（手づくね）の土師器皿（第33図1~101）

**4類の設定** SD01からの出土量は口縁部残存率で40398、破片数で9454である。口縁部にヨコナデを施し、つまみ出す1類が圧倒的に多い（第28図）。今回のカウントで追加した4類は口縁部にヨコナデを施すものの体部をほとんど立ち上げず器高が低いもので1類と区別した。

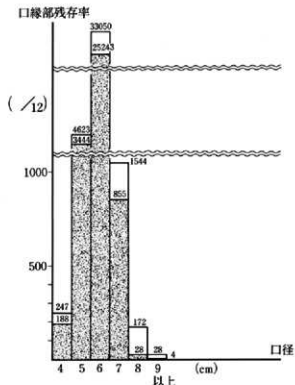
**法 量** 口径は6cmに集中し法量のバラエティはない（第30図）。なお図示したうち1~30が口縁部1類、31~60が同2類、61~72が同3類、73~99が同4類である。なお、100・101については口縁端部が肥厚化し、外面はその部分にヨコナデが施されるのみで体部以下は未調整である。内面はヨコナデが施されている。非ロクロ調整の可能性が高いものの、1~4類の分類にはあてはめることができない。また、体部外面の未調整部分は枠に押し付けられたような状況を呈しており、外枠による成形を考えることもできる。今回は2点のみの出土のため分類を追加せず資料の増加を待って再検討したい<sup>2)</sup>。



第26図 土師器皿組成図

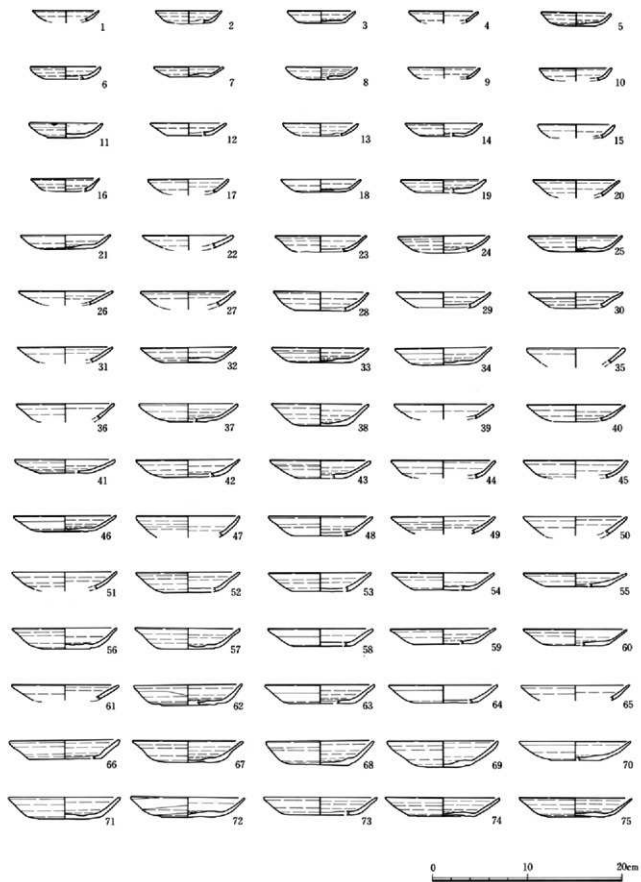
第27図 ロクロ調整土師器皿分類別組成図  
(口縁部残存率)第28図 非ロクロ調整土師器皿分類別組成図  
(口縁部残存率)

第29図 ロクロ調整土師器皿口径別頻度図

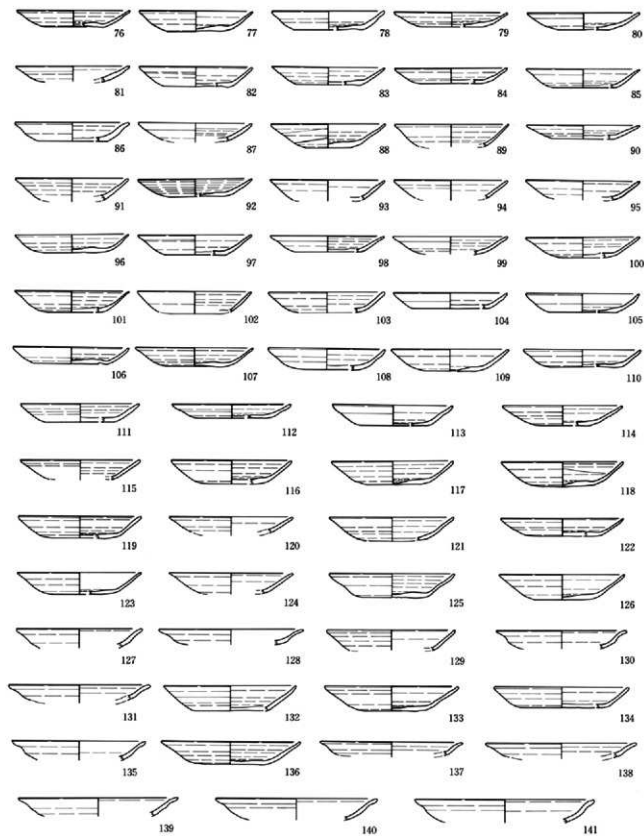


第30図 非ロクロ調整土師器皿口径別頻度図

(第29図・第30図ともに、トーンの部分は口縁部残存率が4/12以上の資料を対象とした場合)



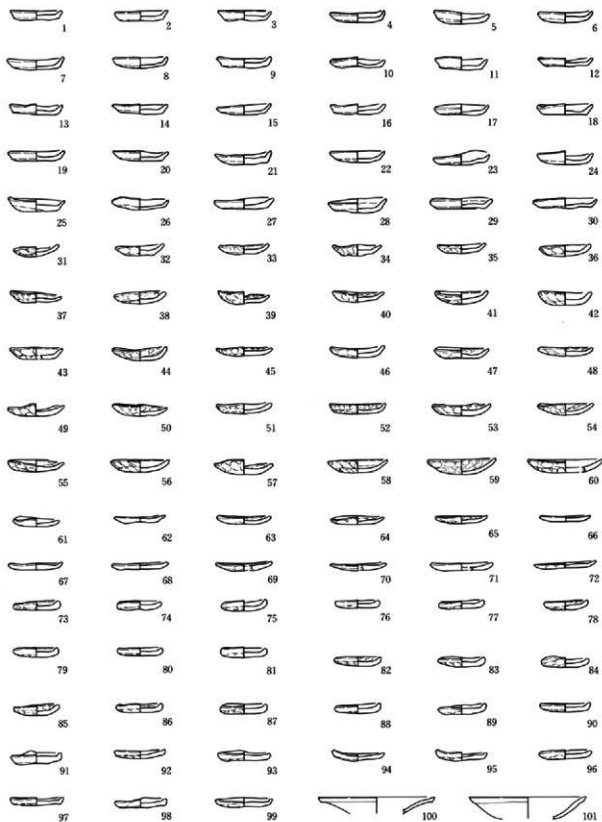
第31圖 遺物実測図(7)(SD01口ケ口調整土師器皿)



第32図 遺物実測図(8) (SD01ロクロ調整土師器皿)



清洲城下町遺跡VI



0 10 20cm

第33図 遺物実測図(9) (SD01非ロクロ調整土師器皿)

## (3) 土師器鍋・釜

**概 要** SD01から出土した土師器鍋・釜は口縁部残存率で1252、破片数で5155である。器種別の内訳は第34図のとおりであり、内耳鍋が口縁部残存率で95%、破片数で98.6%を占め圧倒的に多い。また炮烙鍋の出土は皆無である。

## 羽付鍋 (第36図1～9)

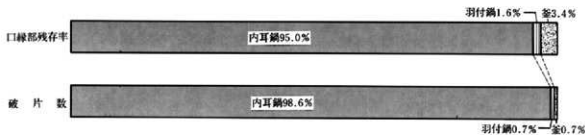
出土量は少なく、口縁部残存率で20、破片数で32である。3については器高が低く、浅い鍋である。

## 内耳鍋 (第37図-10～21)

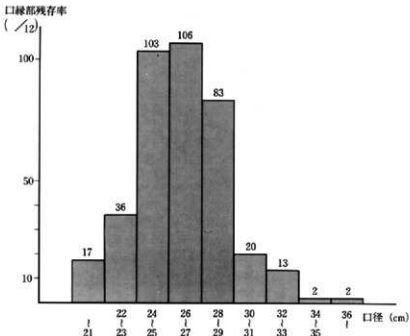
出土量は口縁部残存率で1189、破片数で5050である。内耳鍋の口径をグラフにしてみると24cm～29cmに集中している(第35図)。また、10・12・16・21のように内耳鍋の口縁部から数cmの体部外面に一条の沈線が確認できる資料は口縁部残存率で152存在する。

## 釜 (第37図-22～25)

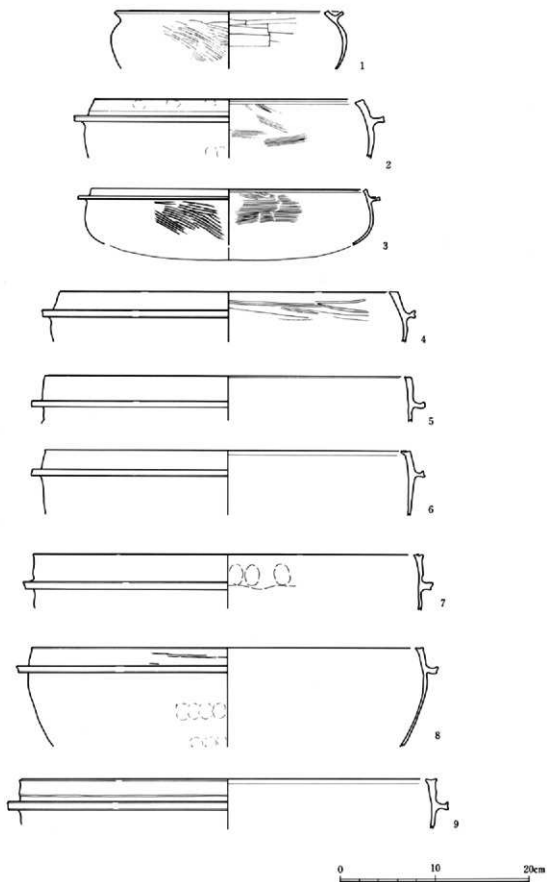
出土量は少なく、口縁部残存率で43、破片数で37である。鈎のつくもの(22・23)とつかないもの(25:上層出土)がある。



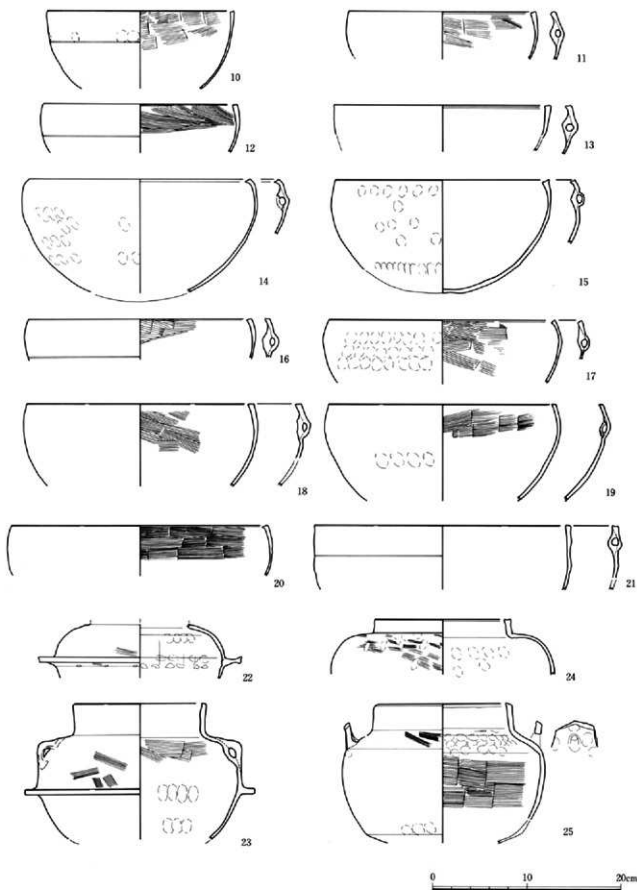
第34図 土師器鍋・釜組成図



第35図 内耳鍋口径別頻度図



第36図 遺物実測図 (10) (SD01土師器鍋・釜)



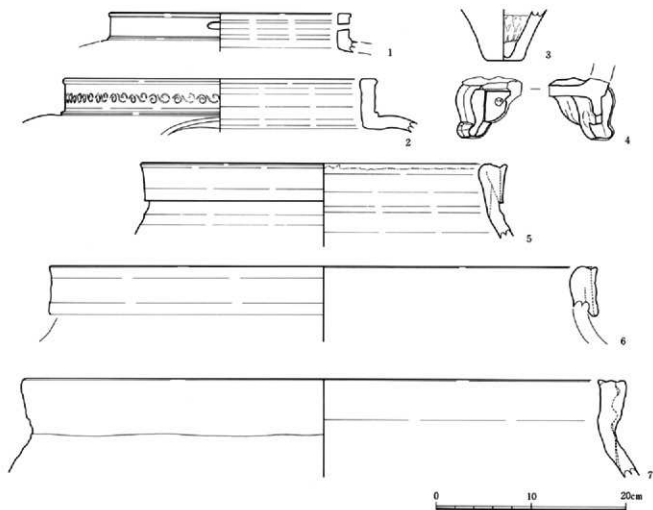
第37圖 遺物実測図 (11) (SD01土師器類・釜)

## 3. 瓦器 (第38図-1~4)

出土量は極めて少なく、口縁部残存率で15、破片数で53であった。器種も風炉(1・2)と火鉢(3・4:脚部)がほとんどである。

## 4. 常滑窯産陶器 (第38図-5~7)

**概 要** 常滑窯産の製品は壺、甕がほとんどであり、わずかに鉢(口縁部残存率6、破片数4)がみられる程度である。また、体部破片から壺・甕を判断することは非常に難しく、器種を推定しえたのは甕が口縁部残存率で12、破片数で15であり、壺が口縁部残存率で2、破片数で4と非常に少なく、器種不明の破片数が437と非常に多い。さらに体部破片では所属時期の決定が困難であり、中世の製品もカウントしている可能性は否めない。第38図-5~7はいずれも甕であり、口縁部の縁帯が頸部に融着している。所属時期は5が中野・赤羽編年の11型式、6が同10型式、上層からの出土資料7が同12型式である。



第38図 遺物実測図 (12) (SD01瓦器・常滑窯産陶器)

## 5. 中国産陶磁器

## 概 要

中国産産の陶磁器は口縁部残存率で90、破片数で169出土している。これらはすべて磁器であり、陶器は確認できなかった。以下、白磁・青磁・青花の順で紹介する。

## (1) 白磁 (第39図-1-4)

1は小皿。内面は輪弁となり、破面に漆継痕が認められる。2も小皿で底部内面に重ね焼きによる高台の痕跡が残る。2は挟り込み高台である。3・4は端反皿と考えられ、4の破面には漆継痕が確認できる。所属時期は1・2が15世紀、3・4が15世紀後半～16世紀前半である。

## (2) 青磁 (第39図-5-18)

5～8は碗。5は口縁部に1条、腰部に5条の沈線が巡り、6も同様に口縁部に沈線が巡る。7は内面に劃花文、外面にヘラ切りによる線刻が、8は外面に蓮弁文が施される。9～15は皿。9は見込み部及び底部外面に軸を施さない。10～14は椀皿。口縁部内面には波状文が施される。15は端反皿か。破面に漆継痕が認められ、底部外面に軸を施さない。16は算木手文様の香炉。体部内面には軸を施さない。17・18は盤。18は大盤で内面に劃花文、外面に蓮弁状の文様がみられる。所属時期は18が14世紀、8が15世紀後半でその他が15世紀である。なお、18については伝世した可能性が高い。

## (3) 青花 (第39図-19-32)

19・20が碗。21～32が皿であり、21・22・24～28・30・31が端反皿、32が大皿である。文様は表2に掲載したが、端反皿は体部外面に牡丹唐草文様、見込み部に玉取獅子文様や十字花文様を配するものが多い。所属時期は15世紀後半～16世紀前半である。

## 6. その他 (第39図-33)

前述した以外の産地で生産された陶磁器、産地が不明の陶磁器は口縁部残存率で1、破片数で247である(瀬戸美濃産である可能性があるものでも細片のため不明にした例が多い)。ここで紹介する第39図-33の遺物は朝鮮産産の可能性が高い。胎土はぶい橙色(7.5YR7/4)で、ほぼ透明の釉が掛かる。

## 朝 鮮 産

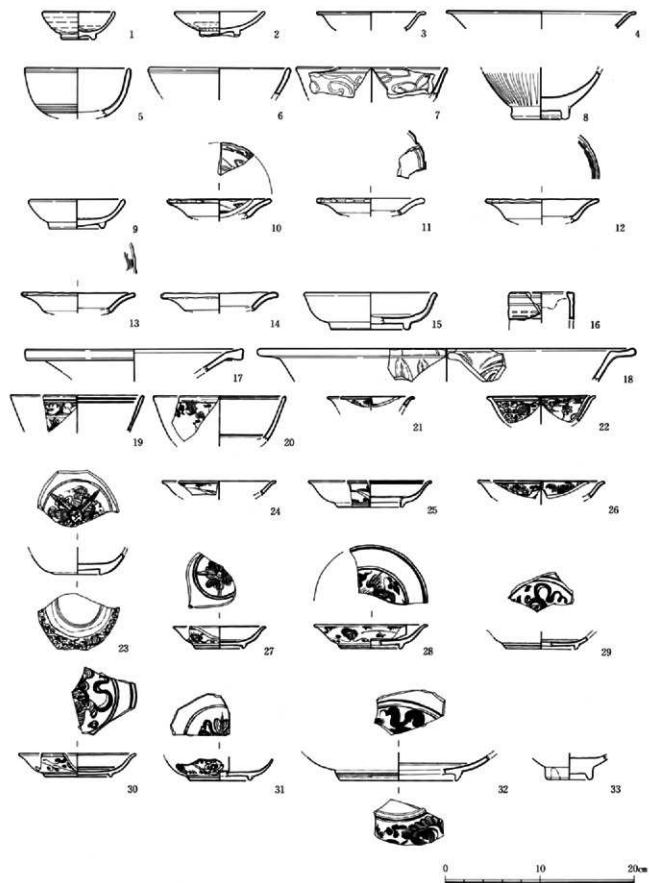
## 註

- 1) 遺物の所属時期については瀬戸美濃産陶器・常滑産陶器・中国産陶磁器についてそれぞれ藤澤良祐、中野晴久、森達也各氏に遺物を見せいただき御教示を賜わった。以下、本文中の所属時期について同様の註を省略する。
- 2) 佐藤公保1986・1987「中世土師器研究ノート(1)・(2)」(財団法人埋蔵文化センター年報昭和60・61年度)におけるC b類に該当する。

図録番号	器種	外面の文様		内面の文様		見込み部の文様		備考
		口縁部	体部	口縁部	体部	口縁部	体部	
第39図-19	碗	無文	アガバスタ文	無文	無文	無文	無文	
第39図-20	碗	無文	無文	無文	無文	無文	無文	
第39図-21	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-22	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-23	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-24	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-25	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-26	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-27	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-28	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-29	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-30	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-31	端反皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	
第39図-32	大皿	無文	牡丹唐草文	無文	無文	無文	無文	

文様は小野正敏1982「15-16世紀の染付陶、磁の分類と年代」(寶島陶磁研究No.2) 日本貿易陶磁研究会  
岡田智子1994「中国産青花」(清州城下町遺跡IV) 愛知情報文化センター調査報告書53巻を参考に記載

表2 青花文様一覧表



第39図 遺物実測図 (13) (SD01中国産陶磁器・その他)

## 第4節 その他の遺構出土の遺物

本節では、SD01以外の遺構から出土した遺物を報告する。なお、加工円盤・土錘・木製品・金属製品などについてはそれぞれ後述する。ここに紹介する遺構はすべて戦国期に掘削された遺構であると考えられ、遺構別の遺物出土量は表3のとおりである。

### 1. SD02出土遺物 (第40図-1)

SD02からは瀬戸美濃窯産の陶器、常滑窯産の陶器、木製品 (後述) がわずかに出土しただけで土師器皿は全く出土していない。また細片資料が多く、図示しえたのは鉄軸の釜1点のみである。所属時期は城下町期I-1期 (古瀬戸後IV期) であろう。

### 2. SK02出土遺物 (第40図-2・3)

SK02からは土師器皿が出土している。図示しえたのは非ロクロ調整の2点のみである。2点とも口縁部1類である。なお、瀬戸美濃窯産陶器は出土していない。

### 3. SK03出土遺物 (第40図-4-49)

SK03からは瀬戸美濃窯産の陶器、常滑窯産の陶器、土師器皿・鍋が出土している。

#### (1) 土師器・土器 (第40図-4-43)

土師器皿の出土量は表5のとおりである。土師器鍋はすべて内耳鍋の細片であった。圧倒的に多く出土したのは土師器皿である。非ロクロ調整 (4-33) のうち4-25が口縁部1類、26-28が口縁部3類、29-33が口縁部4類に分類できる。ロクロ調整 (34-42) のうち34・35は口径が8cm程の小型で、それ以外は12cmを中心とする (10cm-14cm) 中型である。なお、43は土鈴で、最大径のやや下に沈線が1条走る。

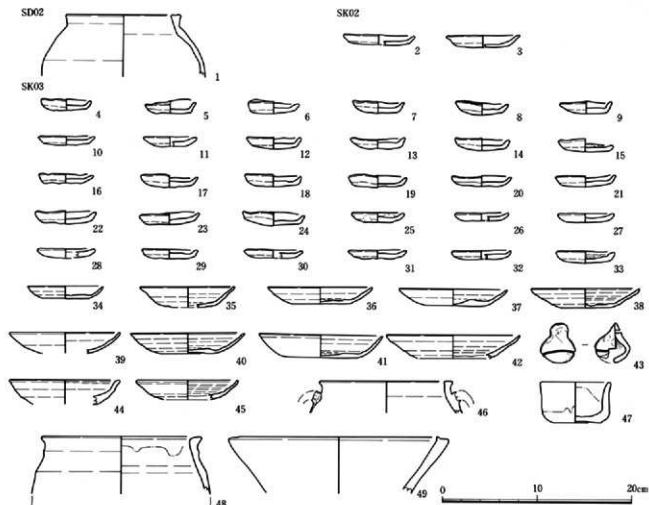
#### (2) 瀬戸美濃窯産陶器 (第40図-44-48)

瀬戸美濃窯産陶器は口縁部残存率で25、破片数で38出土している (表3)。出土器種は天目茶碗、台付碗、縁軸皿、端反皿、重圍皿、平鉢、播鉢、壺、香炉である (表4)。44は灰釉の縁軸皿、45は重圍皿、46は鉄軸の釜、47は鉄軸の小形製品 (香炉か)、48は鉄軸の壺 (有耳壺か) である。所属時期は44-47が城下町期I-1期 (古瀬戸後IV期)、48は大空期 (詳細不明) である。

#### (3) 常滑窯産陶器 (第40図-49)

49は鉢で所属時期は中野・赤羽編年の10型式である。





第40図 遺物実測図(14) (SD02・SK02・SK03)

	SD02		SK02		SK03	
	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数
瀬戸美濃産陶器	2	7	0	0	23	38
土師器	0	0	8	8	824	560
土師器片	0	0	0	0	2	10
土師器	0	0	0	0	1	0
土師器片	0	1	0	0	1	3
瀬戸美濃産陶器	0	0	0	0	0	0
土師器	0	0	0	0	0	0
土師器片	7	8	8	8	853	611
合計						

表3 SD02・SK02・SK03城下町期陶磁器・土師器出土量

	SD02		SK02		SK03	
	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数
瓶	0	0	0	0	6	11
壺	0	0	0	0	5	4
鉢	0	0	0	0	0	2
土師器	2	4	0	0	4	8
土師器片	0	0	0	0	0	10
小形土師器	0	0	0	0	0	0
土師器	0	0	0	0	7	7
土師器片	0	0	0	0	2	1
土師器・不明	0	0	0	0	2	0
合計	2	7	0	0	25	38

表4 SD02・SK02・SK03瀬戸美濃産陶器出土量

	SD02		SK02		SK03	
	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数
口ノ口陶器	0	0	4	6	230	435
口縁部1層	0	0	0	0	7	2
口縁部2層	0	0	4	3	171	125
口縁部3層	0	0	0	0	49	38
不明	0	0	0	3	8	267
非口ノ口陶器	0	0	4	2	594	125
口縁部1層	0	0	4	2	534	114
口縁部2層	0	0	0	0	15	2
口縁部3層	0	0	0	0	12	4
口縁部4層	0	0	0	0	32	6
合計	0	0	8	8	824	560

表5 SD02・SK02・SK03土師器出土量

## 第5節 土師器皿の使用痕

土師器皿の使用痕については表6・7のとおりである。このうち墨書、穿孔、タール付着についてとりあげてみたい。

墨書 (第41・42・43図-1~70)

**法 量** 墨書が確認できるのは口径10~14cmのロクロ調整の土師器皿のみであり(表8)、全ロクロ調整土師器皿の1%にしか確認できない。しかし1調査地点からの出土量としては群をぬいており興味深い。

**分 類** 墨書の施される部位や文字の大きさなどによって以下の4種類に分類できる。

内面 (aタイプ)

a 1……底部内面を中心に比較的大きく太い字を記すタイプ

a 2……口縁部(内面)に沿うように比較的小さく細い字を記すタイプ

外面 (bタイプ)

b 1……底部外面を中心に比較的大きく太い字を記すタイプ

b 2……口縁部(外面)に沿うように比較的小さく細い字を記すタイプ

**ま と め** 判読される内容と上記の分類は表10にまとめたが、簡単にその概要を記しておく。

- ・墨書の記される部位は内面がほとんどである。
- ・a 1とa 2で文字の大きさに差があるのは、書き込むことができる範囲の大小に起因すると考えることもできるが、a 1に漢字を使用する例が多く、a 2に仮名を草書体で書く例が多いことなどを積極的に評価して、書き込む内容と部位に一定のルールが存在した可能性も残る。
- ・例えば「南無阿弥陀佛」「めう□□」「ていちん」「□いほ □けい いほ」「□□あん」など、同一語句や類似した語句を記す例、月日を記す例が複数出土している。
- ・1は今回の出土例のなかでは文字量が一番多く「□里ん めう□ん □郎三郎 七世父母 六親 属三 界□□□」と記され供養に関連する語句が記される。

穿孔 (第43図-71~80)

確認された資料はすべて焼成後の穿孔であり、ロクロ調整・非ロクロ調整ともに確認できる。底部に穿孔する例(71~76)、体部に穿孔する例(77~79)、さらに底部・体部ともに穿孔する例などがある(80)。

タール付着 (第43図-81~124)

タールが付着する土師器皿は灯明具として使用されたと考えられ、ロクロ調整・非ロクロ調整ともに一定量出土している。ロクロ調整の資料では、同口径に占める割合をみると比較的小口径の資料(7~9cm)の2~3割が灯明具として使用されており他の口径と比較して圧倒的に多い(表9)。

**法 量** 比較的小口径の資料(7~9cm)の2~3割が灯明具として使用されており他の口径と比較して圧倒的に多い(表9)。

	口縁部残存率	破片数
穿孔	4	16
灰熱	871	1902
灰付着	2	13
ターム付着	1148	1394
墨書	165	270

表6 ロクロ調整土師器皿 使用痕一覧表

	口縁部残存率	破片数
穿孔	13	3
灰熱	528	107
灰付着	2	2
ターム付着	402	63

表7 非ロクロ調整土師器皿 使用痕一覧表

口径	ロクロ調整 口縁部残存率	同口径に占める 割合%
8cm以下	0	0.0
9cm	0	0.0
10cm	12	0.7
11cm	22	1.8
12cm	49	1.0
13cm	25	4.2
14cm	12	1.8
15cm	0	0.0
16cm以上	0	0.0
計測不能	45	-

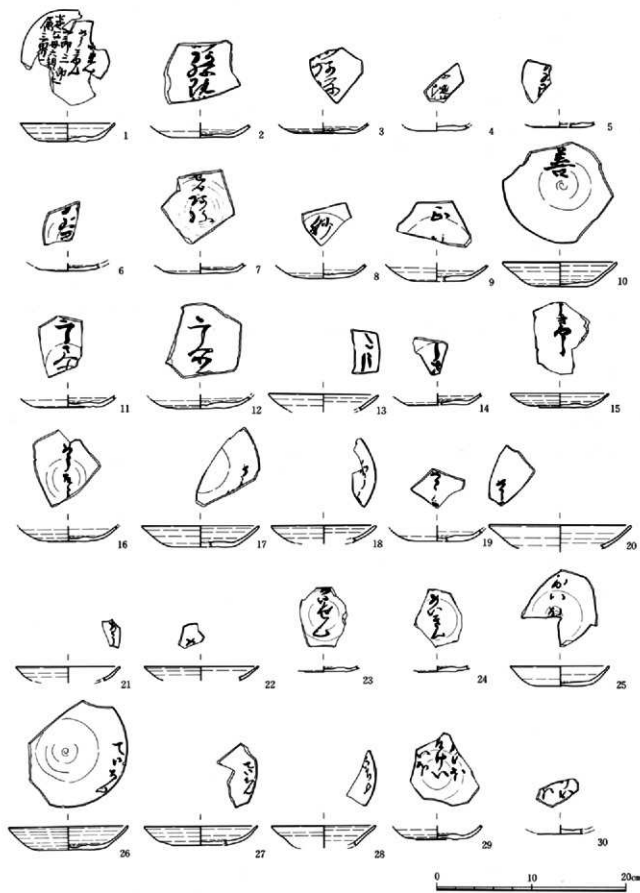
表8 墨書土師器皿口径別頻度表

口径	ロクロ調整 口縁部残存率	同口径に占める 割合%	非ロクロ調整 口縁部残存率	同口径に占める 割合%
5cm	0	0.0	11	0.2
6cm	6	0.5	318	1.0
7cm	66	23.6	60	3.9
8cm	370	29.8	9	5.2
9cm	38	21.3	0	0.0
10cm	111	6.8	0	0.0
11cm	82	6.5	0	0.0
12cm	237	5.0	0	0.0
13cm	22	3.7	0	0.0
14cm	30	4.5	0	0.0
15cm	3	7.3	0	0.0
16cm	2	8.7	0	0.0
計測不能	181	-	4	-

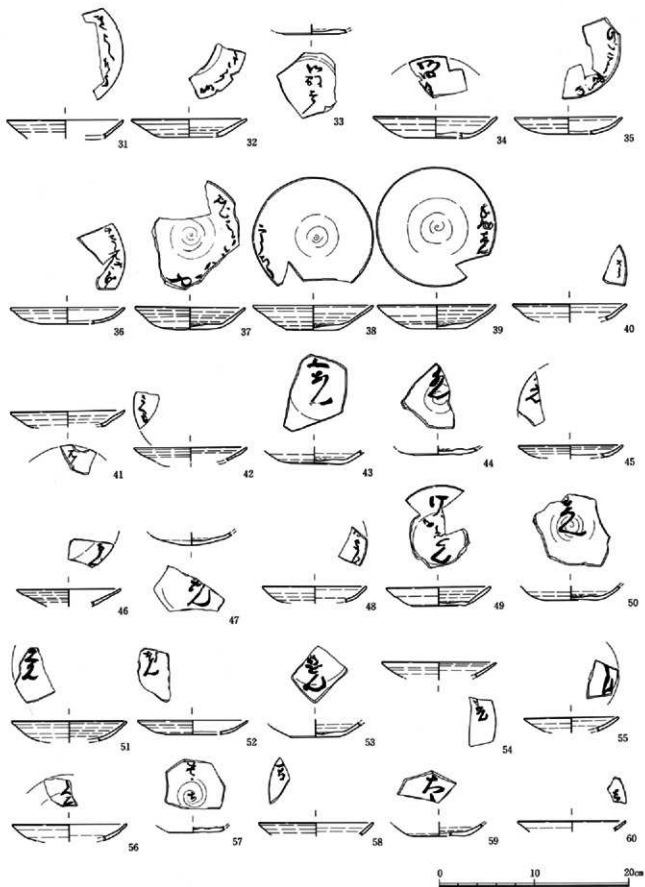
表9 タール付着土師器皿口径別頻度表

図版番号	出土遺構	タイプ	墨書内容	図版番号	出土遺構	タイプ	墨書内容
第15図-1	SD01-7	a 1		36	SD01-2	a 2	□こうてきけ
2	SD01-9	a 1	□阿弥陀	37	SD01北ベルト	a 2	せいら□□□
3	SD01-2	a 1	□阿弥	38	SD01-10	a 2	二ろうろ、にうらう
4	SD01北ベルト	a 1	弥陀佛	39	SD01-10	a 2	も藤志ん
5	SD01-2	a 1	阿弥陀	40	SD01	a 2	ほう
6	SD01北ベルト	a 1	阿弥陀	41	SD01-9	b 2?	ほうき
7	SD01北ベルト	a 1	せん阿弥	42	SD01北ベルト	a 2	さくら
8	SD01-2	a 1	妙	43	SD01北ベルト	a 1	□あん
9	SD01北ベルト	a 1	正□	44	SD01-5	a 1	あん
10	SD01-10	a 1	曹	45	SD01	a 2	□□ん
11	SD01北ベルト	a 1	三月十八□	46	SD01北ベルト	a 2	あ□ん
12	SD01-5	a 1	二月五□	47	SD01北ベルト	b 1	□ん
13	SD01北ベルト	a 2	二月き	48	SD01北ベルト	a 2	□□ん
14	SD01	a 1	□月十八	49	SD01北ベルト	a 1	け□□ん
15	SD01北ベルト	a 1	□きやう	50	SK03	a 1	□ろん
16	SD01-4	a 1	めうほう	51	SD01北ベルト	a 2	えもん
17	SD01北ベルト	a 2	めう□	52	SD01-2	a 2	はん
18	SD01-5	a 2	□う	53	SD01-9	a 1	□ん
19	SD01北ベルト	a 1	めう□□	54	SD01-9	b 2	志かん
20	SD01-9	a 2	めう□	55	SD01-10	a 2	□ん
21	SD01北ベルト	a 2	めう	56	SD01北ベルト	a 1	□ん□
22	SD01-9	a 1	め	57	SD01北ベルト	a 1	□ちち
23	SD01北ベルト	a 1	□□せん	58	SD01北ベルト	a 2	□ち
24	SD01北ベルト	a 1	めいきん	59	SD01北ベルト	a 1	右□、左□、ち□
25	SD01北ベルト	a 1	□いは□	60	SD0111・12R	a 2	ち
26	SD01-10	a 2	ていほん、ていろん	第17図-61	SD01-10	a 1	加□
27	SD01北ベルト	a 2	ていほん	62	SD01北ベルト	a 2	二せ□
28	SK03	a 2	□いちん	63	SD01北ベルト	a 2	きせ□
29	SD01北ベルト	a 1		64	SD01中層	a 1	すざ
30	SD01-4	a 1		65	SD01北ベルト	a 2	□れ
第16図-31	SD01下層	a 2	きょうほう	66	SD01北ベルト	b 1	に
32	SD01北ベルト	a 2	きう(ち)□	67	SD01-3	a 1	い□
33	SD01-8	b 1	□はそ□	68	SD01-10	a 1	ね□□
34	SK03	a 1	御四□	69	SD01下層	a 2?	らち
35	SD01北ベルト	a 2	正しい□□□	70	SD01上層	b 1	□は津きう

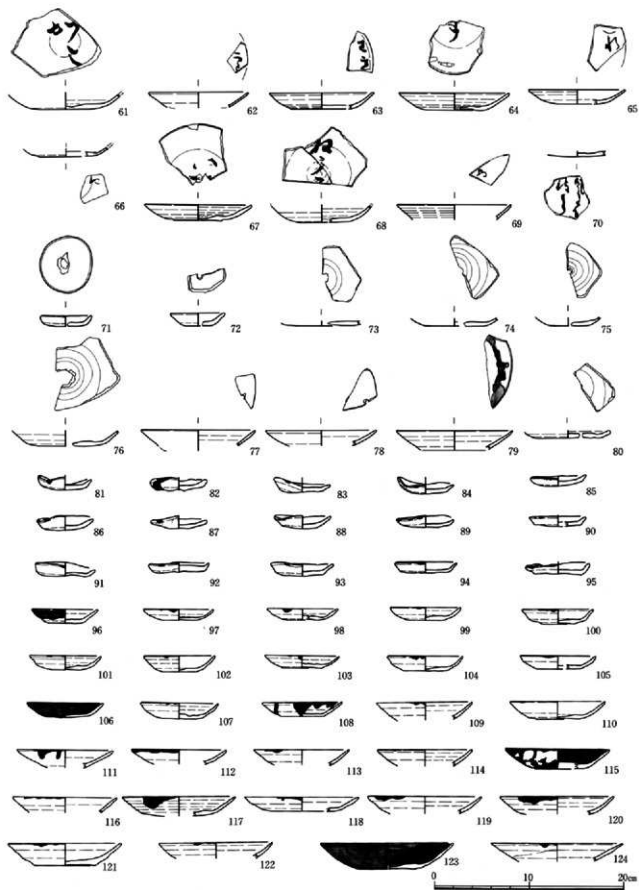
表10 墨書土師器皿一覧表



第41圖 遺物実測図 (15) (土師器皿使用痕：墨書)



第42図 遺物実測図(16)(土師器皿使用痕：墨書)



第43図 遺物実測図 (17) (土師器皿使用痕：墨書、穿孔、タール付着)

## 第6節 加工円盤・陶丸・土錘

## 1. 加工円盤・陶丸（第44図-1～第45図-74）

陶器片の破面を二次的に加工した小型の遺物（以下、加工円盤）を、材質、加工技法により分類する。分類方法は、赤塚美智代氏の分類<sup>1)</sup>をベースにした蟹江吉弘氏の分類<sup>2)</sup>に依拠する。なお、本調査で出土した加工円盤は、陶丸24点を含めて総数74点である。

- 分 類**
- A類：灰軸系陶器の椀、皿を素材としたもので、いずれも打製加工である。高台部を使用したA1と、その他の部位を使用したA2に分かれる。
- B類：椀、皿以外の灰軸系陶器を使用したもの。打製加工品。
- C類：施軸陶器を素材としたもので、打製加工のC1、陶器破面を研磨するC3に大別でき、その中間的な加工を施すC2の3種類がみられる。
- M類：加工円盤の範疇に含めるか否かについては問題が残るが、陶丸をM類とする。
- 各出土点数は、A1類16点（第44図-1～16）、A2類2点（第44図-17・18）、B類1点（第44図-19）、C1類17点（第44図-20～36）、C2類11点（第44図-37～47）、C3類3点（第44図-48～50）、M類24点（第45図-51～74）であり、C類の占める割合が高い。

**出土状況** A、B、C、M類は、4点を除いて全てSD01からの出土であるが、SD01と同時期と思われるものは、C類のみである。

## 2. 土錘（第45図-75～107）

本調査出土の土錘は、総数33点であり、SD01からの出土が29点、その他検出段階での出土が4点である。全て管状土錘であり。分類方法は形態による宮腰健司・古橋佳子氏の分類<sup>3)</sup>に依拠する。

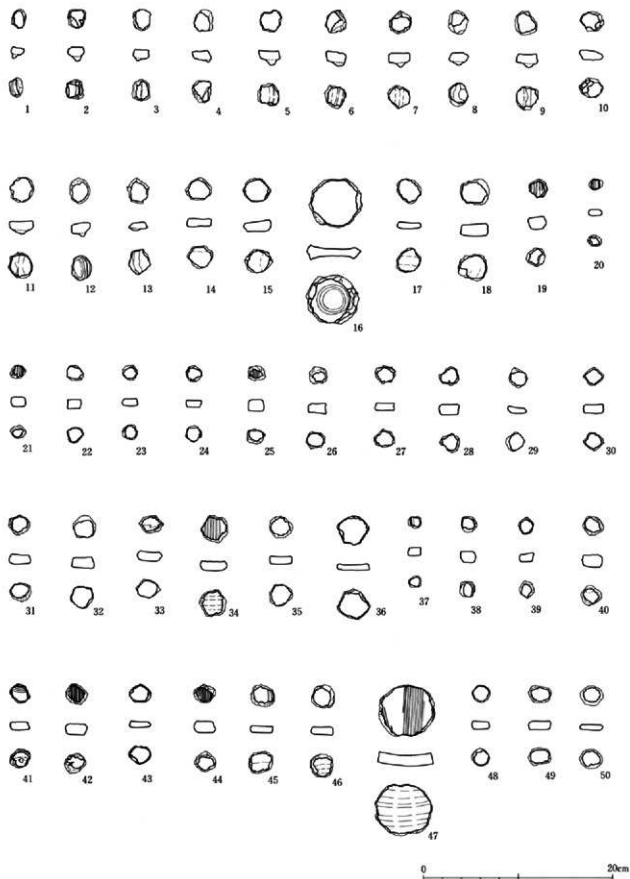
- 分 類**
- 形態A：まっすぐな円筒形を特徴とし、大部分が比較的大型のもの（A1）で、ごく少数きわめて小型のもの（A2）がみられる。
- 形態B：中央部に最大径をもつ、そろばん珠状の紡錘形を特徴とする。
- 形態C：細長い紡錘形を特徴とし、丸みの強いもの（C1）と長細いもの（C2）とに、大きく二分される。
- 各形態A1が2点（第45図-75・76）、形態A2が2点（第45図-77・78）、形態Bが5点（第45図-79～83）、形態C1が12点（第45図-84～95）、形態C2が12点（第45図-96～107）であり、形態Cが73%を占める。

註

1) 赤塚美智代 1987「加工円盤」『土田遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2集

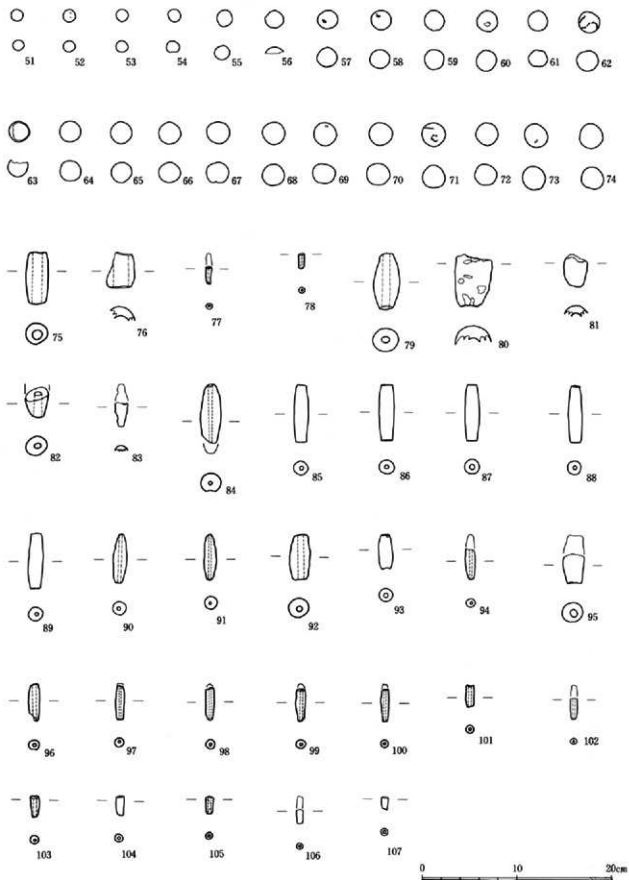
2) 蟹江吉弘 1994「加工円盤・陶丸」『堀之内花ノ木遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第52集

3) 宮腰健司・古橋佳子 1991「大洞遺跡出土の土錘について」『大洞遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第18集



第44図 遺物実測図 (18) (加工円盤)





第45図 遺物実測図 (19) (陶丸・土錘)

## 第7節 木製品

今回の調査区より出土した木製品は、総数170点を数える。ほとんどがSD01からの出土であり(158点)、若干SD02(4点)・SK02(5点)・包含層(3点)からの出土もみられる<sup>1)</sup>。

### 木胎漆器(第46図-1-15)

漆器類は、器壁が厚く高台部の高い椀A類(1~4)、器壁が厚く高台部の低い椀B類(5~12)、器壁が薄く高台部の高い椀C類(13)、皿類(14)、香合類(15)に大別できる。

椀A類はいずれも、外面に黒色漆、内面に赤色漆を塗布する。1は鶴・亀・蓬菜紋を施す。紋様は鈴木分類A2b類<sup>2)</sup>か。さらに1・3は底部外面に鑿痕を有する。椀B類は、外面に黒色漆、内面に赤色漆を塗布するもの(5~8、10~12)と内外面共に赤色漆を塗布するもの(9)がある。紋様は6に俵+草花紋、8に草花紋、10に宝珠+雲紋を認める。また、6・8は底部外面に掻き傷をもち、10は底部外面に赤色漆で線描きを施す。13は底部外面が黒色漆である他は赤色漆を塗布し、無紋である。14は外面に黒色漆、内面に赤色漆を塗布し、短冊+雲(+宝珠?)紋を施す。底部外面に掻き傷をもつ。15はSD02出土の香合の身の部分であり、口縁部に明瞭な段をもつ。外面に黒色漆、内面に赤色漆を塗布する。曲物桶(第46・47図-16-32)

16~27は底板である。形態はほとんどのものが円形であるが、隅丸方形(18)・楕円形(19)を呈するものもある。16は両面に黒色漆を塗布する。18は現存する範囲において2ヶ所、SK02出土の21は中央に1ヶ所穿孔を認める。19は木釘が6ヶ所残存する。24はわずかに側板が残存し、黒色漆の塗布も認められる。19・24はいずれも縁辺に段をもつ。26は木釘の痕跡が4ヶ所認められる。28・29は側板である。SD02出土の28は、一枚板で二重巻である。また判読はできないものの、外面に墨書が認められる。29は一枚板を二重巻にし、その間に一枚板を挟み込む。木による縫いあわせはおよそ0.8cm毎に行う。30・31は柄杓である。30は側板が二重巻きで、板皮による縫いあわせは、柄の差し込み口付近で0.8cm毎に行う。31は大型のもので、口径16cmを測る。柄の先端が欠損する他側板が破損しており、遺存状態は良好でない。板皮による縫いあわせは、柄の差し込み口付近でおよそ0.5cm毎に行い、さらに反対側はハの字状に丁寧な縫いあわせを施す。32は十字形木製品の一部分である。十字形木製品については上部に曲物桶などの容器を載せて吊した運搬具と想定されるが、詳細は不明である。板の中央部はわずかに凹み、両端には1ヶ所ずつ穿孔が認められる。

### 結桶(第47図-33-35)

33は底板である。2枚ないしは3枚の板を接合させて底板を形成したと思われ、その接合面には釘の痕跡が2ヶ所確認される。片面には無数の傷が認められ、まな板への転用も想定される。34・35は側板である。いずれも内面は底板の、外面はタガの圧痕が認められる。折敷(第48図-36-39)

全て底板である。長さは20~30cm程度のものから60cmを越す超大型のものもある。いずれも角の部分が丁寧に調整され、隅丸方形を呈す。

箱物 (第48図-40~43)

41は底板と側板が接合したものである。40は側面、42は底部の部材と思われる。43は鈎瓶の側板である。左右両縁には竹釘が残存しており、下半中央には穿孔が認められる。

編物 (第49図-53・54)

SK02出土の53は細い竹で平編みをし、さらにその上を漆紙で覆ったものである。54は篋あるいは箕の一部と思われる。網代編みをし、縁の部分は桜皮による編み込みが施される。

木簡 (第49図-55~58)<sup>3)</sup>

55は折敷片で、57は札、56・58は卒塔婆である。この内57は「おしやうけんさま」(「於将監様」と解釈する可能性もある)、58はム無名(咎?)西二親口(共?)七月十八日」と記載される。

その他 (第48・49図-44~52)

その他に火切臼・箸・バチ?・横槌・下駄・鞘片などがある。44はSK02出土の火切臼であり、3ヶ所の凹部には炭化が認められる。45・46は箸である。本調査区において箸の出土比率は比較的高いが、ほとんどが破片である。47は直径が1.2cmと太く、周りを寛く成形したものである。バチのようなものであろうか。48の横槌は、先端部全体にわたり敲打痕が認められる。49は差歯下駄の本体で、50は連歯下駄である。いずれも鼻緒の位置及び使用痕より、左足用と思われる。51・52は鞘片である。52は刀身の収まる部分が全体の長さに対して極端に短いものである。

用途不明品 (第49図-59~61)

59は中央部と凹部で互いに垂直になる形で、金属釘が認められる。60は基部に木釘が残存している。

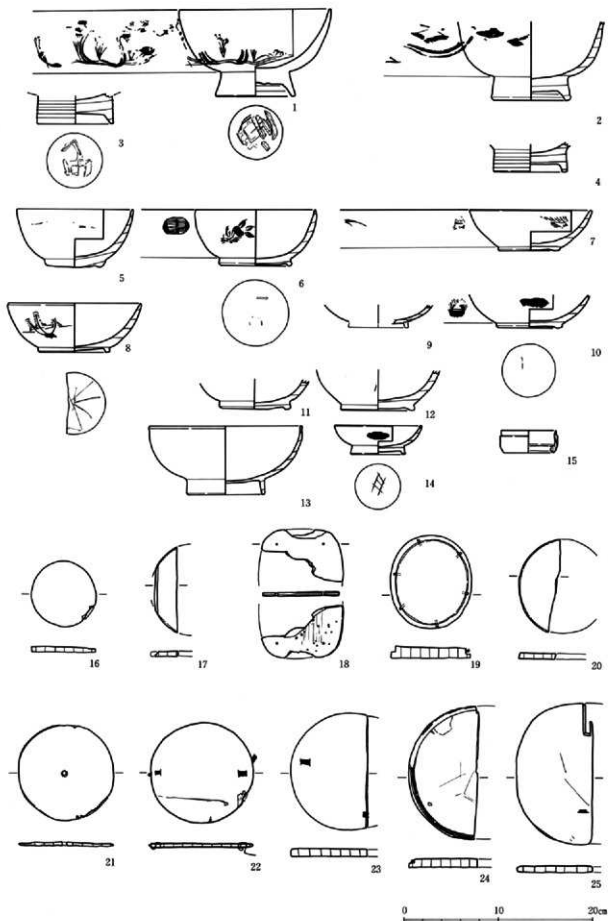
集計結果について (まとめ)

木製品は堆積状況により遺存状況が大きく異なるため判断が難しいが、散えて傾向を見るべく、集計を行った(表13参照)。この集計は器種とその数量を把握することに主眼をおいたため、陶磁器のように細かな分類項目にわたる集計は行っていない。またいくつかの破片であっても、明らかに同一個体と判断できる場合は1点として集計した。この集計結果も踏まえ、本調査区より出土した木製品の特徴は以下の通りである。

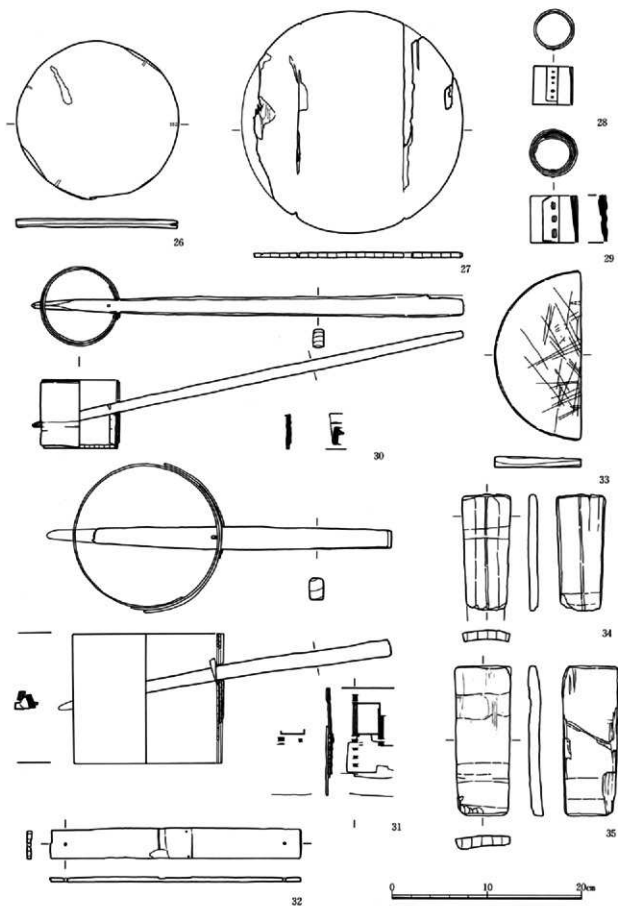
- ・漆器については皿1に対し椀23で、他の調査区と同様、椀の比率が圧倒的に高い。
- ・他の調査区と比べ<sup>4)</sup>、折敷・箱物・箸の出土率が比較的高い。
- ・折敷はいずれも角が丁寧に丸く調整される。また、長さ60cmを超す大型のものは珍しい。

註

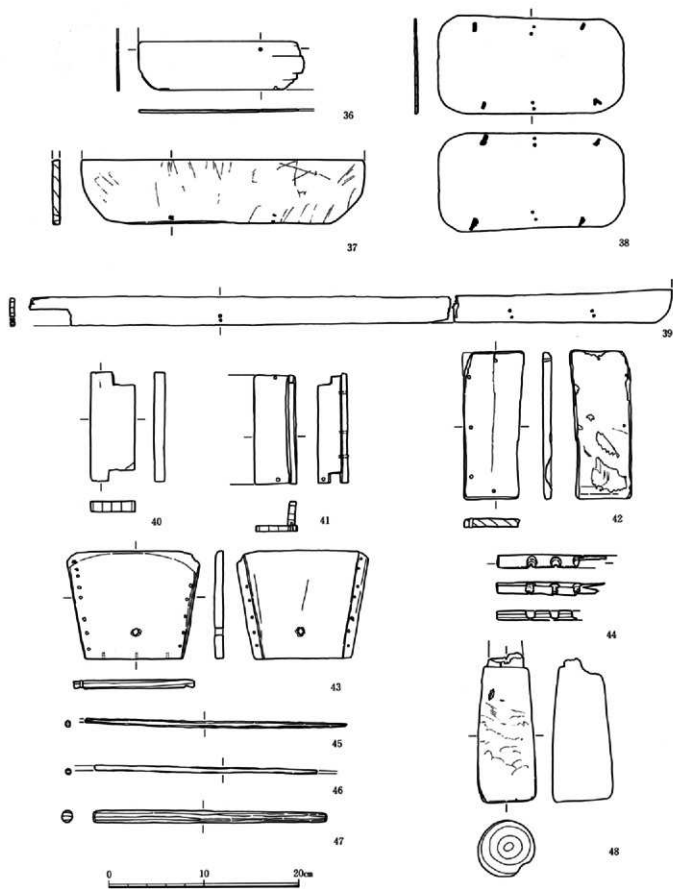
- 1) この他にSED1より出土した曲物(井戸杓)が確認されているが、中世のものであるため割愛した。
- 2) 鈴木正貴「清洲城下町から出土した漆器について」1992『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集
- 3) 木簡については下村信博氏(名古屋博物館)に実現していただき、御教示を得た。
- 4) 他地区の集計結果は「清洲城下町遺跡IV」資料編 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第53集 1994にまとめられており、それを参照した。



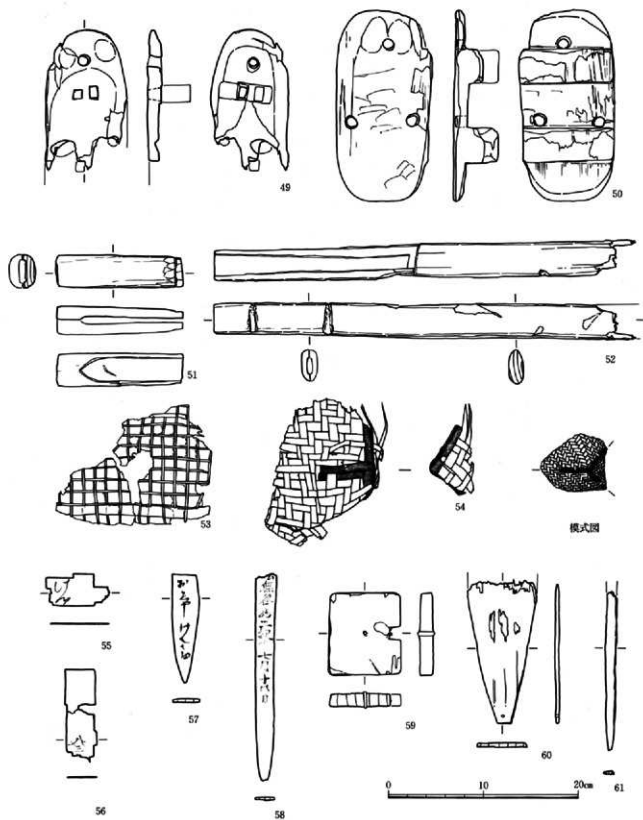
第46圖 遺物実測図 (20) (木製品)



第47図 遺物実測図 (21) (木製品)



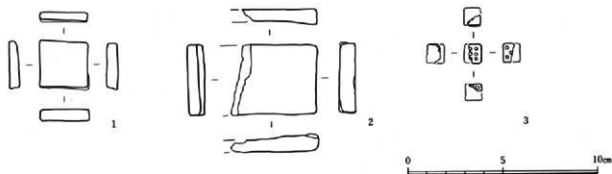
第48图 遗物实测图 (22) (木製品)



第49图 遺物実測図 (23) (木製品)

## 第8節 石製品 (第50図)

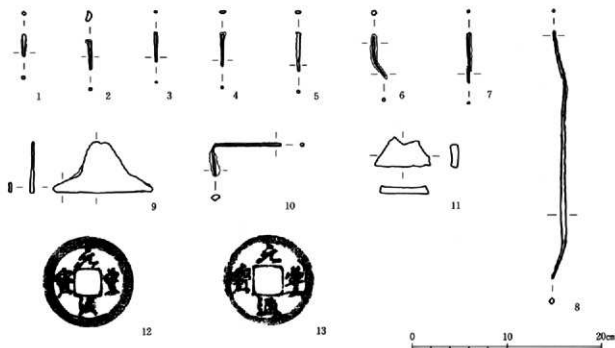
今回の調査で出土した石製品は4点である (内訳：砥石3点、サイコロ1点)。第50図-1・2は砥石で石材は1が流紋岩、2が泥質凝灰岩であろう。3は一辺1cmのサイコロであり、1・2の目を刻んだ面がすべて欠損している。石材は不明である。



第50図 遺物実測図 (24) (石製品)

## 第9節 金属製品 (第51図)

今回の調査で出土した金属製品は鉄製品25点 (内訳：釘類9点、火打ち金1点、火箸1点、鉄滓類10点、不明4点)、銅製品2点 (内訳：銭貨2点) である。第51図-1～7は釘類。8が火箸。9は火打ち金。10・11は不明である。12・13は銅製銭貨でいずれも「元豊通寶」(1078年初鑄、行書、宋銭) である。



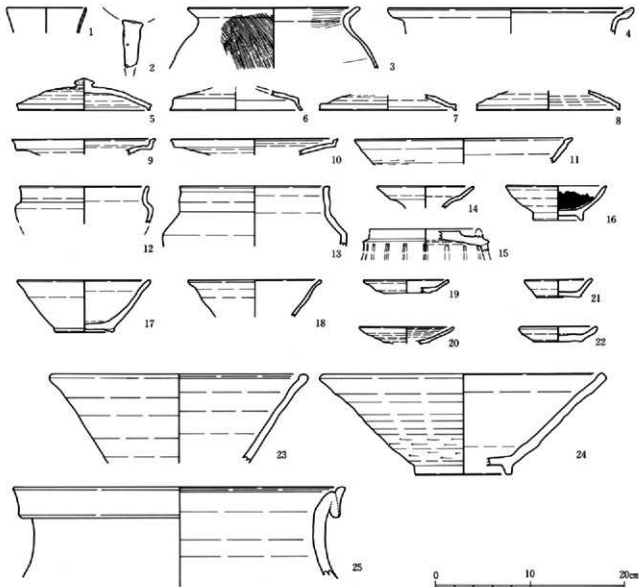
第51図 遺物実測図 (25) (金属製品) (12・13はS=1:1)



## 第10節 戦国期以前の遺物 (第52図)

本節では戦国期以前の遺物を紹介する。1・2は製塩土器。知多式製塩土器として捉えれば、1は口縁部が尖るタイプの杯(4類a)、2は舞台部(4類A)で、8世紀代に所属する。3は土師器甕でおよそ9世紀に、4は伊勢型鍋でおよそ13世紀に所属する。5~15は須恵器。器種は5~8が杯蓋、9~11が盤、12・13が鉢、14が甕、15が円面硯である。所属時期は5・11・14・15が高蔵寺2号窯式期、6・8・12・13・か鳴海32号窯式期、7・9・10が折戸10号窯式期である。16~25は灰釉系陶器。16は初期の灰釉系陶器椀で内面に漆が付着する。所属時期は猿投窯百代寺窯式期(美濃窯丸石2号窯式期)。17・21・22・23・24はいわゆる南部系灰釉系陶器で、皿21が中野・赤羽編年の4型式、椀17が同5型式、皿22・鉢24・甕25が同6a型式(以上中世知多古窯跡群の製品)、鉢23が藤澤編年の第6型式(瀬戸窯の製品)に所属する。また椀18、皿20は北部系灰釉系陶器で田口編年の明和1号窯式期に所属する。

**まとめ** 今回の調査では古代・中世の遺構が確認されず、遺物の大半が戦国期の遺構の埋土から出土した。図示した遺物は少ないが、8世紀以降、古代・中世の遺物は一定量出土していることが確認でき、周辺の調査でも同様の状況が確認されている。



第52図 遺物実測図 (26) (戦国期以前の遺物)

## 第11節 立会い調査で出土した遺物 (第53・54図)

本節では立会い調査で出土した遺物を遺構出土遺物を中心で紹介する。

## 1. 63G区SD112の南北部分から出土した遺物

器種は1～7が天目茶碗。8～10が椀。11が丸皿で内面に印花文がみられる。12・13が椀。14・15が重椀。16～20が椀鉢。21が壺。22が鍋(内耳)。23～25が釜(耳・羽有り)26が土鈴。1～20は瀬戸美濃窯産陶器、21は常滑窯産陶器である。所属時期は7・8～10・16～19が城下町期Ⅰ-1期(古瀬戸後Ⅳ期)、2・20が城下町期Ⅰ-2期(大窯第1段階)、1・3・6・11～15が城下町期Ⅱ-1期(大窯第2段階)、21は赤羽・中野編年の11型式であろう。

## 2. 63K区SD110と63H区SD116の中間部分から出土した遺物

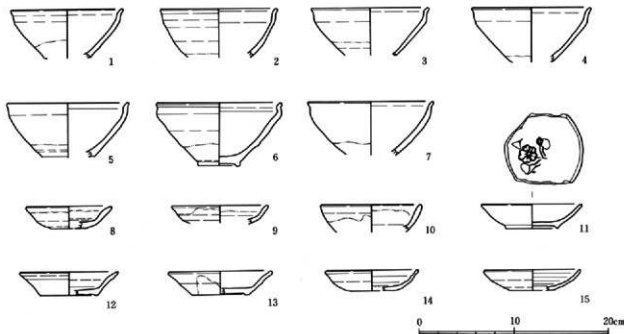
器種は27～32が非ロクロ調整の土師器皿。33～44がロクロ調整の土師器皿で、41の体部に穿孔(焼成後)がみられ、44の口縁部にタールの付着がみられる。45が天目茶碗。46が椀。47が釜。48が羽付鍋。陶器(45～47)は瀬戸美濃窯産と考えられ、所属時期は46・47が城下町期Ⅰ-1期(古瀬戸後Ⅳ期)、45が城下町期Ⅰ-2期(大窯第1段階)であり、土師器皿(27～44)、羽付鍋(48)も概ねその時期に所属するものとする。貨幣については49が嘉祐通寶(1056初鋳、篆書)、50が熙寧元寶(1068初鋳、篆書)、51が紹聖元寶(1094初鋳、行書)でありいずれも宋銭である。

## 3. 63K区SD111と63H区SD117の中間部分から出土した遺物

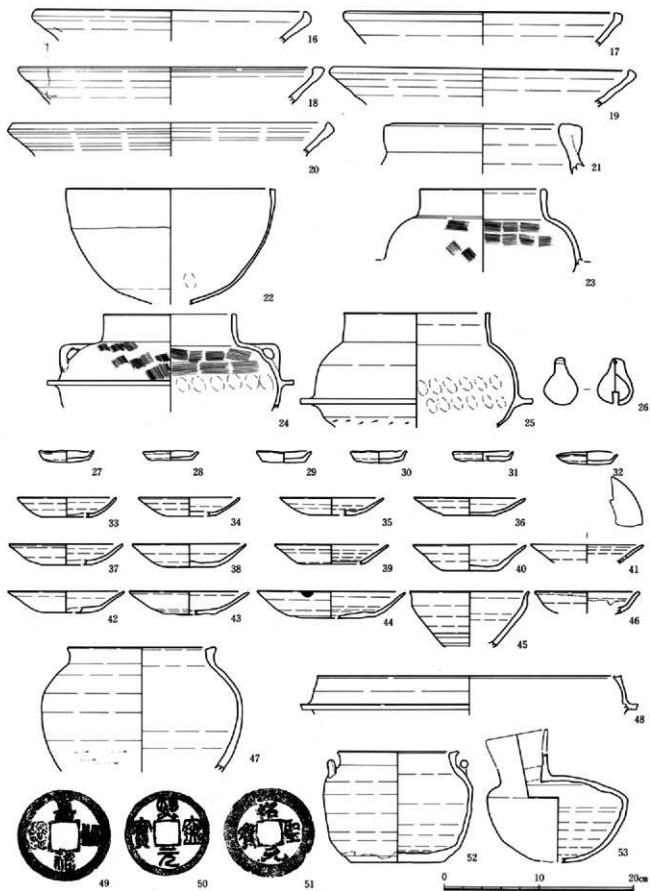
52はいわゆる広口有耳壺であり、城下町期Ⅰ-1期(古瀬戸後Ⅳ期)に所属する。

## 4. その他の遺物

53は上記2.3の溝よりも北側で出土した平瓶。出土状況や少量ながら同時期の遺物(細片)が付近にまぎれて出土する状況から遺構にともなっていた可能性が高い。所属時期は猿投窯編年の岩崎17号窯式期であろう。



第53図 遺物実測図(27)(立会い調査で出土した遺物)



第54図 遺物実測図 (28) (立会い調査で出土した遺物) (49~51はS = 1 : 1)

## 第4章 自然科学

### 第1節 獣骨類 (第55図)

今回、科、属、種のレベルまで同定できた試料は、魚類1点、爬虫類2種39点、鳥類2属3点、哺乳類6種71点、合計114点である。これらのうち113点はSD01で、スッポンの右鎖骨1点のみがSD02で出土したものである。

魚類：スズキの頭骨と思われるものが、SD01下層よりイヌや淡水棲カメの腹甲などとともに出土した。傷などは認められなかった。

爬虫類：スッポンと淡水棲カメの2種が出土した。スッポン：右鎖骨1点・腹甲6点・背甲14点。淡水棲カメ：腹甲13点・背甲5点。これらすべてに解体痕は認められない。淡水棲カメの腹甲は同一の部位が3点出土していることから、最低でも3匹存在したことが考えられる。

鳥類：カラス類の下嘴1点と右上腕骨1点。不明鳥類の右中足骨はその大きさよりカラス類のものかもしれない。いずれの骨にも傷は認められなかった。

哺乳類：6種71点出土している。イヌ32点・ウマ12点・シカ12点・ヒト6点・ウシ3点・イノシシ2点・不明4点。

イヌの試料は保存状態が良好で、解体痕と思われる傷が認められる試料も3点あった。解体痕の認められる部位は、右橈骨・左肩胛骨・左大腿骨である(3, 4 a, b)。他に骨折が治癒したと思われる左大腿骨が1点存在した。

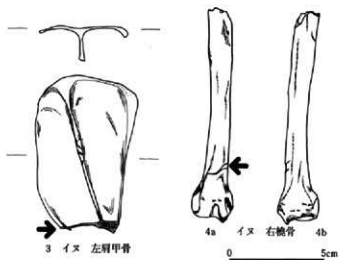
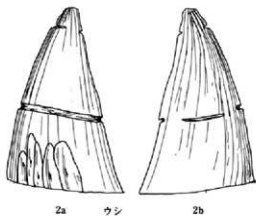
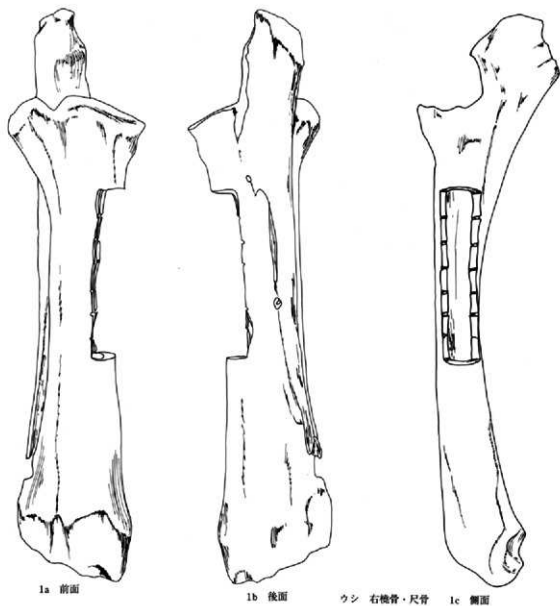
ウマの試料のうち、右上腕骨・右橈骨・右尺骨が一括試料である。これら3点の試料において遠位端、近位端の骨端線がともに消失していることから、3.5歳以上であると考えられる。また右肩胛骨においても、内側端に異常な骨増殖が見られることから老齢と思われる。解体痕は認められなかった。

シカは臼歯以外に完形の試料がなく、遠位端もしくは近位端が欠損しているものがほとんどであった。解体痕は認められなかった。

ヒトの試料のうち頭頂骨片は骨体の厚さなどから幼児のものと思われる。橈骨1点と部位不明の試料3点は火を受けて、変形白色化したものである。

ウシの右橈骨および尺骨は一括試料で、骨端線が遠位端・近位端ともに消失していることから4歳以上と思われる。右橈骨および角には加工痕が認められた(1 a-c, 2 a, b)。今回の発掘調査においては、これらの骨から作成されたと思われる骨製品が出土していないことから、加工された骨がどのように利用されたか推測することができなかった。

イノシシは右下顎のみが出土している。解体痕は認められなかった。



第55図 獣骨実測図

# 第5章 まとめ

## 第1節 遺構の性格

清洲城下町遺跡93D区で注目されるのは「SD01がどのような性格を有する溝であったか」という問題である。したがって本節ではSD01を中心に発掘調査で明らかになった点を整理し、従来の研究に照らしつつ問題解決の糸口を探りたい。

SD01について今回の発掘調査で明らかになった点を列挙する。

- ・SD01についてはその規模、位置、出土遺物からみて、城下町前期の清須城における中心地の遺構であることは確実である。
- ・出土遺物の大半は中層以下から出土し、15世紀後半～16世紀前半に所属する。また上層からは17世紀初頭までの遺物が出土している。セクションの観察からも中層以下は城下町前期の比較的短期間に埋まり、その後しばらくの間くぼみが残っていた可能性が高い。なお、清洲町が調査した「ふれあい広場SD01」もほぼ同様の所属時期である。(第2節参照)
- ・土師器皿が出土遺物の9割を越えることを考えれば日常以外の空間が存在した可能性が高く、数多く出土した墨書土師器皿のなかに仏教辞句が確認できることから信仰の場であった可能性が指摘できる。
- ・木製品のなかには「おしやうけんさま」と判読できる札が出土している。「於 将監様」と考えることも可能である。
- ・遺物の投棄された方向を根拠にすれば、この溝が区画した主たる空間は西側に展開する。
- ・立会い調査の成果から、SD01の東側にはSD02を北辺とし、北側に進入口をもつ区画が存在する。またその区画の北には東西の道がはしる。(第2章第4節参照)

### 非日常的空間

### 景観の復元

広大な面積を誇る清洲城下町遺跡のなかでも特に田中町北部地区は幅10m級の溝が検出され、大型の方形区画の存在が推定されるなど、城下町前期の清須城の中心的位置にある。先学による研究は鈴木正貴氏の論考にまとめられているので参照されたい<sup>1)</sup>。氏は発掘調査の成果をもとに戦国時代の清須城下町の景観を復元しているが、田中町北部地区の復元では従来の主郭(=居館)の区画溝について新たな推定案を示している。具体的に述べるに梅本博志氏が発掘調査の成果と『信長公記』にみられる「北矢藏」「南矢藏」「北矢藏天主次の間」を主な根拠として南北2つの居館と方形区画溝を想定したのに対して<sup>2)</sup>、鈴木氏は今回の発掘調査の成果(SD01)を根拠の1つとして梅本氏の想定した北の居館を想定からはずし、居館(南)には二重の区画溝が巡っていた可能性を指摘したのである。ほぼ同時期の岩倉城、勝幡城などにも本丸に二重の堀が確認でき、清須についてその可能性は否定できない。ただし、鈴木氏の案を採用した場合には堀と堀で囲まれた帯曲輪状の地点に多量の土師器皿を消費、投棄する場を想定することになり、疑問が残る。また『信長公記』にみられる「北矢藏」「南矢藏」「北矢藏天主次の間」などの記述に対する解釈も問題となろう。当地点の発掘調査が未だ「点」に過ぎない現在、それから「面」を語るこ

とは慎重でありたいが、居館の南東に展開する1区画を想定することも現時点では許されるのではない。居館の周囲（堀外）を幅10m前後の区画溝を有する屋敷地が取り囲めば、二重の堀と変わらない機能を備えることも可能である。

- 饗宴の場** つぎに出土遺物からSD01が区画する内部の様子について考えてみたい。土師器皿の圧倒的な出土量からまず想定されるのが「饗宴の場」である。しかし前述の墨書を積極的に評価すれば「信仰の場」を想定することも可能である。さらに想像を逞しくすれば墨書木札を「於 将監様」と読みその「人物の居する場」と考えることもできる。天文2（1533）年の清須の様子を知るのに重要な「言継御記」によれば、公家である山科言継が清須に滞在する間に輪道の弟子になった人物のなかに「千秋左近将監季通」の名がみられる。彼は「熱田神宮文書 千秋家文書」の系図によれば熱田大宮司、紀伊守である。彼の孫にあたる熱田大宮司・紀伊守千秋季光が織田信秀軍の武将として天文13（1544）年に澁州因幡山で戦死していることからわかるように当時の大宮司は武家化しており、「千秋左近将監季通」の「居する場」（役宅など）が清須にあったとも考えられる。大宮司の居する場は「信仰の場」としての機能を有し、武将達の「饗宴の場」であった可能性がある。想像に想像を重ねて推定すれば、以上のような空間が展開していたと考えることもできる。

註

- 1) 鈴木正貴1995「清洲城下町の復元的研究」『清洲城下町遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集
- 2) 梅本博志1989「信長期における清須城下町の様相」『清須—織豊期の城と都市—研究報告Ⅵ』東海埋蔵文化財研究会

## 第2節 出土遺物とその所属時期

今回の調査で出土した遺物については第3章で報告した。出土遺物は分類項目に従って数量カウントを実施したが、その結果については表11～13に集計したので参照されたい。

個々の遺物の所属時期についても多くの方の御教示を得てできる限り第3章に記載したが、本節では出土遺物から遺構の存続時期について考えてみたい。

まずSD01出土遺物のうち主な器種の所属時期について明らかになったことを列挙する。

- ・瀬戸美濃窯産の椀については城下町期Ⅰ-1～2期（古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第1段階）が主体であり、上層資料などに城下町期Ⅱ-2～Ⅲ-1期（大窯第3～4段階）が少量出土する。
- ・瀬戸美濃窯産の皿については城下町期Ⅰ-1～2期（古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第1段階）が主体であり、上層資料などに城下町期Ⅱ-1期（大窯第2段階）が出土し、城下町期Ⅲ-1期（大窯第4段階）もみられる。
- ・瀬戸美濃窯産の播鉢については城下町期Ⅰ-1～2期（古瀬戸後Ⅳ期新段階～大窯第1段階）が主体であるが、中層以下の資料に城下町期Ⅱ-1期（大窯第2段階）がみられる。上層資料などでは城下町期Ⅱ-1～2期（大窯第2～3段階）が出土し、城下町期Ⅲ-1期（大窯第4段階）はみられない。なお、平鉢については古瀬戸後Ⅳ期新段階（城下町期Ⅰ-1期）が多く、上層資料などに城下町期Ⅱ-2～Ⅲ-1期（大窯第3～4段階）が少量出土する。













### 第3節 土師器皿の製作技法について

#### はじめに

清洲城下町遺跡93D区の調査ではSD01を中心として一括性の高い大量の遺物の出土をみた。特に土師器皿は全出土遺物（陶磁器・土器）のうち93.6%（口縁部残存率）を占め、総破片数45932点、口縁部残存率の合計58349（1/12単位、以下同様に表示する）にのぼる。より多くの情報を得るべく数量カウントを実施したが（第3章参照）、本節では製作技法について考えてみたい。

清洲城下町遺跡出土の土師器皿は、底部外面の回転糸切り痕の有無を根拠にロクロ（回転台）成形<sup>1)</sup>と非ロクロ（手づくね）成形の2種類に大別され、ロクロ成形は水挽きによる皿形態の作成を想定してきた。しかし今回の調査で出土した遺物のうち、従来ロクロ成形としてきた土師器皿の体部内外面に螺旋もしくは同心円状の凹線が確認できる資料があり、当センターが調査した大毛池田遺跡、岩倉城遺跡、清洲城下町遺跡の他の調査地点から出土したほぼ同時期の遺物からもほぼ同様の痕跡を確認した。破断面の観察から粘土紐積み上げ<sup>2)</sup>の痕跡である可能性が高いため成形技法を再検討することにした。

#### (1)研究史

当地方における土師器皿の成形技法に関する研究はほとんど行われていない<sup>3)</sup>。したがってここでは、灰軸陶器、灰軸系陶器について、粘土紐積み上げ技法に関する研究を概観する。

**灰軸陶器** 岐阜県恵那市の正家1号窯出土の11世紀前半に所属する灰軸陶器碗皿の報告に際して斎藤孝正氏は、一部に底部内面に回転糸切り痕を残す例がみられること、体部に粘土紐接合による沈線状の継目がみられるものが多く存在しこの継目が不規則ながら螺旋状になること、体部の断面に粘土紐を接合するための擬口縁がみられるものがあることを指摘し、底部円柱づくり<sup>4)</sup>による成形を想定している。正家1号窯の出土遺物は11世紀前半（虎渓山1号窯式期）に所属する<sup>5)</sup>。

**灰軸系陶器** 灰軸陶器の系譜をひく灰軸系陶器についても中野晴久氏は中世知多古窯跡群出土の碗皿の観察をつうじて粘土紐巻き上げの痕跡を残す資料の存在を指摘している<sup>6)</sup>。また、赤羽一郎氏は「山茶碗・小皿や鉢類は、ロクロの上ののせた粘土の柱の上面に粘土紐であらかたの形をつくっておき、ロクロの回転力を応用してへらなどで目的の形に整えるのです。」と述べている<sup>7)</sup>。さらに野末浩之氏は愛知県西加茂郡藤岡町の中清田古窯跡群の発掘調査で出土した13世紀後半～14世紀前半の灰軸系陶器碗皿から同種の成形技法を論じている。野末氏は南多摩塚址群の例、正家1号窯の例、中世知多古窯跡群の例の他に群馬県利根郡月夜野町の藪田遺跡出土の須恵器大型高台付碗と無高台の杯を取り上げている<sup>8)</sup>。

以上、灰軸陶器、灰軸系陶器における粘土紐積み上げ技法、底部円柱づくりについての研究を概観した。猿投窯において8世紀中頃に底部回転糸切り痕が出現した後は碗、杯類におけるロクロ水挽き成形が優位に立ち、灰軸陶器、灰軸系陶器に至っては完全にロクロ水挽き成形であると考えられる研究者が多い。しかし、回転糸切り痕は切り離しの際に付く痕

跡であり、ロクロ水挽き技法という成形技法とは別段階の問題であり、正家1号窟、中世知多古窟跡群、中清田古窟跡群の資料の存在を考える時、古代～中世における1技法として粘土紐積み上げ技法、底部円柱づくりを再検討すべきであろう。今回は15世紀末～16世紀前半の土師器皿について同種の製作技法を復元しうるか検討してみたい。

## (2)各遺跡の状況

### 清洲城下町遺跡93D区SD01出土資料（第57図-1～6・写真1～3）

93D区で検出されたSD01からは1㎡あたり90点以上の土師器皿が出土し、27ℓのコンテナで100箱以上に及ぶ（ロクロ調整土師器皿：口縁部残存率17119、破片数35469 非ロクロ調整土師器皿：口縁部残存率40398、破片数9454）。この量はこれまでに例を見ない出土量であり、さらに出土遺物の一括性が非常に高い。以下、粘土紐積み上げ技法に関わると考えられる痕跡等について記述する。なお、遺物の所属時期は共伴遺物などから15世紀後半から16世紀前半に比定できる。

#### a. 体部内外面に残る沈線状の痕跡について

体部外面に螺旋もしくは同心円状の沈線が口縁部残存率で1174（ロクロ調整土師器皿全出土量の7%）、破片数で816（同全出土量の2.3%）の資料で確認された。沈線は部分的にしか残存せず、大半はコテなどによる調整によって消されている。また、体部内面は外面より丁寧な調整が施されており、明瞭な沈線を確認できた資料は数例であった。破断面については、岩石カッターで切断した後研磨し、実体顕微鏡で観察したが、明確な接合痕を確認することはできなかった。ただし断面のなかにはそのような策を講じなくても粘土紐の接合痕らしき痕跡が確認できる例もあり、その部分で割れている例も多い<sup>9)</sup>。

#### b. 底部径について

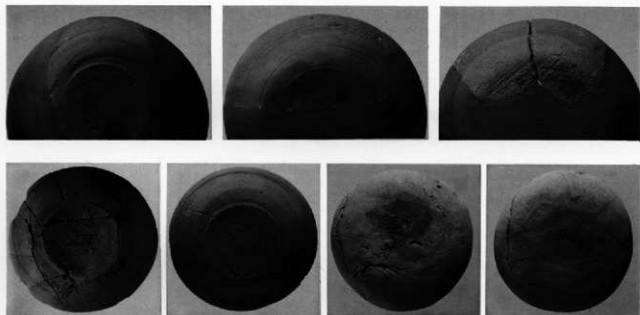
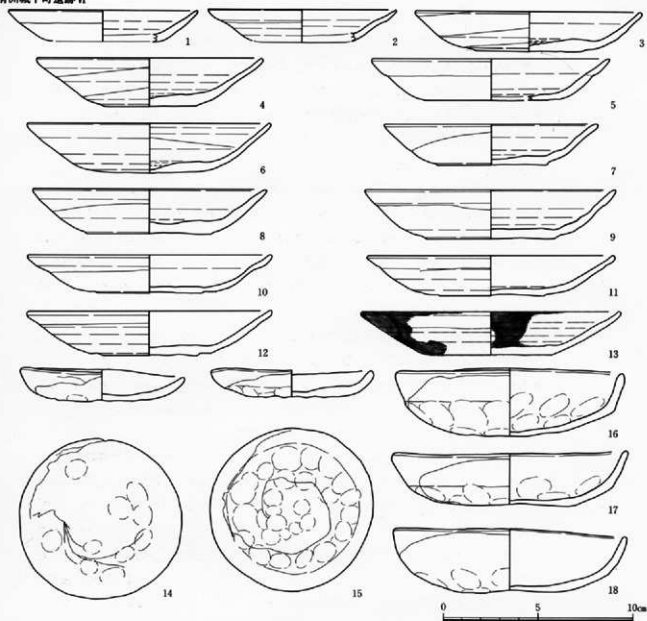
底部の糸切り痕が1/2以上残る全ての資料を対象にして底径を計測した（底径は糸切り痕の部分で計測した）。結果は第59図のとおりであり、4～5cmに全体の84.5%が集中する。口縁部の計測（第58図）では6～8cmの小型、10～12cmの中型、それ以上の大型と法量のバラエティがみられるのに対して、底径はほぼ共通であることがわかる。

### 岩倉城遺跡出土資料（第57図-7～9・写真4・5）

岩倉城遺跡は愛知県岩倉市下本町から大市場町にかけて所在する。五条川右岸の自然堤防上に立地し、前述の清洲城下町遺跡は川を約10km南下した位置にある（直線距離約7.5km）。昭和62年～平成2年にかけて実施された発掘調査の結果、岩倉城の内堀、外堀、区画溝、建物、土坑、柱穴などが確認され、右岸のみならず左岸にも城の範囲が広がっていたことが明らかになった<sup>10)</sup>。今回は2重の堀で囲まれた本丸内を区画した溝（SD03、SD06）から出土した土師器皿に限定して数量カウントを実施した。対象となったロクロ調整の土師器皿は口縁部残存率の合計7494、破片数15683点である。遺物の所属時期はほぼ清洲城下町遺跡と同じである。

#### a. 体部外面に残る沈線状の痕跡について

体部外面に螺旋状の沈線が口縁部残存率で1195（カウント対象資料の15.9%）、破片数で931（同6%）の資料で確認された。清洲城下町遺跡の資料と同様に沈線は部分的にしか残存せず、大半はコテなどによる調整によって消されている。



第57図 土師器皿製作技法 (遺物実測図・写真)

## b. 底径について

底部の糸切り痕が1/2以上残る全ての資料を対象にして底径を計測した(底径は糸切り痕の部分で計測した)。結果は第59図のとおりであり、4～8cmに全体の90.1%が集中する。しかし清洲城下町遺跡と比較するとばらつきが多い。また口縁部の計測(第58図)では8cm前後の小型、11～12cmの中型、14～16cmの大型と法量のバラエティがみられるが、底径と口径は正比例の関係にある。

## 大毛池田遺跡出土資料(第57図-10～18・写真6・7)

大毛池田遺跡は愛知県一宮市に所在する。木曾川左岸の自然堤防上に立地し、古墳時代から戦国時代にかけての複合遺跡である。平成6年度の調査では1辺100m前後の方形区画溝が確認され、その溝と周辺の遺構から遺物がまぎって出土しており、方形区画溝の廃絶後に掘削された遺構から天文8年(1539)の紀年銘木簡が出土している。調査は平成7年度も継続して実施されており、遺物も整理段階であるため、カウントなどは実施していない<sup>11)</sup>。今回紹介する資料は前述の方形区画溝出土(15世紀末から16世紀初め)のロクロ調整土師器皿(第57図-10～13)であるが、参考資料として13世紀中頃から14世紀初めに所属すると思われる非ロクロ調整土師器皿(第57図-14～18・写真6・7)も掲載した。いずれも粘土紐の積み上げによって生じたと思われる痕跡が確認できる。

## (3)成形技法について

上記の3遺跡について15世紀末～16世紀前半に所属するロクロ調整の土師器皿を観察した結果、いずれの遺跡からも粘土紐の積み上げによって体部内外面に生じたと思われる螺旋もしくは同心円状の沈線を確認できた。このことから底部の粘土板(もしくは粘土塊)に粘土紐を積み上げて皿の形態を完成させ、その後ロクロの回転によって内外面にコテなどで調整し、糸切りによって切り離すといった土師器皿の製作技法が想定される。粘土紐の痕跡の大半は調整段階で消されたと考えられ、特に内面は外面に比べて丁寧に調整されるため、粘土紐の痕跡はほとんど残らない。今回の検討をもとにロクロ調整土師器皿における粘土紐積み上げ技法を15世紀末～16世紀前半の土師器皿製作技法の1つとすると、従来の「ロクロ成形」という用語は不適切であると考え、本書では「ロクロ調整」に統一した。なお、清洲城下町遺跡において底径が5～6cmに集中することから底部の規格化が考えら

製作技法の  
想定底部円柱  
づくり

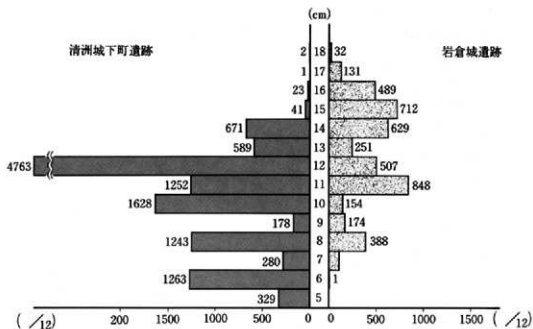
## 技術系譜

れ、円柱状の粘土塊をロクロにのせ、上端に粘土紐を接合し巻き上げる底部円柱づくりの可能性も否定できないが、底部内面に糸切り痕を残す資料が確認されていないこと<sup>12)</sup>、岩倉城遺跡では底径のばらつきが多いことなどを考慮すると結論を急ぐことはできない。さらに技術系譜の問題についても、当地方の中世土師器皿(非ロクロ調整土師器皿)の一群に粘土紐積み上げ技法が存在することから、この技法がロクロ調整土師器皿へ受け継がれたとも考えることもでき<sup>13)</sup>、一方で灰釉陶器、灰釉系陶器の製作技法の系譜として捉えることも可能である。この問題についても今後の課題として検討したい。

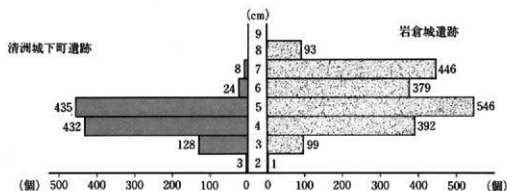


おわりに

小稿を記すにあたって、赤塚次郎、遠藤才文、尾野善裕、岡田智子、金子健一、佐藤公保、高橋信明、鈴木正貴、中野晴久、永井宏幸、北条真木、藤澤良祐の各氏には様々な御教示、御高配を賜った。心から謝意を表すしだいである。



第58図 清洲城下町遺跡・岩倉城遺跡出土土師器皿口径頻度図 (口縁部残存率)



第59図 清洲城下町遺跡・岩倉城遺跡出土土師器皿底径頻度図

## 註

- 1) 小編では「ロクロ」「回転台」の用語について、どちらが適切かを扱わず、「ロクロ」を使用する。
- 2) 小編では粘土紐の「巻き上げ」と「輪積み」を総称して「積み上げ」とする。
- 3) 当地方の土師器皿の研究として  
佐藤公保1986「中世土師器研究ノート(1)」『年報 昭和60年度』(財)愛知埋蔵文化財センター  
佐藤公保1986「中世土師器研究ノート(2)」『年報 昭和61年度』(財)愛知埋蔵文化財センター  
製作技法にかかわる研究として  
橋本久和1987「中世土師器の製作技法ノート(1)」『中近世土師器の基礎研究Ⅲ』日本中世土師研究会  
森 隆1994「回転台土師器の研究史素描」『中近世土師器の基礎研究Ⅴ』日本中世土師研究会  
伊野近富1995「土師器皿」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土師研究会編  
などを参考にした。
- 4) 原部敬史・福田健司1979「南多摩窯址群出土の須恵器とその編年」『神奈川考古』第6号 神奈川考古同人会。  
このなかで岡氏は底部のみが円板状に割れ残る例、底部と体部の境に接合痕跡を残す例、底部内外面ともに  
糸切り痕跡を残す例を根拠に、円柱状の粘土塊をロクロにのせ、上端に粘土紐を接合し、ロクロを回転させ  
ながら巻き上げ、さらに回転を利用して調整を行い、糸を用いて柱状部から切り離す成形技法を想定された。  
この技法は南多摩窯址群において10世紀後半(G14窯式期)以前に存在したとされる。
- 5) 斎藤孝正1983「『實考』3. 製作技法について」『正家1号堂発掘調査報告書』恵那市教育委員会
- 6) 中野晴久1983「知多古窯址群における山茶碗の研究」『常滑市民俗資料館研究紀要1』  
中野晴久1984「知多古窯址における中世陶器成形技法の再検討」『知多古文化研究1』知多古文化研究会
- 7) 赤羽一郎1995「中世常滑焼とは何か」永原慶二編「常滑焼と中世社会」小学館
- 8) 野末浩之1987「内面糸切り痕をもつ山茶碗片をめぐって」『愛知県陶磁資料館研究紀要6』
- 9) 内隈による断面観察では粘土紐接合痕らしき痕跡を確認できたが、今回は実測図の断面には記入していない。
- 10) 松原隆治編1992『岩倉城遺跡』愛知埋蔵文化財センター調査報告書第38集
- 11) 北條真木1995「大毛池田遺跡出土の土師器皿について」『年報 平成6年度』(財)愛知埋蔵文化財センター
- 12) 清洲城下町遺跡93D区出土の全資料および岩倉城遺跡でカウント対象にした資料中からは確認できなかった。
- 13) 同時期(15世紀末～16世紀前半)の非ロクロ調整土師器皿は口径の小さいもの(5～7cm)が主体であり、  
皿一枚分の粘土を手に取り、それを皿の形態に作りあげる技法を用いており、粘土積み上げの技法は使用  
されていない。

# 付 表

遺構一覽表  
遺物觀察表

## 遺構一覽表

遺構番号	長cm	短cm	深cm	断面形態	平面形態	調査区	所属時期	備考
S D 0 1	-	786	120	箱		93D区	戦国期	遺物多量
S D 0 2	-	215	64	V字		93D区	戦国期	
S D 0 3	-	120	20	皿		93D区	不明	
S D 0 4	-	140	40	V字		93E区	戦国期	立会い調査
S D 0 5	-	140	40	V字		93E区	戦国期	立会い調査
S D 0 6	-	150	40	V字		93E区	戦国期	立会い調査
S D 0 7	-	60	30	皿		93E区	不明	立会い調査
S K 0 1	190	175	30	皿	円	93D区	戦国期	
S K 0 2	100	98	32	箱	円	93D区	戦国期	最下層にザル, その直下に漆製品
S K 0 3	222	176	30	皿	楕円	93D区	戦国期	S D 0 1最下層
S E 0 1	146	132	60	箱	楕円	93D区	中世	曲物5段残存
S E 0 2	100	-	-	箱	円	93E区	戦国期?	立会い調査、結構板2枚残存
S E 0 3	70	-	-	箱	円	93E区	戦国期?	立会い調査、結構板

## 遺物観察表

遺構番号	調査区	遺物	産地・材質	数量	口径(cm) 高さ(cm) 胴径(cm) 内径	形状	出土	出土層	出土位置	備考	撮影番号	
1	93D	2501北東	瀬戸焼	小笠原茶碗	16.4	-	-	片割	片割-片割	4.5層	E-1	
2	93D	2501北東	瀬戸焼	小笠原茶碗	16.4	-	-	片割	片割-片割	4.5層	E-2	
3	93D	2501北東	瀬戸焼	小笠原茶碗	16.4	-	-	片割	片割-片割	4.5層	E-3	
4	93D	2501北東	瀬戸焼	小笠原茶碗	16.4	-	-	片割	片割-片割	4.5層	E-4	
5	93D	2501北東	瀬戸焼	小笠原茶碗	16.4	-	-	片割	片割-片割	4.5層	E-5	
6	93D	2501北東	瀬戸焼	小笠原茶碗	16.4	-	-	片割	片割-片割	4.5層	E-6	
7	93D	2501北東	瀬戸焼	小笠原茶碗	16.4	-	-	片割	片割-片割	4.5層	E-7	
8	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	10.4	5.8	14.0	片割	片割-片割	2.5層	E-8	
9	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	5.9	14.0	片割	片割-片割	2.5層	E-9	
10	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.7	14.0	片割	片割-片割	6.0層	E-10	
11	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	5.9	14.0	片割	片割-片割	3.0層	E-11	
12	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	5.0層	E-12	
13	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	4.0層	E-13	
14	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.7	14.0	片割	片割-片割	4.0層	E-14	
15	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	3.0層	E-15	
16	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.0	4.3	片割	片割-片割	5.0の0層	E-16	
17	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	5.8	4.4	片割	片割-片割	2.0層	E-17	
18	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	4.0層	E-18	
19	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	4.0層	E-19	
20	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.5	4.9	片割	片割-片割	2.0層	E-20	
21	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	3.0層	E-21	
22	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	E-22	
23	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	3.0層	E-23	
24	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	3.0層	E-24	
25	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	スチ付層	E-25
26	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	E-26	
27	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	E-27	
28	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	4.0層	E-28	
29	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	7.0	4.5	片割	片割-片割	5.0層	E-29	
30	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	3.0層	E-30	
31	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	4.0層	E-31	
32	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	4.0層	E-32	
33	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	7.0層	E-33	
34	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.7	15.0	片割	片割-片割	2.0層	E-34	
35	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	5.7	15.0	片割	片割-片割	4.0層	スチ付層	E-35
36	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	E-36	
37	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	E-37	
38	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	1.0層	E-38	
39	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	E-39	
40	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	E-40	
41	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	2.0層	E-41	
42	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.4	16.7	片割	片割-片割	1.0層	E-42	
43	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.4	6.9	片割	片割-片割	1.0層	E-43	
44	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	3.0層	E-44	
45	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	-	-	片割	片割-片割	1.0層	E-45	
46	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	3.8	14.0	片割	片割-片割	2.0層	E-46	
47	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	4.1	5.6	片割	片割-片割	3.0層	E-47	
48	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.0	5.1	片割	片割-片割	1.0層	E-48	
49	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	6.0	5.1	片割	片割-片割	3.0層	E-49	
50	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	5.1	4.8	片割	片割-片割	3.0層	E-50	
51	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	10.6	5.1	片割	片割-片割	1.0層	E-51	
52	93D	2501北東	瀬戸焼	天目茶碗	11.0	7.1	5.9	片割	片割-片割	9.0層	E-52	

神戸市立高等学校別 Ⅱ													
校種番号	校種	種別・材質	種別	口径(mm)	厚さ(mm)	長さ(m)	内径	内径	備考	軸上	口輪継手分	自重	製造番号
1	2001本校	神戸市立	鋼橋	15.7	2.4	15.2	鋼橋	鋼橋-全開弓			2	kg	E-15
2	2001本校	神戸市立	鋼橋	9.9	3.0	3.2	鋼橋	鋼橋-全開弓			10	kg	E-16
3	2001	神戸市立	鋼橋	9.9	2.5	2.6	鋼橋-ケーブル付	鋼橋-全開弓・ケーブル付			10	kg	E-17
4	2001	神戸市立	鋼橋	112.7	-	-	鋼橋	鋼橋-スチール			1	kg	E-18
5	2001本校	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-19
6	2001-10	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-20
7	2001-4	神戸市立	鋼橋	112.7	12.7	18.1	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-21
8	2001-10	神戸市立	鋼橋	112.7	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-22
9	2001本校	神戸市立	鋼橋	112.7	2.9	15.2	鋼橋	鋼橋-全開弓			2	kg	E-23
10	2001本校	神戸市立	鋼橋	112.7	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-24
11	2001-9	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-25
12	2001-9	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-26
13	2001本校	神戸市立	鋼橋	110.0	2.3	15.9	鋼橋-スチール	鋼橋-スチール			1	kg	E-27
14	2001北ベルト	神戸市立	鋼橋	111.0	-	-	鋼橋	鋼橋-スチール	鋼橋-スチール		3	kg	E-28
15	2001北ベルト	神戸市立	鋼橋	111.0	-	-	鋼橋-トタン	鋼橋-トタン			3	kg	E-29
16	2001本校	神戸市立	鋼橋	112.7	3.1	16.0	鋼橋-スチール	鋼橋-スチール			2	kg	E-30
17	2001-2	神戸市立	鋼橋	116.0	2.2	4.8	鋼橋	鋼橋-トタン			2	kg	E-31
18	2001-2	神戸市立	鋼橋	112.7	2.2	16.0	鋼橋	鋼橋			3	kg	E-32
19	2001	神戸市立	鋼橋	6.5	2.2	5.1	鋼橋(橋脚付)	鋼橋			11	kg	E-33
20	2001-9	神戸市立	鋼橋	116.0	2.7	4.5	鋼橋	鋼橋-トタン			2	kg	E-34
21	2001	神戸市立	鋼橋	9.1	2.1	5.2	鋼橋-ケーブル付	鋼橋-ケーブル付			15	kg	E-35
22	2001-9	神戸市立	鋼橋	10.7	2.7	6.6	鋼橋	鋼橋-トタン			6	kg	E-36
23	2001-10	神戸市立	鋼橋	10.7	2.7	6.0	鋼橋	鋼橋-トタン			6	kg	E-37
24	2001-10	神戸市立	鋼橋	10.7	2.5	5.1	鋼橋	鋼橋-トタン			9	kg	E-38
25	2001-9	神戸市立	鋼橋	110.0	2.2	16.2	鋼橋	鋼橋-トタン			4	kg	E-39
26	2001北ベルト	神戸市立	鋼橋	116.0	2.4	5.8	鋼橋	鋼橋-トタン			10	kg	E-40
27	2001本校	神戸市立	鋼橋	11.1	2.9	5.4	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-41
28	2001本校	神戸市立	鋼橋	111.0	2.7	5.9	鋼橋	鋼橋-トタン			2	kg	E-42
29	2001本校	神戸市立	鋼橋	111.0	2.7	16.0	鋼橋	鋼橋			4	kg	E-43
30	2001-1	神戸市立	鋼橋	111.0	2.7	6.1	鋼橋-見込み・印実(橋脚付)	鋼橋-トタン			4	kg	E-44
31	2001-10	神戸市立	鋼橋	11.6	2.8	6.1	鋼橋	鋼橋-トタン			10	kg	E-45
32	2001-10	神戸市立	鋼橋	111.0	2.7	16.0	鋼橋	鋼橋-トタン			4	kg	E-46
33	2001本校	神戸市立	鋼橋	111.0	2.7	6.6	鋼橋-見込み・印実(橋脚付)	鋼橋-トタン			2	kg	E-47
34	2001-10	神戸市立	鋼橋	11.6	2.8	6.7	鋼橋	鋼橋			8	kg	E-48
35	2001本校	神戸市立	鋼橋	111.0	6.0	6.2	鋼橋	鋼橋			4	kg	E-49
36	2001上層	神戸市立	鋼橋	111.7	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-50
37	2001-2	神戸市立	鋼橋	5.5	1.5	3.0	鋼橋	鋼橋-トタン			1	kg	E-51
38	2001本校	神戸市立	鋼橋	5.7	1.5	3.3	鋼橋-ケーブル付	鋼橋-トタン			10	kg	E-52
39	2001本校	神戸市立	鋼橋	5.9	1.8	3.0	鋼橋	鋼橋			7	kg	E-53
40	2001-2	神戸市立	鋼橋	11.6	2.9	16.0	鋼橋	鋼橋-トタン			12	kg	E-54
41	2001上層	神戸市立	鋼橋	11.6	3.7	5.8	鋼橋-三又トタン	鋼橋-トタン			2	kg	E-55
42	2001本校	神戸市立	鋼橋	110.0	2.2	16.1	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-56
43	2001本校	神戸市立	鋼橋	112.0	2.4	16.0	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-57
44	2001本校	神戸市立	鋼橋	112.0	2.4	16.0	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-58
45	2001-9	神戸市立	鋼橋	110.0	2.2	14.0	鋼橋-板橋	鋼橋			3	kg	E-59
46	2001北ベルト	神戸市立	鋼橋	8.9	2.3	4.0	鋼橋-板橋	鋼橋			9	kg	E-60
47	2001上層	神戸市立	鋼橋	110.7	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-61
48	2001-1	神戸市立	鋼橋	111.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-62
49	2001本校	神戸市立	鋼橋	111.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-63
50	2001本校	神戸市立	鋼橋	110.0	2.0	11.7	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-64
51	2001-10	神戸市立	鋼橋	11.6	2.5	13.0	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-65
52	2001-10	神戸市立	鋼橋	9.4	2.4	3.5	鋼橋	鋼橋			6	kg	E-66
53	2001本校	神戸市立	鋼橋	9.4	2.1	3.6	鋼橋	鋼橋			12	kg	E-67
54	2001本校	神戸市立	鋼橋	11.0	2.4	3.0	鋼橋	鋼橋			5	kg	E-68
55	2001本校	神戸市立	鋼橋	11.0	2.3	16.3	鋼橋	鋼橋			3	kg	E-69
56	2001-8	神戸市立	鋼橋	9.9	2.6	3.8	鋼橋	鋼橋			8	kg	E-70
57	2001上	神戸市立	鋼橋	10.0	2.6	4.2	鋼橋	鋼橋			12	kg	E-71
58	2001本校	神戸市立	鋼橋	110.0	2.4	16.0	鋼橋	鋼橋			4	kg	E-72
59	2001上層	神戸市立	鋼橋	110.7	2.5	13.0	鋼橋	鋼橋			3	kg	E-73
60	2001本校	神戸市立	鋼橋	10.1	2.7	4.2	鋼橋	鋼橋			4	kg	E-74
61	2001本校	神戸市立	鋼橋	110.0	2.4	-	鋼橋	鋼橋			4	kg	E-75
62	2001本校	神戸市立	鋼橋	110.0	15	16.0	鋼橋	鋼橋-全開弓			6	kg	E-76
63	2001本校	神戸市立	鋼橋	111.0	2.4	4.7	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-77
64	2001-2	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-78
65	2001本校	神戸市立	鋼橋	115.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-79

神戸市立高等学校別 Ⅲ													
校種番号	校種	種別・材質	種別	口径(mm)	厚さ(mm)	長さ(m)	内径	内径	備考	軸上	口輪継手分	自重	製造番号
1	2001-10	神戸市立	鋼橋	111.7	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-100
2	2001-10	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-101
3	2001本校	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-102
4	2001本校	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-103
5	2001-10	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-104
6	2001-8	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-105
7	2001上層	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-106
8	2001-5	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-107
9	2001	神戸市立	鋼橋	116.0	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-108
10	2001本校	神戸市立	鋼橋	110.0	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-109
11	2001北ベルト	神戸市立	鋼橋	112.7	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-110
12	2001-8	神戸市立	鋼橋	113.0	-	-	鋼橋	鋼橋			2	kg	E-111
13	2001本校	神戸市立	鋼橋	113.7	-	-	鋼橋	鋼橋			1	kg	E-112

清洲城下町道跡VI

14 2001-5	埋戸発見	埋物	(25.0)	-	-	埋物			1.1層	E-132
15 2001	埋戸発見	埋物	(37.0)	11.5	9.4	埋物-板状磚瓦			1.1層	E-133
16 2001-1 北室	埋戸発見	埋物	(37.0)	10.2	9.6	埋物			2.2層	E-134
17 2001	埋戸発見	埋物	(38.4)	-	-	埋物			2.1層	E-135
18 2001-10	埋戸発見	埋物	(38.0)	-	-	埋物			2.1層	E-136
19 2001-4	埋戸発見	埋物	(39.0)	-	-	埋物-スズ・黄銅製物			1.1層	E-137
20 2001-4	埋戸発見	埋物	(39.0)	-	-	埋物			2.2層	E-138
21 2001	埋戸発見	埋物	(39.7)	-	-	埋物			2.4層	E-139
22 2001-9	埋戸発見	埋物	(39.0)	-	-	埋物			2.2層	E-140
23 2001 北ベロト	埋戸発見	埋物	(39.3)	13.6	11.2	埋物-赤銅製・銅製			1.1層	E-141
24 2001-10	埋戸発見	埋物	(39.7)	-	-	埋物			1.1層	E-142
25 2001-3	埋戸発見	埋物	(39.0)	-	-	埋物			1.1層	E-143
26 2001-9	埋戸発見	埋物	(39.2)	-	-	埋物			2.1層	E-144
27 2001-8	埋戸発見	埋物	(33.0)	14.0	13.0	埋物-赤銅製			2.2層	E-145
28 2001-10	埋戸発見	埋物	(38.4)	-	-	埋物			1.1層	E-146
29 2000077埋物	埋戸発見	埋物	(37.5)	-	-	埋物			2.2層	E-147
30 2001 上層	埋戸発見	埋物	(41.2)	-	-	埋物-スズ材質			9.1層	E-148
31 2001	埋戸発見	埋物	(41.0)	-	-	埋物			5.3層	E-149

埋物番号	遺構	遺構・材質	埋物	口径(cm)	深さ(cm)	底径(cm)	内面	外面	出土	口縁残存割合	調査	発掘番号
32 2001 上層	埋戸発見	木柱	2.9	4.0	3.7	埋物	埋物-トタン葺			12		E-150
33 2001 北ベロト	埋戸発見	木柱	(3.4)	-	-	埋物	埋物			2		E-151
34 2001 北室	埋戸発見	木柱	(2.4)	-	-	埋物(口縁部)	埋物			2		E-152
4 2001-4	埋戸発見	木柱	(6.0)	-	-	埋物	埋物			2		E-153
5 2001 北ベロト	埋戸発見	小形銅品	2.1	3.6	3.6	埋物	埋物-赤銅製			4		E-154
6 2001-5	埋戸発見	小形銅品	(5.0)	-	-	埋物	埋物			8		E-155
7 2001-2	埋戸発見	埋物	(7.4)	4.8	(4.9)	埋物-スズ材質	埋物			2		E-156
8 2001 北室	埋戸発見	埋物	(9.0)	-	-	埋物	埋物			2		E-157
9 2001-3	埋戸発見	埋物(赤銅製)	(10.7)	4.8	(5.4)	埋物	埋物-赤銅製			5		E-158
10 2001-10	埋戸発見	埋物	(11.1)	-	-	埋物(口縁部)	埋物			4	調査あり	E-159
11 2001-10	埋戸発見	埋物	(11.1)	-	-	埋物-スズ材質	埋物			4		E-160
12 2001-10	埋戸発見	埋物	-	-	(10.2)	埋物	埋物-赤銅製			-		E-161
13 2001 北ベロト	埋戸発見	埋物	-	-	-	埋物	埋物-スズ材質・銅製・竹			-		E-162
14 2001-9	埋戸発見	埋物	-	2.0	-	埋物-赤銅製	埋物			4		E-163
15 2001-7	埋戸発見	埋物	-	2.2	-	埋物(板状)	埋物			12		E-164
16 2001 北室	埋戸発見	埋物	(12.0)	(2.0)	-	埋物	埋物			2		E-165
17 2001-7	埋戸発見	ヤヤ群	(9.0)	-	-	埋物	埋物			6		E-166
18 2001-7	埋戸発見	ヤヤ群	(11.0)	4.1	(5.3)	埋物	埋物-赤銅製			2		E-167
19 2001 北室	埋戸発見	ヤヤ群	(14.0)	-	-	埋物	埋物-口縁部(赤銅製)			2		E-168
20 2001-9	埋戸発見	ヤヤ群	(14.0)	-	-	トタンの敷着	埋物			4		E-169
21 2001 北室	埋戸発見	ヤヤ群	(15.0)	-	-	埋物	埋物			2		E-170
22 2001-10	埋戸発見	ヤヤ群	(16.8)	(6.5)	(2.0)	埋物	赤銅製			2		E-171
23 2001 北ベロト	埋戸発見	ヤヤ群	(16.7)	5.7	(15.0)	埋物	埋物-赤銅製・銅製			2		E-172
24 2001 北室	埋戸発見	埋物(銅製)	(13.0)	-	-	埋物	埋物-丸ノ工製			2		E-173
25 2001-9	埋戸発見	埋物(銅製)	(14.0)	-	-	埋物-板状	埋物			2.2層	口縁部残存	E-174
26 2001 上層	埋戸発見	埋物(銅製)	(17.0)	9.7	-	埋物	埋物			2		E-175
27 2001 北室	埋戸発見	埋物	(26.2)	-	-	埋物	埋物			2.1層		E-176
28 2001 北室	埋戸発見	埋物	(27.0)	-	-	埋物	埋物			2.1層		E-177
29 2001 北室	埋戸発見	赤銅製?	(13.0)	-	-	埋物(口縁部)	赤銅製			2.1層		E-178
30 2001 上層	埋戸発見	赤銅製?	(13.0)	-	-	埋物(口縁部)	赤銅製			2.1層		E-179
31 2001-10	埋戸発見	赤銅製?	(14.0)	-	-	埋物(口縁部)	赤銅製			2.1層		E-180
32 2001	埋戸発見	赤銅製?	(14.0)	-	-	埋物	埋物			4.2層		E-181
33 2001 中層	埋戸発見	赤銅製?	(14.0)	-	-	埋物	埋物			2.2層		E-182
34 2001 北ベロト	埋戸発見	赤銅製?	(15.0)	-	-	埋物	埋物			2.2層		E-183
35 2001-8	埋戸発見	赤銅製?	(15.2)	(5.5)	(10.3)	埋物	埋物			1.2層		E-184
36 2001-10	埋戸発見	赤銅製	(14.1)	-	-	埋物(口縁部)	赤銅製			2.1層		E-185
37 2001 北ベロト	埋戸発見	赤銅製	(14.0)	-	-	埋物	埋物			1.2層		E-186
38 2001-10	埋戸発見	赤銅製	(14.7)	-	-	埋物-銅製	埋物			1.2層		E-187
39 2001-2	埋戸発見	赤銅製	(15.0)	-	-	埋物-銅製	埋物			2.1層		E-188
40 2001-9	埋戸発見	赤銅製	(12.4)	-	-	埋物	埋物			2		E-189
41 2001-2	埋戸発見	赤銅製	(9.0)	-	-	埋物	埋物-銅製			6.1層		E-190
42 2001 北室	埋戸発見	字付瓦	-	-	4.9	埋物	埋物-赤銅製・銅製			-	二次的に点くけり	E-191
43 2001-8	埋戸発見	瓦	-	-	-	埋物	埋物			-		E-192
44 2001	埋戸発見	瓦	(4.7)	-	-	埋物	埋物(口縁部)			7.1層		E-193
45 2001-9	埋戸発見	瓦	(8.1)	-	-	埋物	埋物-銅製(ナブ)			6.2層		E-194
46 2001-8	埋戸発見	陶器	-	-	(11.0)	埋物	埋物-赤銅製(ナブ)			-		E-195
47 2001-9	埋戸発見	瓦	(10.0)	-	-	埋物	埋物			2		E-196
48 2001 北ベロト	埋戸発見	瓦	(9.7)	11.4	7.1	埋物	埋物-赤銅製			3		E-197
49 2001 北室	埋戸発見	瓦	-	-	4.8	埋物	埋物-赤銅製			-		E-198
50 2001-2	埋戸発見	瓦	(20.0)	-	-	埋物	埋物			1		E-199
51 2001 北ベロト	埋戸発見	瓦	(22.0)	-	-	埋物(口縁部)	赤銅製			2.1層		E-200
52 2001-8 北ベロト下層	埋戸発見	瓦	(23.0)	-	-	埋物	埋物			4		E-201

土曜児童	コクログ	児童番号	性別	学年	身長(cm)	体重(kg)	BMI(kg/m <sup>2</sup> )	内服	歯上	口輪軸位の分類	備考	記録番号
1	2001-10	1	男	10	164.0	-	-			2分		E-201
2	2001-10	2	男	10	164.0	-	-			2分		E-202
3	2001-10	3	男	10	17.11	1.3	56.7			2分		E-203
4	2001-10	4	男	10	17.20	-	-			2分		E-204
5	2001-10	5	男	10	17.20	1.4	4.0			2分		E-205
6	2001-10	6	男	10	17.20	1.3	16.0			2分		E-206
7	2001-10	7	男	10	17.3	1.1	4.5			2分		E-207
8	2001-10	8	男	10	17.0	1.3	15.0			2分		E-208
9	2001-10	9	男	10	17.0	-	-			2分		E-209
10	2001-10	10	男	10	17.0	-	-			2分		E-210
11	2001-10	11	男	10	17.0	1.1	4.1			2分		E-211
12	2001-10	12	男	10	17.0	1.3	-			2分		E-212
13	2001-10	13	男	10	17.0	-	-			2分		E-213
14	2001-10	14	男	10	18.0	1.4	18.0			2分		E-214
15	2001-10	15	男	10	18.0	-	-			2分		E-215
16	2001-10	16	男	10	18.0	-	-			2分		E-216
17	2001-10	17	男	10	18.0	-	-			2分		E-217
18	2001-10	18	男	10	18.0	1.4	4.1			2分		E-218
19	2001-10	19	男	10	18.0	1.4	18.0			2分		E-219
20	2001-10	20	男	10	18.0	-	-			2分		E-220
21	2001-10	21	男	10	18.0	1.5	18.0			2分		E-221
22	2001-10	22	男	10	18.0	-	-			2分		E-222
23	2001-10	23	男	10	18.0	-	-			2分		E-223
24	2001-10	24	男	10	18.0	-	-			2分		E-224
25	2001-10	25	男	10	18.0	1.7	4.3			2分		E-225
26	2001-10	26	男	10	18.0	-	-			2分		E-226
27	2001-10	27	男	10	18.0	-	-			2分		E-227
28	2001-10	28	男	10	18.0	2.0	-			2分		E-228
29	2001-10	29	男	10	18.0	2.2	16.7			2分		E-229
30	2001-10	30	男	10	18.0	-	-			2分		E-230
31	2001-10	31	男	10	18.0	-	-			2分		E-231
32	2001-10	32	男	10	18.0	1.6	5.2			2分		E-232
33	2001-10	33	男	10	18.0	1.6	4.7			2分		E-233
34	2001-10	34	男	10	18.0	1.8	18.0			2分		E-234
35	2001-10	35	男	10	18.0	-	-			2分		E-235
36	2001-10	36	男	10	18.0	-	-			2分		E-236
37	2001-10	37	男	10	18.0	2.0	11.1			2分		E-237
38	2001-10	38	男	10	18.0	2.4	15.0			2分		E-238
39	2001-10	39	男	10	18.0	-	-			2分		E-239
40	2001-10	40	男	10	18.0	-	-			2分		E-240
41	2001-10	41	男	10	18.0	2.0	15.0			2分		E-241
42	2001-10	42	男	10	18.0	1.9	15.0			2分		E-242
43	2001-10	43	男	10	18.0	1.8	15.0			2分		E-243
44	2001-10	44	男	10	18.0	-	-			2分		E-244
45	2001-10	45	男	10	18.0	-	-			2分		E-245
46	2001-10	46	男	10	18.0	1.7	4.7			2分		E-246
47	2001-10	47	男	10	18.0	-	-			2分		E-247
48	2001-10	48	男	10	18.0	2.1	15.0			2分		E-248
49	2001-10	49	男	10	18.0	-	-			2分		E-249
50	2001-10	50	男	10	18.0	-	-			2分		E-250
51	2001-10	51	男	10	18.0	-	-			2分		E-251
52	2001-10	52	男	10	18.0	-	-			2分		E-252
53	2001-10	53	男	10	18.0	2.2	15.7			2分		E-253
54	2001-10	54	男	10	18.0	-	-			2分		E-254
55	2001-10	55	男	10	18.0	1.8	16.0			2分		E-255
56	2001-10	56	男	10	18.0	1.4	16.0			2分		E-256
57	2001-10	57	男	10	11.0	2.2	5.5			2分		E-257
58	2001-10	58	男	10	11.0	2.2	5.5			2分		E-258
59	2001-10	59	男	10	11.0	1.9	16.0			2分		E-259
60	2001-10	60	男	10	11.0	1.6	16.0			2分		E-260
61	2001-10	61	男	10	11.0	1.7	16.0			2分		E-261
62	2001-10	62	男	10	11.0	-	-			2分		E-262
63	2001-10	63	男	10	11.0	2.2	15.0			2分		E-263
64	2001-10	64	男	10	11.0	2.0	6.7			2分		E-264
65	2001-10	65	男	10	11.0	1.9	16.0			2分		E-265
66	2001-10	66	男	10	11.0	-	-			2分		E-266
67	2001-10	67	男	10	11.0	2.0	17.0			2分		E-267
68	2001-10	68	男	10	11.0	2.25	6.8			2分		E-268
69	2001-10	69	男	10	11.0	2.0	6.6			2分		E-269
70	2001-10	70	男	10	11.0	2.0	5.8			2分		E-270
71	2001-10	71	男	10	11.0	2.0	15.0			2分		E-271
72	2001-10	72	男	10	11.0	2.3	5.8			2分		E-272
73	2001-10	73	男	10	11.0	2.1	5.6			2分		E-273
74	2001-10	74	男	10	11.0	1.9	15.0			2分		E-274
75	2001-10	75	男	10	11.0	2.0	5.3			2分		E-275
76	2001-10	76	男	10	11.0	2.0	5.8			2分		E-276
77	2001-10	77	男	10	11.0	2.2	5.8			2分		E-277
78	2001-10	78	男	10	11.0	1.8	16.1			2分		E-278
79	2001-10	79	男	10	11.0	2.0	6.4			2分		E-279
80	2001-10	80	男	10	11.0	2.1	16.0			2分		E-280
81	2001-10	81	男	10	11.0	1.8	17.0			2分		E-281

清洲城下町遺跡VI

81	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	1.7	-	灰層1条	Ⅱ	2分層	E-282
82	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	2.1	16.40	赤褐色土-灰層Ⅱ	Ⅱ	3分層	E-283
83	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	2.2	16.40	赤褐色土	Ⅱ	2分層	E-284
84	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	1.6	16.40	赤褐色土	Ⅱ	2分層	E-285
85	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	2.0	-	灰層1条	Ⅱ	2分層	E-286
86	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	2.0	17.40	赤褐色土	Ⅱ	1分層	E-287
87	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	-	-	灰層1条	Ⅱ	2分層	E-288
88	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	2.6	15.40	赤褐色土-灰層1条	Ⅱ	5分層	E-289
89	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	-	-	赤褐色土	Ⅱ	2分層	E-290
90	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	1.5	16.40	-	Ⅱ	1分層	E-291
91	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-292
92	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	1.9	15.40	赤褐色土	Ⅱ	4分層	E-293
93	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-294
94	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	-	-	-	Ⅱ	1分層	E-295
95	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.80	12.00	-	-	Ⅱ	4分層	E-296
96	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	11.9	2.0	5.0	赤褐色土	Ⅱ	4分層	E-297
97	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.90	2.1	16.40	赤褐色土-灰層1条	Ⅱ	2分層	E-298
98	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.90	1.7	-	灰層1条	Ⅱ	2分層	E-299
99	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.90	11.00	-	灰層1条	Ⅱ	2分層	E-300
100	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.90	2.2	14.70	-	Ⅱ	2分層	E-301
101	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.90	2.3	15.40	-	Ⅱ	2分層	E-302
102	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.90	-	-	-	Ⅱ	1分層	E-303
103	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	111.90	12.20	-	-	Ⅱ	5分層	E-304
104	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	1.7	17.40	灰層1条	Ⅱ	1分層	E-305
105	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.0	17.40	灰層1条	Ⅱ	4分層	E-306
106	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	1.8	15.40	赤褐色土	Ⅱ	3分層	E-307
107	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.0	2.0	5.0	赤褐色土	Ⅱ	4分層	E-308
108	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.3	16.40	-	Ⅱ	2分層	E-309
109	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.4	15.20	赤褐色土	Ⅱ	3分層	E-310
110	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	1.9	17.40	赤褐色土	Ⅱ	2分層	E-311
111	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.0	17.40	-	Ⅱ	2分層	E-312
112	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	1.5	17.20	赤褐色土-灰層1条-灰層1条	Ⅱ	1分層	E-313
113	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.2	17.40	赤褐色土-灰層1条	Ⅱ	4分層	E-314
114	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.1	15.20	赤褐色土	Ⅱ	1分層	E-315
115	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-316
116	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.5	15.40	赤褐色土	Ⅱ	7分層	E-317
117	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	1.5	5.7	赤褐色土-灰層1条	Ⅱ	2分層	E-318
118	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.0	2.6	5.4	黒土-赤褐色土-灰層1条	Ⅱ	3分層	E-319
119	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.3	16.40	赤褐色土	Ⅱ	11分層	E-320
120	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-321
121	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	17.00	-	-	Ⅱ	2分層	E-322
122	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	1.0	13.40	灰層1条	Ⅱ	2分層	E-323
123	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.3	15.40	赤褐色土	Ⅱ	2分層	E-324
124	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	12.20	-	-	Ⅱ	2分層	E-325
125	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.6	16.40	赤褐色土	Ⅱ	2分層	E-326
126	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.00	2.7	5.9	赤褐色土-灰層1条	Ⅱ	2分層	E-327
127	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.20	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-328
128	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.20	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-329
129	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.20	-	-	-	Ⅱ	1分層	E-330
130	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.20	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-331
131	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.20	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-332
132	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.20	12.70	-	-	Ⅱ	2分層	E-333
133	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	112.20	2.7	15.40	赤褐色土-灰層1条	Ⅱ	4分層	E-334
134	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	114.00	2.2	16.40	-	Ⅱ	1分層	E-335
135	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	114.00	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-336
136	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	114.00	2.4	6.1	赤褐色土	Ⅱ	1分層	E-337
137	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	114.00	-	-	-	Ⅱ	1分層	E-338
138	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	115.00	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-339
139	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	116.00	-	-	-	Ⅱ	1分層	E-340
140	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	116.00	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-341
141	2001-10	土師器Ⅱ	ロケロ	116.00	-	-	-	Ⅱ	2分層	E-342

土師器Ⅱ 赤ロケロ調査

調査番号	層位	調査・材質	種類	口径(㎝)	高さ(㎝)	内径	内容	出土	口縁部残存状況	備考	追加番号
1	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.4	1.0	5.0	黒土	Ⅱ	-	-	E-343
2	2001-2	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.5	1.2	4.4	黒土	Ⅱ	-	-	E-344
3	2001-2	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.5	1.1	4.5	黒土	Ⅱ	-	-	E-345
4	2001-2	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.2	4.9	黒土	Ⅱ	-	-	E-346
5	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.4	5.0	黒土	Ⅱ	-	-	E-347
6	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.25	4.8	黒土	Ⅱ	-	-	E-348
7	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.2	4.9	黒土	Ⅱ	-	-	E-349
8	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.35	5.1	黒土	Ⅱ	-	-	E-350
9	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.2	4.8	灰褐色土-黒土	Ⅱ	-	-	E-351
10	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.35	5.1	黒土	Ⅱ	-	-	E-352
11	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.3	4.7	黒土-赤土	Ⅱ	-	-	E-353
12	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	0.9	4.7	黒土	Ⅱ	-	-	E-354
13	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.2	5.0	黒土	Ⅱ	-	-	E-355
14	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.1	4.5	黒土	Ⅱ	-	-	E-356
15	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.2	5.0	黒土	Ⅱ	-	-	E-357
16	2001-2	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.6	1.1	4.4	黒土	Ⅱ	-	-	E-358
17	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.7	1.2	4.8	黒土	Ⅱ	-	-	E-359
18	2001-10	土師器Ⅱ(小)	赤ロケロ	5.7	1.1	5.0	黒土-黒土	Ⅱ	-	-	E-360



19 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.1	4.0	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-261
20 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.1	4.8	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-262
21 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.0	5.0	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-263
22 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.2	4.8	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-264
23 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.5	5.4	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-265
24 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.4	5.1	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-266
25 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.5	4.8	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-267
26 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.9	1.3	5.2	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-268
27 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	6.0	1.2	4.9	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-269
28 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	6.0	1.6	5.8	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-270
29 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	6.4	1.2	5.1	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-271
30 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	6.6	1.1	5.8	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-272
31 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	6.6	1.3	5.2	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-273
32 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	6.8	1.2	5.1	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-274
33 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.0	1.1	3.5	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	6 11	2-275
34 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.0	1.3	3.0	演ナゾ	演ナゾ	8 11	2-276
35 5001	土曜児童(小)	非ロク	05.01	1.2	1.0	演ナゾ	演ナゾ	6 11	2-277
36 5001-1	土曜児童(小)	非ロク	5.1	1.2	3.4	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-278
37 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.3	3.2	演ナゾ	演ナゾ	9 11	2-279
38 5001-2	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.3	4.0	演ナゾ・演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-280
39 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.5	3.0	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-281
40 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.3	3.8	演ナゾ	演ナゾ	9 11	2-282
41 5001-1	土曜児童(小)	非ロク	05.01	1.4	03.01	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	5 11	2-283
42 5001-1	土曜児童(小)	非ロク	05.01	1.4	4.2	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	5 11	2-284
43 5001-1	土曜児童(小)	非ロク	05.01	1.2	03.01	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	4 11	2-285
44 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.6	1.4	3.6	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-286
45 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.6	0.9	4.0	演ナゾ	演ナゾ	6 11	2-287
46 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.6	1.2	2.9	演ナゾ	演ナゾ	6 11	2-288
47 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	1.2	4.9	演ナゾ	演ナゾ	5 11	2-289
48 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.9	3.6	演ナゾ	演ナゾ	5 11	2-290
49 5001-1	土曜児童(小)	非ロク	5.6	1.2	3.9	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	10 11	2-291
50 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.6	1.2	3.9	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-292
51 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	05.01	1.1	4.9	演ナゾ	演ナゾ	5 11	2-293
52 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	05.01	1.1	3.1	演ナゾ	演ナゾ	5 11	2-294
53 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	1.1	4.9	演ナゾ	演ナゾ	5 11	2-295
54 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.2	3.8	演ナゾ	演ナゾ	10 11	2-296
55 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.2	3.7	演ナゾ	演ナゾ	6 11	2-297
56 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	6.0	1.4	4.4	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	7 11	2-298
57 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	6.0	1.6	3.5	演ナゾ	演ナゾ	7 11	2-299
58 5001-1	土曜児童(小)	非ロク	6.2	1.3	4.9	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	7 11	2-300
59 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	7.0	1.7	4.8	演ナゾ	演ナゾ	7 11	2-301
60 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	07.01	1.4	03.01	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	2 11	2-302
61 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	06.01	1.1	04.01	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ	4 11	2-303
62 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.8	03.01	演ナゾ	演ナゾ	5 11	2-304
63 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.9	3.1	演ナゾ	演ナゾ	6 11	2-305
64 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.9	3.6	演ナゾ	演ナゾ	6 11	2-306
65 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.8	03.01	演ナゾ	演ナゾ	6 11	2-307
66 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.7	03.01	演ナゾ	演ナゾ	3 11	2-308
67 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.8	03.01	演ナゾ	演ナゾ	3 11	2-309
68 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.7	03.01	演ナゾ	演ナゾ	3 11	2-310
69 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.9	03.01	演ナゾ	演ナゾ	3 11	2-311
70 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.75	03.01	演ナゾ	演ナゾ	3 11	2-312
71 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.8	03.01	演ナゾ	演ナゾ	3 11	2-313
72 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.8	03.01	演ナゾ	演ナゾ	3 11	2-314
73 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.4	1.9	4.2	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-315
74 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.4	1.9	4.0	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-316
75 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.4	1.35	3.8	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-317
76 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.4	1.9	3.8	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-318
77 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.4	1.9	3.9	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-319
78 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.4	1.9	3.4	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-320
79 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.4	1.9	4.2	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-321
80 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.5	0.9	3.6	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-322
81 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.6	1.1	4.0	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	9 11	2-323
82 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.6	1.0	4.0	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-324
83 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.6	1.1	3.7	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-325
84 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.6	1.2	3.8	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-326
85 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.6	1.1	3.4	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-327
86 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.6	0.9	3.4	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-328
87 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.6	1.1	4.0	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-329
88 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	4.6	1.1	4.5	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-330
89 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.0	1.1	4.2	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	12 11	2-331
90 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.0	4.7	演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	8 11	2-332
91 5001-10	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.4	4.8	演ナゾ	演ナゾ	8 11	2-333
92 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.8	03.01	演ナゾ	演ナゾ	7 11	2-334
93 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.4	5.0	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-335
94 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.2	5.1	演ナゾ	演ナゾ	7 11	2-336
95 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.2	1.1	4.9	演ナゾ	演ナゾ	7 11	2-337
96 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.4	0.9	4.5	演ナゾ・演ナゾ	演ナゾ・演ナゾ	10 11	2-338
97 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	05.01	0.9	03.01	演ナゾ	演ナゾ	9 11	2-339
98 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.4	1.1	4.8	演ナゾ	演ナゾ	12 11	2-340
99 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	5.8	1.0	5.4	演ナゾ	演ナゾ	7 11	2-341
100 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	(12.01)	-	-	演ナゾ	演ナゾ	2	2-342
101 5001上層	土曜児童(小)	非ロク	(12.01)	(12.01)	-	演ナゾ	演ナゾ	2	2-343

## 清洲城下町遺跡Ⅵ

土器群	遺物	産地・材質	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内径	外面	土質	口縁部形状	数量	埋藏層別
黒川群	1. 5001-3	土師器	打掛筒	128.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨・ハク	スズ付骨	2	E-144	
	2. 5001上層	土師器	打掛筒	128.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨・瓶底	スズ付骨	2	E-145	
	3. 5001-2	土師器	打掛筒	128.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨・ハク	スズ付骨	1	E-146	
	4. 5001下層	土師器	打掛筒	125.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨・瓶ノズ	スズ付骨	2	E-147	
	5. 5001-1	土師器	打掛筒	128.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨	スズ付骨	2	E-148	
	6. 5001上層	土師器	打掛筒	128.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨	スズ付骨	2	E-149	
	7. 5001下層	土師器	打掛筒	141.0	-	-	瓶底	スズ付骨	スズ付骨	1	E-150	
	8. 5001下層	土師器	打掛筒	141.0	-	-	瓶底	スズ付骨・瓶底	スズ付骨	1	E-151	
	9. 5001下層	土師器	打掛筒	125.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨	スズ付骨	2	E-152	
	10. 5001下層	土師器	打掛筒	128.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨・瓶底・瓶ノズ	スズ付骨	2	E-153	
黒川群	11. 5001-2	土師器	内耳瓶	129.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨	スズ付骨	4	E-154	
	12. 5001-4	土師器	内耳瓶	126.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨	スズ付骨	3	E-155	
	13. 5001上層	土師器	内耳瓶	22.4	-	-	瓶ノズ	スズ付骨	スズ付骨	7	E-156	
	14. 5001上層	土師器	内耳瓶	23.1	-	-	コガ付骨	スズ付骨・瓶底	スズ付骨	3	E-157	
	15. 5001上層	土師器	内耳瓶	22.5	12.0	-	コガ付骨	スズ付骨・瓶底	スズ付骨	9	E-158	
	16. 5001-2	土師器	内耳瓶	23.4	-	-	瓶ノズ	スズ付骨・瓶底	スズ付骨	2	E-159	
	17. 5001北ベクト	土師器	内耳瓶	23.7	-	-	瓶ノズ	瓶底	スズ付骨	2	E-160	
	18. 5001-4	土師器	内耳瓶	23.0	-	-	コガ付骨・瓶ノズ	スズ付骨	スズ付骨	2	E-161	
	19. 5001	土師器	内耳瓶	23.0	-	-	スズ付骨・瓶ノズ	スズ付骨・瓶底	スズ付骨	4	E-162	
	20. 5001-2	土師器	内耳瓶	226.0	-	-	瓶ノズ	スズ付骨	スズ付骨	2	E-163	
黒川群	21. 5001北ベクト	土師器	内耳瓶	226.0	-	-	コガ付骨・瓶底	スズ付骨	スズ付骨	2	E-164	
	22. 5001上層	土師器	瓶	-	-	-	瓶底	スズ付骨・コガ付骨	-	-	E-165	
	23. 5001上層	土師器	瓶	114.0	-	-	瓶ノズ・瓶底	スズ付骨・瓶ノズ	スズ付骨	10	E-166	
	24. 5001南耳瓶	土師器	瓶	114.0	-	-	瓶底	スズ付骨・瓶底・瓶ノズ	スズ付骨	4	E-167	
	25. 5001	土師器	瓶	113.4	-	-	瓶ノズ・瓶底	スズ付骨・瓶底・瓶ノズ	スズ付骨	5	E-168	

瓦葺遺物	遺物	産地・材質	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内径	外面	土質	口縁部形状	数量	埋藏層別
黒川群	1. 5001北層	瓦葺	瓦葺	125.0	-	-	-	-	-	-	1	E-169
	2. 5001南ベクト	瓦葺	瓦葺	132.0	-	-	-	-	-	-	2	E-170
	3. 5001-10	瓦葺	-	-	-	-	瓦葺	-	-	-	1	E-171
	4. 5001北ベクト	瓦葺	-	-	-	-	-	-	-	-	1	E-172
	5. 5001北層	瓦葺	瓦	127.0	-	-	瓦葺	瓦葺	-	-	1	E-173
	6. 5001-10	瓦葺	瓦	128.0	-	-	瓦葺	瓦葺	-	-	1	E-174
	7. 5001上層	瓦葺	瓦	114.0	-	-	瓦葺	瓦葺	-	-	1	E-175

土師器群	遺物	産地・材質	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内径	外面	土質	口縁部形状	数量	埋藏層別
黒川群	1. 5001-3	中野(白陶)	小瓶(丸瓶)	17.4	3.0	13.0	瓶底	-	-	-	2	E-176
	2. 5001北層	中野(白陶)	瓶(丸瓶)	19.0	2.7	4.1	瓶口縁と高台	瓶ノズ及び高台・ケズリ	-	-	1	E-177
	3. 5001北層	中野(白陶)	瓶底	131.0	-	-	-	-	-	-	2	E-178
	4. 5001-10	中野(白陶)	瓶底	128.0	-	-	-	-	-	-	2	E-179
	5. 5001北層	中野(青陶)	小瓶(丸瓶)	19.0	2.7	-	-	-	-	-	2	E-180
	6. 5001-4	中野(青陶)	瓶	114.0	-	-	-	-	-	-	1	E-181
	7. 5001北ベクト	中野(青陶)	瓶	115.0	-	-	-	-	-	-	1	E-182
	8. 5001南耳瓶	中野(青陶)	瓶	-	-	6.1	-	-	-	-	1	E-183
	9. 5001北層	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	3.1	3.6	-	-	-	-	5	E-184
	10. 5001-10	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	3.1	3.6	-	-	-	-	2	E-185
	11. 5001北ベクト	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	-	-	-	-	-	-	1	E-186
	12. 5001	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	-	-	-	-	-	-	2	E-187
	13. 5001北層	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	-	-	-	-	-	-	2	E-188
	14. 5001-3	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	-	-	-	-	-	-	2	E-189
	15. 5001	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	3.0	3.0	-	-	-	-	2	E-190
	16. 5001北層	中野(青陶)	香炉	16.4	-	-	-	-	-	-	3	E-191
	17. 5001北層	中野(青陶)	瓶(唇縁)	222.0	-	-	-	-	-	-	1	E-192
	18. 5001-8	中野(青陶)	瓶(唇縁)	226.4	-	-	-	-	-	-	1	E-193
	19. 5001北ベクト最下層	中野(青陶)	瓶(平肩)	113.0	-	-	-	-	-	-	1	E-194
	20. 5001-4	中野(青陶)	瓶(平肩)	113.0	-	-	-	-	-	-	2	E-195
21. 5001最下層	中野(青陶)	小瓶(丸瓶)	17.0	-	-	-	-	-	-	2	E-196	
22. 5001北層	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	-	-	-	-	-	-	3	E-197	
23. 5001北層	中野(青陶)	瓶	-	-	4.9	-	-	-	-	1	E-198	
24. 5001北層	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	-	-	-	-	-	-	2	E-199	
25. 5001-10	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	2.7	16.0	-	-	-	-	1	E-200	
26. 5001-2	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	-	-	-	-	-	-	2	E-201	
27. 5001北ベクト	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.4	2.2	15.0	-	-	-	-	1	E-202	
28. 5001-8	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	2.6	16.0	-	-	-	-	4	E-203	
29. 5001	中野(青陶)	瓶	-	-	17.2	-	-	-	-	1	E-204	
30. 5001北ベクト	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	19.0	2.5	16.0	-	-	-	-	1	E-205	
31. 5001-4	中野(青陶)	瓶(丸瓶)	-	-	16.0	-	-	-	-	1	E-206	
32. 5001南ベクト	中野(青陶)	瓶	-	-	13.0	-	-	-	-	1	E-207	
33. 5001-4	中野(青陶)	瓶	-	-	6.0	-	-	-	-	1	E-208	

分-型橋												
図例番号	橋種	橋脚・材質	形式	口径(m)	橋高(m)	底高(m)	内径	内装	土止	口縁部橋脚分岐角	欄角	図例番号
1	15002	橋脚・材質	開口	12.0	-	-	-	鉄橋	鉄橋		2	E-509
2	15002	大径鋼管	開口	7.8	1.8	4.6	開口	開口	開口	2	11度	E-510
3	15002	大径鋼管	開口	7.8	1.3	5.5	開口	開口	開口	2	11度	E-511
4	15002	大径鋼管	開口	5.4	1.2	4.4	開口	開口	開口	11	11度	E-512
5	15002	大径鋼管	開口	5.4	1.5	3.6	開口	開口	開口	8	11度	E-513
6	15002	大径鋼管	開口	5.4	1.5	3.6	開口	開口	開口	11	11度	E-514
7	15002	大径鋼管	開口	5.4	1.3	3.1	開口	開口	開口	11	11度	E-515
8	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.5	3.2	開口	開口	開口	11	11度	E-516
9	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.3	3.5	開口	開口	開口	11	11度	E-517
10	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	0.9	(3.0)	開口	開口	開口	3	11度	E-518
11	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	1.3	(4.0)	開口	開口	開口	5	11度	E-519
12	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.35	3.2	開口	開口	開口	11	11度	E-520
13	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.2	3.4	開口	開口	開口	11	11度	E-521
14	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.3	4.2	開口	開口	開口	11	11度	E-522
15	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.4	4.4	開口	開口	開口	12	11度	E-523
16	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.8	3.9	開口	開口	開口	11	11度	E-524
17	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.4	3.8	開口	開口	開口	12	11度	E-525
18	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.2	5.0	開口	開口	開口	12	11度	E-526
19	15002	大径鋼管	開口	5.2	1.3	5.3	開口	開口	開口	11	11度	E-527
20	15002	大径鋼管	開口	5.2	1.2	4.6	開口	開口	開口	11	11度	E-528
21	15002	大径鋼管	開口	5.4	1.2	5.5	開口	開口	開口	11	11度	E-529
22	15002	大径鋼管	開口	5.4	1.4	4.7	開口	開口	開口	12	11度	E-530
23	15002	大径鋼管	開口	5.4	1.4	5.1	開口	開口	開口	12	11度	E-531
24	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.5	5.2	開口	開口	開口	12	11度	E-532
25	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	1.8	(3.0)	開口	開口	開口	4	11度	E-533
26	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	0.8	(3.0)	開口	開口	開口	2	11度	E-534
27	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	0.9	(4.0)	開口	開口	開口	2	11度	E-535
28	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	1.8	(5.0)	開口	開口	開口	2	11度	E-536
29	15002	大径鋼管	開口	5.8	1.8	4.6	開口	開口	開口	5	11度	E-537
30	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	0.85	(3.0)	開口	開口	開口	2	11度	E-538
31	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	0.9	(3.0)	開口	開口	開口	2	11度	E-539
32	15002	大径鋼管	開口	(5.2)	0.9	(3.0)	開口	開口	開口	2	11度	E-540
33	15002	大径鋼管	開口	5.2	1.2	4.5	開口	開口	開口	12	11度	E-541
34	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	1.3	(5.2)	開口	開口	開口	4	11度	E-542
35	15002	大径鋼管	開口	(5.8)	2.2	(3.0)	開口	開口	開口	2	11度	E-543
36	15002	大径鋼管	開口	(10.0)	1.8	(6.2)	開口	開口	開口	2	11度	E-544
37	15002	大径鋼管	開口	(11.0)	1.8	6.2	開口	開口	開口	2	11度	E-545
38	15002	大径鋼管	開口	(11.0)	2.1	(5.4)	開口	開口	開口	2	11度	E-546
39	15002	大径鋼管	開口	(11.0)	-	-	開口	開口	開口	2	11度	E-547
40	15002	大径鋼管	開口	(11.0)	2.2	(5.0)	開口	開口	開口	1	11度	E-548
41	15002	大径鋼管	開口	(13.0)	2.4	(7.0)	開口	開口	開口	1	11度	E-549
42	15002	大径鋼管	開口	(14.0)	-	-	開口	開口	開口	2	11度	E-550
43	15002	土管	開口	-	4.2	-	開口	開口	開口	2	11度	E-551
44	15002	橋脚・材質	開口	(11.0)	-	-	開口	開口	開口	1	11度	E-552
45	15002	橋脚・材質	開口	(11.0)	-	-	開口	開口	開口	2	11度	E-553
46	15002	橋脚・材質	開口	(11.0)	-	-	開口	開口	開口	2	11度	E-554
47	15002	橋脚・材質	開口	7.2	4.25	5.0	開口	開口	開口	7	11度	E-555
48	15002	橋脚・材質	開口	(16.0)	-	-	開口	開口	開口	7	11度	E-556
49	15002	橋脚	開口	(18.0)	-	-	開口	開口	開口	1	11度	E-557

土管設置												
図例番号	橋種	橋脚・材質	形式	口径(m)	橋高(m)	底高(m)	内径	内装	土止	口縁部橋脚分岐角	欄角	図例番号
1	15001-7	大径鋼管	開口	(5.8)	2.0	4.2	開口	開口	開口	5	11度	E-558
2	15001-8	大径鋼管	開口	-	-	4.9	開口	開口	開口	-	11度	E-559
3	15001-2	大径鋼管	開口	-	-	(4.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-560
4	15001-3	大径鋼管	開口	-	-	(4.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-561
5	15001-2	大径鋼管	開口	-	-	(6.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-562
6	15001-3	大径鋼管	開口	-	-	(4.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-563
7	15001-3	大径鋼管	開口	-	-	5.4	開口	開口	開口	-	11度	E-564
8	15001-2	大径鋼管	開口	-	-	(5.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-565
9	15001-3	大径鋼管	開口	-	-	(5.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-566
10	15001-10	大径鋼管	開口	(11.0)	2.6	5.7	開口	開口	開口	4	11度	E-567
11	15001-3	大径鋼管	開口	-	-	(6.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-568
12	15001-5	大径鋼管	開口	-	-	5.3	開口	開口	開口	-	11度	E-569
13	15001-3	大径鋼管	開口	(11.0)	-	-	開口	開口	開口	2	11度	E-570
14	15001	大径鋼管	開口	-	-	(5.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-571
15	15001-3	大径鋼管	開口	(16.0)	3.5	4.3	開口	開口	開口	1	11度	E-572
16	15001-4	大径鋼管	開口	-	-	4.2	開口	開口	開口	-	11度	E-573
17	15001-3	大径鋼管	開口	(16.0)	5.2	(6.0)	開口	開口	開口	2	11度	E-574
18	15001-5	大径鋼管	開口	(16.0)	-	-	開口	開口	開口	2	11度	E-575
19	15001-3	大径鋼管	開口	-	-	(5.0)	開口	開口	開口	-	11度	E-576

## 清洲城下町遺跡VI

29 S201-9	土師器Ⅱ	ロクロ	(14.0)	-	-			2.62	F-277	
31 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(18.0)	-	-			1.62	F-278	
32 S201-9	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	-	-			1.62	F-279	
33 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	4.2	赤銅片	-	1.62	F-280	
34 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	4.2	赤銅片	-	1.62	F-281	
35 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(17.0)	2.0	8.0	赤銅片	-	1.62	F-282	
36 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(14.0)	1.2	5.0	赤銅片	-	5.62	F-283	
37 S201北東	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	2.0	15.0	赤銅片	-	2.62	F-284	
38 S201	土師器Ⅱ	ロクロ	(10.0)	-	-	赤銅片	-	2.62	F-285	
39 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	4.5	赤銅片	-	1.62	F-286	
39 S201-1	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	-	赤銅片・銅板	-	1.62	F-287	
40 S201下層	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	-	-			4.62	F-288	
41 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	-	-	銅板	-	2.62	F-289	
43 S201-8	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	(5.0)	丸形片	赤銅片	-	1.62	F-290
44 S201	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	2.2	(5.0)		赤銅片	2.62	F-291	
45 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	1.0	(4.0)		赤銅片	4.62	F-292	
46 S201-2	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	1.7	5.0		赤銅片	3.62	F-293	
47 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	11.5	2.4	6.0		赤銅片・銅板	3.62	F-294	
48 S201-10	土師器Ⅱ	ロクロ	12.4	2.6	5.2		赤銅片	10.62	F-295	
49 S201-10	土師器Ⅱ	ロクロ	12.3	2.5	5.8		赤銅片	11.62	F-296	
49 S201	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	-	-			2.62	F-297	
41 S201-9	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	-	-			1.62	F-298	
42 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	-	-			2.62	F-299	
43 S201北東	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	5.5	赤銅片	-	1.62	F-300	
44 S201-9	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	5.2	赤銅片	-	1.62	F-301	
45 S201-9	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	-	-			2.62	F-302	
46 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(10.0)	-	-			2.62	F-303	
47 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	16.0	赤銅片・銅板	-	1.62	F-304	
48 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(10.0)	-	-			1.62	F-305	
49 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(10.0)	2.0	5.0		赤銅片	3.62	F-306	
50 S201	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	5.3		赤銅片	-	1.62	F-307
51 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	-	-			1.62	F-308	
52 S201-2	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	1.5	-			1.62	F-309	
53 S201-9	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	(5.0)	赤銅片	-	1.62	F-310	
54 S201-9	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	-	-			2.62	F-311	
55 S201-10	土師器Ⅱ	ロクロ	(9.0)	-	-			1.62	F-312	
56 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	-	-			1.62	F-313	
57 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	5.7	赤銅片・銅板	-	1.62	F-314	
58 S201北東	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	-	-			2.62	F-315	
59 S201北東	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	(5.0)	赤銅片	-	1.62	F-316	
60 S201	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	-	-			1.62	F-317	
61 S201-10	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	6.0	赤銅片	-	1.62	F-318	
62 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(10.0)	-	-			1.62	F-319	
63 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	1.3	-			2.62	F-320	
64 S201中層	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	1.0	(5.0)	赤銅片	-	3.62	F-321	
65 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	(10.0)	1.5	(5.0)	赤銅片	-	1.62	F-322	
66 S201北ベルト	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	(5.0)	赤銅片	-	1.62	F-323	
67 S201-2	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	1.7	(5.0)	赤銅片	-	2.62	F-324	
68 S201-10	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	(4.0)	赤銅片	-	1.62	F-325	
69 S201下層	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	-	-			2.62	F-326	
70 S201上層	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	-	赤銅片	現	-	1.62	F-327
71 S201-4	土師器Ⅱ	甕口	5.4	1.1	4.7	鏡ナデ	12	麻割に貫丸	F-328	
72 S201-9	土師器Ⅱ	甕口	5.6	1.4	3.6	鏡ナデ	1	麻割に貫丸	F-329	
73 S201-6	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	5.6	赤銅片	-	麻割に貫丸	F-330	
74 S201-8	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	6.0	赤銅片	-	麻割に貫丸	F-331	
75 S201-8	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	4.4	赤銅片	-	麻割に貫丸	F-332	
76 S201北東	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	(5.0)	赤銅片	-	麻割に貫丸	F-333	
77 S201	土師器Ⅱ	ロクロ	(12.0)	-	(5.0)		1	麻割に貫丸	F-334	
78 S201	土師器Ⅱ	ロクロ	(11.0)	-	-		1	麻割に貫丸	F-335	
79 S201-4	土師器Ⅱ	ロクロ	12.0	-	-		3	丸形片・片形に貫丸	F-336	
80 S201-10	土師器Ⅱ	ロクロ	-	-	6.4		-	麻割・片形に貫丸	F-337	
81 S201-10	土師器Ⅱ	甕口	5.6	1.5	4.0	鏡ナデ	12	丸形片	F-338	
82 S201-10	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.4	4.0	鏡ナデ	12	丸形片	F-339	
83 S201-10	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.0	4.6	鏡ナデ	12	丸形片	F-340	
84 S201-10	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.0	5.0	鏡ナデ	10	丸形片	F-341	
85 S201-10	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.0	4.0	鏡ナデ	9	丸形片	F-342	
86 S201北ベルト最下層	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.6	4.0	鏡ナデ	12	丸形片	F-343	
87 S201北東	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.4	4.2	鏡ナデ	4	丸形片・片形	F-344	
88 S201下層	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.4	4.2	鏡ナデ	11	丸形片	F-345	
89 S201-9	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.2	5.0	鏡ナデ	12	丸形片	F-346	
90 S201北東	土師器Ⅱ	甕口	6.0	1.2	4.0	鏡ナデ	4	丸形片	F-347	
91 S201北ベルト	土師器Ⅱ	甕口	6.4	1.7	5.2	鏡ナデ	12	丸形片	F-348	

図号	土曜開業	土曜閉業	6.4	1.1	5.7	橋下丁	橋下丁	6	ターミナル	ターミナル
92 5201	土曜開業	橋下丁	6.6	1.4	5.2	橋下丁	橋下丁	12	ターミナル	ターミナル
93 5201-10	土曜開業	橋下丁	6.6	1.4	5.2	橋下丁	橋下丁	5	ターミナル	ターミナル
94 5201本架	土曜開業	橋下丁	6.6	1.1	5.0	橋下丁	橋下丁	12	ターミナル	ターミナル
95 5201-10	土曜開業	橋下丁	6.6	1.3	5.1	橋下丁	橋下丁	12	ターミナル	ターミナル
96 5201-10	土曜開業	橋下丁	6.7	1.5	6.0	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
97 5201-10	土曜開業	橋下丁	6.7	1.2	5.0	橋下丁	橋下丁	5	ターミナル	ターミナル
98 5201-10	土曜開業	橋下丁	6.7	1.2	5.0	橋下丁	橋下丁	5	ターミナル	ターミナル
99 5201-1	土曜開業	橋下丁	7.4	1.4	3.0	橋下丁	橋下丁	10	ターミナル	ターミナル
100 5201-10	土曜開業	橋下丁	7.4	1.5	3.4	橋下丁	橋下丁	12	ターミナル	ターミナル
101 5201-10	土曜開業	橋下丁	7.4	1.5	3.4	橋下丁	橋下丁	12	ターミナル	ターミナル
102 5201本架	土曜開業	橋下丁	7.6	1.7	3.5	橋下丁	橋下丁	6	ターミナル	ターミナル
103 5201本架	土曜開業	橋下丁	7.7	1.3	6.7	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
104 5201-10	土曜開業	橋下丁	7.8	1.5	5.0	橋下丁	橋下丁	10	ターミナル	ターミナル
105 5201	土曜開業	橋下丁	7.8	1.4	6.0	橋下丁	橋下丁	11	ターミナル	ターミナル
106 5201本架	土曜開業	橋下丁	8.0	1.5	4.4	橋下丁	橋下丁	7	ターミナル	ターミナル
107 5201-5	土曜開業	橋下丁	8.0	1.7	6.7	橋下丁	橋下丁	4	ターミナル	ターミナル
108 5201-10	土曜開業	橋下丁	8.0	1.5	6.0	橋下丁	橋下丁	1	ターミナル	ターミナル
109 5201-10	土曜開業	橋下丁	8.0	1.5	6.0	橋下丁	橋下丁	1	ターミナル	ターミナル
110 5201	土曜開業	橋下丁	8.0	1.9	6.0	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
111 5201	土曜開業	橋下丁	8.0	-	-	橋下丁	橋下丁	1	ターミナル	ターミナル
112 5201	土曜開業	橋下丁	8.0	-	-	橋下丁	橋下丁	3	ターミナル	ターミナル
113 5201本架	土曜開業	橋下丁	8.0	-	-	橋下丁	橋下丁	3	ターミナル	ターミナル
114 5201本架	土曜開業	橋下丁	8.0	-	-	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
115 5201-1	土曜開業	橋下丁	8.1	2.1	6.0	橋下丁	橋下丁	4	ターミナル	ターミナル
116 5201-10	土曜開業	橋下丁	8.1	-	-	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
117 5201-10	土曜開業	橋下丁	8.1	2.1	6.0	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
118 5201	土曜開業	橋下丁	8.2	1.5	6.0	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
119 5201本架	土曜開業	橋下丁	8.2	-	-	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
120 5201本架	土曜開業	橋下丁	8.2	-	-	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル
121 5201-1	土曜開業	橋下丁	8.2	2.4	6.0	橋下丁	橋下丁	3	ターミナル	ターミナル
122 5201	土曜開業	橋下丁	8.2	-	-	橋下丁	橋下丁	3	ターミナル	ターミナル
123 5201-1	土曜開業	橋下丁	8.2	2.8	6.0	橋下丁	橋下丁	4	ターミナル	ターミナル
124 5201-1	土曜開業	橋下丁	8.4	-	-	橋下丁	橋下丁	2	ターミナル	ターミナル

## 橋下丁線

図号	線名	距離	長短(米)	幅員(m)	勾配(%)	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
1 5201本架	橋下丁線	11	3.6 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
2 5201-2	橋下丁線	17	5.4 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
3 5201本架	橋下丁線	23	17	5.8 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
4 5201本架	橋下丁線	23	20	6.7 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
5 5201本架	橋下丁線	23	24	6.6 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
6 5201本架	橋下丁線	24	23	7.4 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
7 5201本架	橋下丁線	24	23	7.6 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
8 5201本架	橋下丁線	25	20	5.6 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
9 5201本架	橋下丁線	25	23	8.7 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
10 5201-1(下層)	橋下丁線	25	21	4.8 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
11 5201本架	橋下丁線	26	25	10.3 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
12 5201-8	橋下丁線	27	20	8.0 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
13 5201本架	橋下丁線	27	23	8.1 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
14 5201-10	橋下丁線	27	23	6.1 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
15 5201-8	橋下丁線	29	23	8.9 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
16 5201-2	橋下丁線	32	20	7.1 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
17 5201-2	橋下丁線	35	25	4.2 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
18 5201-1(下層)	橋下丁線	39	17	14.4 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
19 5201-2	橋下丁線	39	19	5.3 3.1	10.0	1.0	橋下	橋下	橋下	橋下
20 5201-10	橋下丁線	15	12	1.3 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
21 5201	橋下丁線	16	14	2.5 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
22 5201	橋下丁線	16	15	4.0 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
23 5201-10	橋下丁線	16	16	2.2 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
24 5201上層	橋下丁線	17	16	2.5 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
25 5201上層	橋下丁線	19	16	3.8 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
26 5201上層	橋下丁線	19	16	4.2 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
27 5201上層	橋下丁線	19	16	5.6 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
28 5201-2	橋下丁線	20	18	5.1 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
29 5201-3	橋下丁線	21	19	2.9 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
30 5201-3	橋下丁線	22	19	4.1 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
31 5201-2	橋下丁線	21	21	3.8 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
32 5201-2	橋下丁線	21	24	7.5 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
33 5201-10	橋下丁線	22	19	5.3 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
34 5201-6	橋下丁線	22	18	9.3 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
35 5201上層	橋下丁線	24	23	5.1 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
36 5201上層	橋下丁線	24	21	8.1 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
37 5201-2	橋下丁線	14	12	1.7 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下

図号	線名	距離	長短(米)	幅員(m)	勾配(%)	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
38 5201-1(下層)	橋下丁線	17	15	3.9 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
39 5201上層	橋下丁線	15	15	2.5 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
40 5201本架	橋下丁線	20	20	6.4 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
41 5201	橋下丁線	24	19	4.4 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
42 5201-9	橋下丁線	25	25	8.6 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
43 5201-10	橋下丁線	27	20	6.0 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
44 5201-10	橋下丁線	24	22	4.9 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
45 5201本架	橋下丁線	35	34	6.2 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
46 5201上層	橋下丁線	59	53	9.8 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
47 5201-1	橋下丁線	15.5	18	3.7 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
48 5201-11	橋下丁線	24	18	4.6 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
49 5201-12	橋下丁線	24	18	4.7 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
50 5201-4	橋下丁線	24	21	4.1 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
51 5201-1(下層)	橋下丁線	12	12	1.7 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
52 5201-10	橋下丁線	13	13	2.0 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
53 5201本架	橋下丁線	13	13	2.1 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
54 5201-1(下層)	橋下丁線	13	13	2.0 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
55 5201-10	橋下丁線	19	19	4.4 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
56 5201-10	橋下丁線	20	19	6.2 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
57 5201-10	橋下丁線	25	25	12.0 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
58 5201本架	橋下丁線	21	20	9.9 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
59 5201本架	橋下丁線	21	20	10.5 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
60 5201-10	橋下丁線	21	21	9.7 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
61 5201本架	橋下丁線	21	21	11.4 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
62 5201-10	橋下丁線	21	21	10.0 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
63 5201本架	橋下丁線	22	22	11.7 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
64 5201本架	橋下丁線	22	22	11.5 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
65 5201本架	橋下丁線	22	22	12.2 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
66 5201-10	橋下丁線	22	22	12.4 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
67 5201-10	橋下丁線	23.5	23.5	12.0 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
68 5201-1(下層)	橋下丁線	24	24	11.7 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
69 5201-10	橋下丁線	24	24	14.6 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
70 5201-10	橋下丁線	25	24	14.4 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
71 5201-1(下層)	橋下丁線	25	24	16.2 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
72 5201本架	橋下丁線	25	24	18.7 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
73 5201本架	橋下丁線	25	25	16.5 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下
74 5201-6	橋下丁線	27	24	15.8 3.1	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下	橋下

清洲城下町遺跡Ⅵ

土鐘

図版番号	遺構	器種	長さ(mm)	最大径(mm)	頸部径(mm)	孔径(mm)	重量(g)	断面形状	外面彫刻	焼成	残存	分類番号	登録番号	
第45回	75	SD01南ベルト	土鐘	54.3	22.8	18.0	9.0	27.8	ナデ		土師質(良好)	完形	A1	E-756
	76	SD01-2	土鐘	(37.4)	(28.2)	26.0	-	(12.0)	ナデ		土師質(良好)	破片	A1	E-757
	77	SD01北壁	土鐘	(19.2)	(6.8)	5.0	2.0	(0.7)	無	ナデ	土師質(良好)	1/3	A2	E-758
	78	SD01-2	土鐘	(15.5)	(6.7)	6.0	2.0	(0.8)	切り		土師質(良好)	破片	A2	E-759
	79	SD01-6	土鐘	60.2	26.3	14.0	7.0	35.4	ナデ	ナデ	土師質(良好)	完形	B	E-760
	80	SD01北壁	土鐘	(55.7)	(37.7)	18.0	-	(39.0)			土師質(良好)	1/3	B	E-761
	81	SD01北ベルト	土鐘	(35.3)	(24.3)	-	-	(9.1)			土師質(良好)	破片	B	E-762
	82	SD01南ベルト	土鐘	(29.0)	(24.0)	11	7.0	(11.0)	無		土師質(良好)	1/2	B	E-763
	83	SD01北壁	土鐘	(25.0)	(12.8)	(4.0)	-	(1.9)	無		土師質(良好)	破片	B	E-764
	84	SD01-4	土鐘	(63.9)	21.2	7.0	3.0	(21.8)	無	ナデ	土師質(良好)	片端欠損	C1	スス付着
	85	検1	土鐘	61.0	15.1	10.0	4.0	14.8	切り	ナデ	須恵質(良好)	完形	C1	E-766
	86	検1	土鐘	60.0	15.5	12.0	4.0	16.4	切り	ナデ	須恵質(良好)	完形	C1	E-767
	87	検1	土鐘	60.0	15.3	10.0	4.0	15.4	切り	ナデ	須恵質(良好)	完形	C1	自然蝕
	88	SD01南ベルト	土鐘	60.0	14.3	11.0	3.0	14.0	切り	ナデ	須恵質(良好)	完形	C1	E-769
	89	検1	土鐘	59.7	15.3	10.0	35.0	14.0	切り	ナデ	須恵質(良好)	一部少欠損	C1	E-770
	90	SD01-6	土鐘	52.6	13.8	5.0	3.0	10.6	ナデ	ナデ	土師質(良好)	片端少欠損	C1	E-771
	91	SD01-10	土鐘	47.8	13.1	6.0	2.5	(7.0)	無	ナデ	土師質(良好)	両端欠損	C1	E-772
	92	SD01-10	土鐘	47.3	21.0	12.0	6.0	21.4	切り	ナデ	土師質(良好)	完形	C1	E-773
	93	SD01北ベルト	土鐘	36.4	15.0	8.0	4.0	7.8	切り	ナデ	土師質(良好)	完形	C1	E-774
	94	SD01-9	土鐘	(33.7)	9.7	5.0	3.0	(3.4)		ナデ	土師質(良好)	2/3	C1	E-775
	95	SD01NTT覆土	土鐘	(32.7)	(22.2)	15.0	8.0	(11.4)	切り	ナデ	土師質(良好)	1/3	C1	E-776
	96	SD01-10	土鐘	40.0	10.8	7.0	4.0	(4.2)	無		土師質(良好)	片端欠損	C2	E-777
	97	SD01-10	土鐘	(37.3)	9.0	5.0	2.0	(3.0)	切り	ナデ	土師質(良好)	片端欠損	C2	E-778
	98	SD01-10	土鐘	(35.1)	10.1	5.0	2.0	(3.9)	無		土師質(良好)	両端欠損	C2	E-779
	99	SD01-6	土鐘	(34.4)	9.9	5.5	2.0	(3.5)		ナデ	土師質(良好)	2/3	C2	E-780
	100	SD01-2	土鐘	(34.3)	8.0	4.0	2.0	(2.2)	無	ナデ	土師質(良好)	3/4	C2	E-781
	101	SD01-6	土鐘	(23.0)	8.5	(7.0)	3.0	(1.8)	切り		土師質(良好)	破片	C2	E-782
	102	SD01北壁	土鐘	(22.5)	7.4	4.0	2.0	(1.2)	切り	ナデ	土師質(良好)	1/3	C2	E-783
	103	SD01-2	土鐘	(21.7)	(10.0)	5.0	3.0	(1.7)	無		土師質(良好)	1/3	C2	E-784
	104	SD01-10	土鐘	(20.9)	(8.8)	(6.0)	0.25	(1.6)			土師質(良好)	破片	C2	E-785
	105	SD01-10	土鐘	(17.9)	(8.0)	5.0	2.0	(1.1)	無		土師質(良好)	破片	C2	E-786
	106	SD01-10	土鐘	(14.9)	6.6	5.0	2.0	(0.7)	切り		土師質(良好)	破片	C2	E-787
	107	SD01北壁	土鐘	(13.2)	(7.5)	4.0	3.0	(0.7)			土師質(良好)	破片	C2	E-788

木製品

図版番号	遺構番号	産地・材質	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土口縁部状況	分類番号	登録番号		
第46回	1	SD01上層	木	木胎漆器柄	(16.0)	9.2	8.4	赤色漆	黒色漆・文様赤色漆・髹漆	2	A	トデノキ	F-1
	2	SD01上層	木	木胎漆器柄	-	-	8.4	赤色漆	黒色漆・文様赤色漆		A	クリ	F-2
	3	SD01北壁	木	木胎漆器柄	-	-	8.0	赤色漆	黒色漆・髹漆		A	クリ	F-3
	4	SD01北壁	木	木胎漆器柄	-	-	7.8	赤色漆	黒色漆		A	クリ	F-4
	5	SD01上層	木	木胎漆器柄	(12.2)	6.2	5.8	赤色漆	赤色漆・文様赤色漆	1	B	クリ	F-5
	6	SD01上	木	木胎漆器柄	12.8	5.9	7.8	赤色漆	赤色漆・文様赤色漆	8	B	トデノキ	F-6
	7	SD01北壁	木	木胎漆器柄	(12.8)	4.4	5.6	赤色漆	赤色漆・文様赤色漆	1	B	ホオノキ	F-7
	8	SD01-10	木	木胎漆器柄	(14.0)	5.2	7.6	赤色漆	赤色漆・文様赤色漆・底面刻畫	2	B	トデノキ	F-8
	9	SD01	木	木胎漆器柄	-	-	-	赤色漆	赤色漆		B	ケヤキ	F-9
	10	SD01上層	木	木胎漆器柄	-	-	7.0	赤色漆	赤色漆・文様赤色漆		B	シナジ	F-10
	11	SD01	木	木胎漆器柄	-	-	7.8	黒色漆	黒色漆		B		F-11
	12	SD01	木	木胎漆器柄	-	-	7.5	赤色漆	赤色漆・文様赤色漆		B		F-12
	13	SD01北壁	木	木胎漆器柄	(16.2)	(7.3)	(8.4)	赤色漆	赤色漆・底面黒色漆	1	C	カエデ属	F-13
	14	SD01上層	木	木胎漆器柄	8.8	3.1	5.8	赤色漆	赤色漆・文様赤色漆・底面刻畫	10	B	ブナ	F-14
	15	SD02	木	木胎漆器骨合脱	(5.8)	(2.4)	(5.4)	赤色漆	赤色漆	1	B	シカラネ属	F-15
	16	SD01上層	木	動物漆器底	径6.8	-	厚0.6	黒色漆	黒色漆				F-16
	17	SD01北壁	木	動物漆器底	-	-	厚0.55						F-17
	18	SD01上層	木	動物漆器底	-	-	厚0.4						F-18
	19	SD01北壁	木	動物漆器底	長径9.8	幅径6.6	厚1.15						F-19
	20	SD01北壁	木	動物漆器底	(径10.0)	-	厚0.6						F-20
	21	SK02	木	動物漆器底	径10.1	-	厚0.4						F-21
	22	SD01北壁	木	動物漆器底	径10.7	-	厚0.4						F-22
	23	SD01上層	木	動物漆器底	径12.4	-	厚0.9						F-23
	24	SD01	木	動物漆器底	径14.0	-	厚0.9		黒色漆				F-24
	25	SD01上	木	動物漆器底	径15.0	-	厚0.4		黒色漆 塗布あり				F-25



清洲城下町遺跡VI

中世以前	遺構番号	遺構	構成・材質	種類	口径 (cm)	開口高 (cm)	底径 (cm)	内面	外面	出土 口縁部残存状況	備考	発見番号
	1	2501-1	土管筒	灰土管筒	6.0	-	-	-	-	-	-	E-389
	2	2501-2	土管筒	灰土管筒	-	-	-	-	-	-	-	E-390
	3	2501(北)ベネト	土管筒	埴	17.0	-	-	ハツク	ハツク+スチ付	1	-	E-391
	4	2501(北)本壁	土管筒	埴	25.0	-	-	-	スチ付	2	-	E-392
	5	2501(北)本壁	土管筒	埴	33.0	3.4	-	-	ケズリ	2	-	E-393
	6	2501-3	土管筒	埴	33.0	-	-	-	-	2	-	E-394
	7	2501-4	土管筒	埴	34.2	-	-	-	ケズリ	3	-	E-395
	8	2501-4(下層)	土管筒	埴	33.0	-	-	-	-	2	-	E-396
	9	2501-4(下層)	土管筒	埴	33.0	-	-	-	-	2	-	E-397
	10	2501-5	土管筒	埴	31.0	-	-	-	-	2	-	E-398
	11	2501-6	土管筒	埴	32.0	-	-	-	-	2	-	E-399
	12	2501-6(北)ベネト下層	土管筒	埴	32.0	-	-	-	ケズリ	1	-	E-400
	13	2501-6	土管筒	埴	31.0	-	-	-	-	2	-	E-401
	14	2501(北)壁	土管筒	ハツク	36.0	-	-	-	-	2	-	E-402
	15	2501(北)壁	土管筒	埴	32.0	-	-	-	-	2	-	E-403
	16	2501(北)壁	土管筒	埴	36.6	3.7	6.2	埴付	-	11	-	E-404
	17	壁1	赤土系粘土層	埴	32.0	5.5	6.9	-	埴	2	-	E-405
	18	2501(北)壁	赤土系粘土層	埴	32.0	-	-	-	-	2	-	E-406
	19	2501(北)壁	赤土系粘土層	埴	38.0	1.4	-	-	赤土系	2	-	E-407
	20	2501(北)壁	赤土系粘土層	埴	39.0	1.8	-	-	赤土系	2	-	E-408
	21	2501(北)壁	赤土系粘土層	埴	7.0	1.9	4.7	-	赤土系	9	-	E-409
	22	2501(北)ベネト	赤土系粘土層	埴	8.0	1.6	5.2	-	赤土系	7	-	E-410
	23	2502	赤土系粘土層	埴	28.0	-	-	-	-	1	-	E-411
	24	2503	赤土系粘土層	埴(瓦口)	29.4	10.7	13.0	-	ケズリ(壁下)	3	-	E-412
	25	2501(北)ベネト	赤土系粘土層	埴	34.0	-	-	自然埴	自然埴	1	-	E-413

1層目遺構表

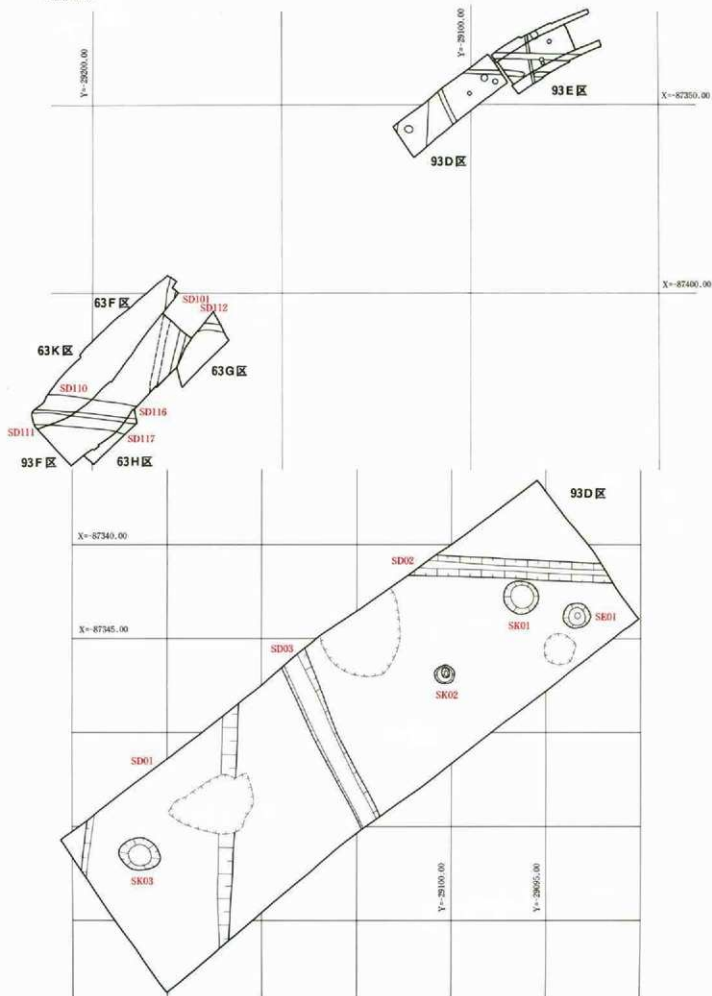
発見番号	遺構	構成・材質	種類	口径	開口高	底径	内面	外面	出土 口縁部残存状況	備考	発見番号		
第35層	1	3502(5)12層北部分	焼土管筒	灰土管筒	31.0	-	-	埴	埴・埴	4	2	E-414	
	2	3502(5)12層北部分	焼土管筒	灰土管筒	32.0	-	-	埴	埴・埴	2	2	E-415	
	3	3502(5)12層北部分	焼土管筒	灰土管筒	32.0	-	-	埴	埴・埴	1	2	E-416	
	4	3502(5)12層北部分	焼土管筒	灰土管筒	32.0	-	-	埴	埴・埴	2	2	E-417	
	5	3502(5)12層北部分	焼土管筒	灰土管筒	32.0	-	-	埴	埴・埴	2	2	E-418	
	6	3502(5)12層北部分	焼土管筒	灰土管筒	32.0	4.7	(4.4)	埴	埴・埴	2	2	E-419	
	7	3502(5)12層北部分	焼土管筒	灰土管筒	32.0	-	-	埴	埴・埴	2	2	E-420	
	8	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	38.0	2.4	3.0	埴	埴・赤土系	2	2	E-421	
	9	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	-	-	埴	埴	4	2	E-422	
	10	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	-	-	埴	埴	4	2	E-423	
	11	3502(5)12層北部分	焼土管筒	丸埴	39.0	2.6	3.0	埴	埴・埴+スチ付	3	2	E-424	
	12	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	2.5	3.0	埴	埴・埴+スチ付	5	2	E-425	
	13	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	2.5	3.0	埴	埴・埴+スチ付	9	2	E-426	
	14	3502(5)12層北部分	焼土管筒	丸埴	39.0	2.2	3.0	埴	埴付	1	2	E-427	
	15	3502(5)12層北部分	焼土管筒	丸埴	39.0	2.2	3.0	埴	埴付	2	2	E-428	
	第36層	16	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	-	-	埴	埴	1	2	E-429
		17	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	-	-	埴	埴	1	2	E-430
		18	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	-	-	埴	埴	1	2	E-431
		19	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	-	-	埴	埴	1	2	E-432
		20	3502(5)12層北部分	焼土管筒	埴	39.0	-	-	埴	埴	1	2	E-433
		21	3502(5)12層北部分	埴	埴	37.0	-	-	埴	埴	1	2	E-434
		22	3502(5)12層北部分	土管筒	丸埴	39.0	2.2	3.0	埴	金網にコダマ付・スチ付	1	2	E-435
		23	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.2	3.0	埴	金網にスチ付	1	2	E-436
		24	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.2	3.0	埴	金網にスチ付	2	2	E-437
		25	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.2	3.0	埴	金網にスチ付	1	2	E-438
26		3502(5)12層北部分	土管筒	丸	-	4.8	-	-	-	2	2	E-439	
27		3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.5	1.8	ナブ	ナブ・裏面に埴	8	2	E-440	
28		3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.5	1.8	ナブ	ナブ	6	2	E-441	
29		3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.5	1.8	ナブ	ナブ	8	2	E-442	
30		3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.2	1.5	ナブ	ナブ	6	2	E-443	
31	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.2	1.5	ナブ	ナブ	4	2	E-444		
32	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.0	1.2	ナブ	ナブ	4	2	E-445		
33	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.4	1.7	ナブ	ナブ・裏面に埴	12	2	E-446		
34	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.0	2.3	ナブ	ナブ	4	2	E-447		
35	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.0	2.3	ナブ	ナブ	5	2	E-448		
36	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.9	2.2	ナブ	金網付	2	2	E-449		
37	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	1.9	2.2	ナブ	金網付	6	2	E-450		
38	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.2	2.5	ナブ	金網にスチ付	3	2	E-451		
39	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.5	2.8	ナブ	金網付	1	2	E-452		
40	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.0	2.3	ナブ	金網付	6	2	E-453		
41	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.8	3.1	ナブ	金網付・埴	2	2	E-454		
42	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.8	3.1	ナブ	金網付	2	2	E-455		
43	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.3	2.6	ナブ	金網付	3	2	E-456		
44	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.5	2.8	ナブ	金網付	3	2	E-457		
45	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.9	3.2	ナブ	金網付・ケル付	2	2	E-458		
46	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	2.2	2.5	ナブ	埴・埴	2	2	E-459		
47	3502(5)12層北部分	土管筒	埴	39.0	-	-	埴	埴	3	2	E-460		
48	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	-	-	埴	埴	5	2	E-461		
49	3502(5)12層北部分	土管筒	埴	39.0	4.1	-	-	スチ付	1	2	E-462		
50	3502(5)12層北部分	土管筒	埴	-	-	-	-	-	1	2	E-463		
51	3502(5)12層北部分	土管筒	埴	-	-	-	-	-	1	2	E-464		
52	3502(5)12層北部分	土管筒	埴	-	-	-	-	-	1	2	E-465		
53	3502(5)12層北部分	土管筒	丸	39.0	12.6	11.9	9.7	埴	埴・赤土系	11	2	E-466	



## 遺構図版 写真図版



- \*遺構図版の縮尺は1:200、1:1000である
- \*写真図版に縮尺を記していないものはすべて1:3  
(縮尺はあくまで目安)
- \*写真下の数字は挿図の図版番号を示す  
(例：16-1は第16図-1の遺物を示す)





調査区全景 (北東から)



SK03 (東から)



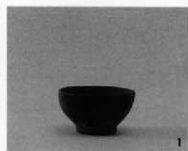
SE01 (西から)



SD01遺物出土状況 (SD01-10) (東から)



SD01遺物出土状況 (SD01-9) (東から)



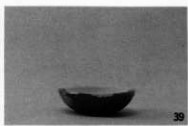




31  
18-31



37  
18-37



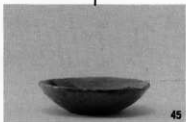
39  
18-39



41  
18-41



38  
18-38



45  
18-45



52  
18-52



53  
18-53



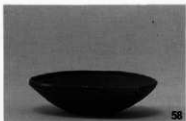
55  
18-55



56  
18-56



57  
18-57



58  
18-58



59  
18-59



15  
20-15(1:5)



23  
21-23(1:5)

写真図版 5 SD01出土遺物



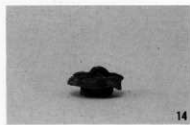
1  
24-1



5  
24-5



9  
24-9



14  
24-14



15  
24-15



18  
24-18



42  
25-42



48  
25-48



22  
24-22



35  
25-35



44  
25-44



9  
30-9



28  
30-28



15  
37-15(1:5)



23  
37-23(1:5)



25  
37-25(1:4)



7  
31-7



32  
31-32



67  
31-67



69  
31-69



106  
32-106



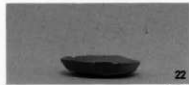
113  
32-113



11  
33-11



18  
33-18



22  
33-22



39  
33-39



52  
33-52



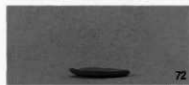
57  
33-57



62  
33-62



63  
33-63



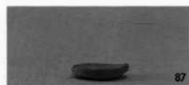
72  
33-72



77  
33-77



79  
33-79



87  
33-87



86  
43-86



89  
43-89



96  
43-96



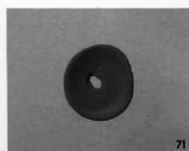
97  
43-97



100  
43-100



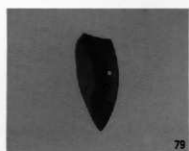
101  
43-101



71  
43-71



78  
43-78



79  
43-79





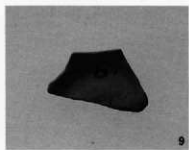
41-1



41-2



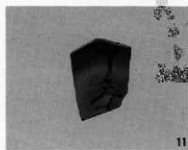
41-3



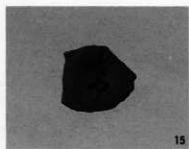
41-9



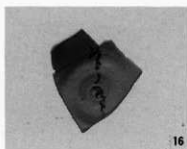
41-10



41-11



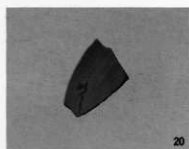
41-15



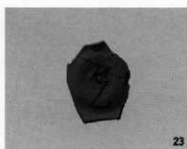
41-16



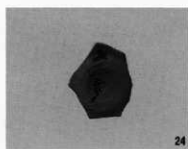
41-17



41-20



41-23



41-24



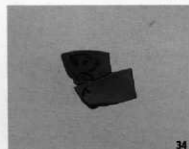
41-26



41-29



42-31



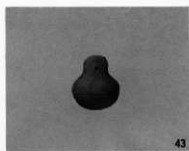
42-34



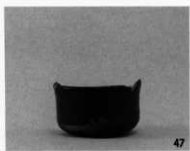
42-38



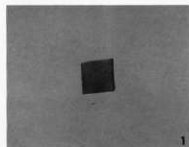
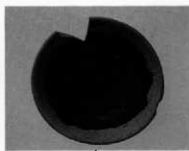
42-44



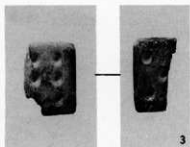
43  
40-43



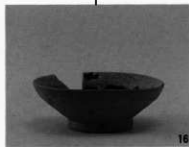
47  
40-47



1  
50-1



3  
50-3 (2種)



16  
52-16



4  
53-4



5  
53-5



6  
53-6



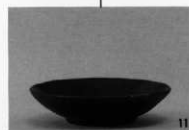
10  
53-10



12  
53-12



13  
53-13



11  
53-11



22  
54-22 (1:5)



24  
54-24 (1:5)



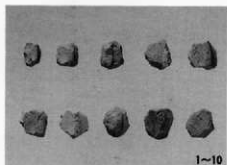
26  
54-26



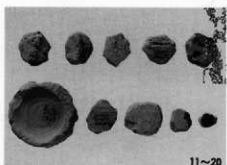
52  
54-52



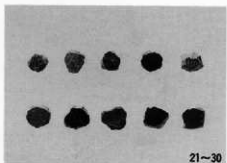
53  
54-53



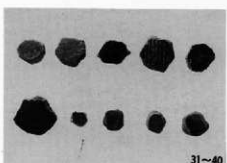
1~10  
44-1-10



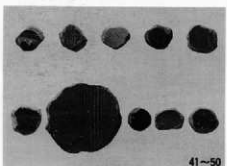
11~20  
44-11-20



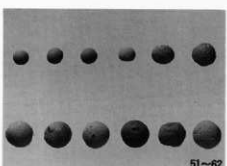
21~30  
44-21-30



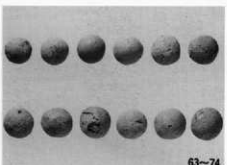
31~40  
44-31-40



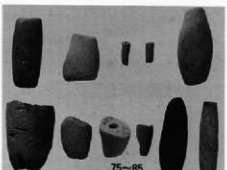
41~50  
44-41-50



51~62  
45-51-62



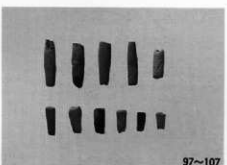
63~74  
45-63-74



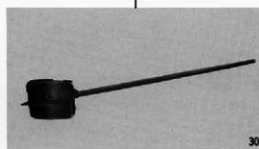
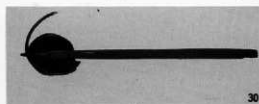
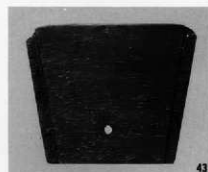
75~85  
45-75-85



86~96  
45-86-96



97~107  
45-97-107





1



2



3



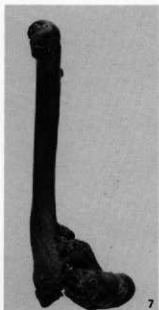
4



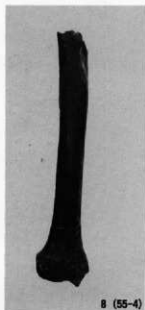
5 (55-3)



6



7



8 (55-4)



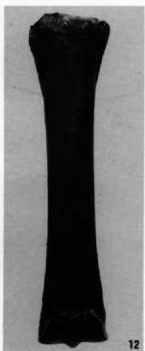
9 (55-1a)



9 (55-1b)



11 (55-2)



12

1~3 スッポン 4~8 イヌ 9~11 ウシ 12 ウマ  
(1~5, 11, 12年1:2, 7, 8年2:3, 9, 10年1:3)

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	きよすじょうかまちいせき 6							
書名	清洲城下町遺跡VI							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第65集							
編著者名	蟹江吉弘・堀本真美子・高田恵理子・織田眞弓							
編集機関	財団法人 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567-67-4161							
発行年月日	西暦 1996年8月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
清洲城下町	西春日井郡清洲町	23346	21002	35 12 44	136 50 49	19930716 19930920	500	県道清洲 新川線建 設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
清洲城下町	城館跡	戦国時代	溝 土坑 井戸	瀬戸美濃窯産陶器 中国窯産陶磁器 土師器皿 土師器鍋釜 木製品 他		区画溝 全出土遺物の9割を 占める多量の土師器皿		

---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第65集

清洲城下町遺跡 VI

1996年8月30日

編集 財団法人  
発行 愛知県埋蔵文化財センター

印刷 東海プリント社

---